R-Class

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
(環境マーク)	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
（▷ ページ）	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/h を超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i メルセデス･ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

E

N

P

S

V

数字

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環 境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

セレクターレバーを操作するときの注意

セレクターレバーの位置

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、センターコンソールではなく、ステアリングの右側にあります。

セレクターレバーの操作方法

方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こすおそれがあります。

また、センターコンソールにセレクターレバーがある車両と比べると、セレクターレバーの操作方法が大きく異なります。詳しくは（▷137 ページ）をご覧ください。

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切な作業を行なうために必要な専門知識と専用工具、ならびに設備が備わっています。特に安全に関わる作業について当てはまります。

詳しくは整備手帳をご覧ください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

- 安全に関わる作業
- 点検および整備
- 修理作業
- 装備などの変更や装着、加工作業
- 電気装備に関わる作業

点検整備は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

保証の適用

車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の適用外になります。

診断ソケット

診断ソケットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場での診断機器の接続のために装備されています。

診断ソケットに機器を接続すると、排出ガスのモニター情報がリセットされるおそれがあります。これにより、次回の車両検査時に排出ガス基準に適合しなくなることがあります。

⚠ **警 告**

診断ソケットに機器を接続すると、車両システムの作動に影響を及ぼすおそれがあります。これにより、車両安全性が損なわれます。事故の危険性があります。

診断ソケットには、いかなる機器も接続しないでください。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をご覧ください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込むおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物は左右のウインドウより下の位置に積んでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用して、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷42 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。

  やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアやリヤドアウインドウのチャイルドプルーフロック（▷50 ページ）を活用してください。

ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * から身体を出さない

子供がドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷128 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、シフトポジションが P、N 以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

シフトポジションが P になっていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- シフトポジションを D、R にするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- シフトポジションを N にしたままで走行し続けないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで走行速度を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 完全に停車する前に、シフトポジションを P にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにシフトポジションを P か N に戻すように心がけてください。R になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

給油に関する注意事項

給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルなどの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。純正でない、または承認されていない製品を使用すると、エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

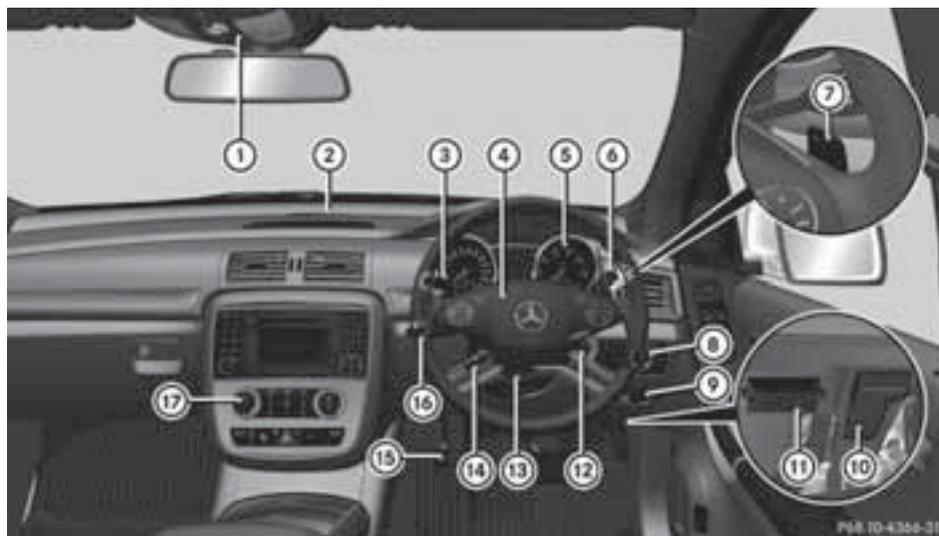
保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。

データを使用して、車両の動きをさかのぼって調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

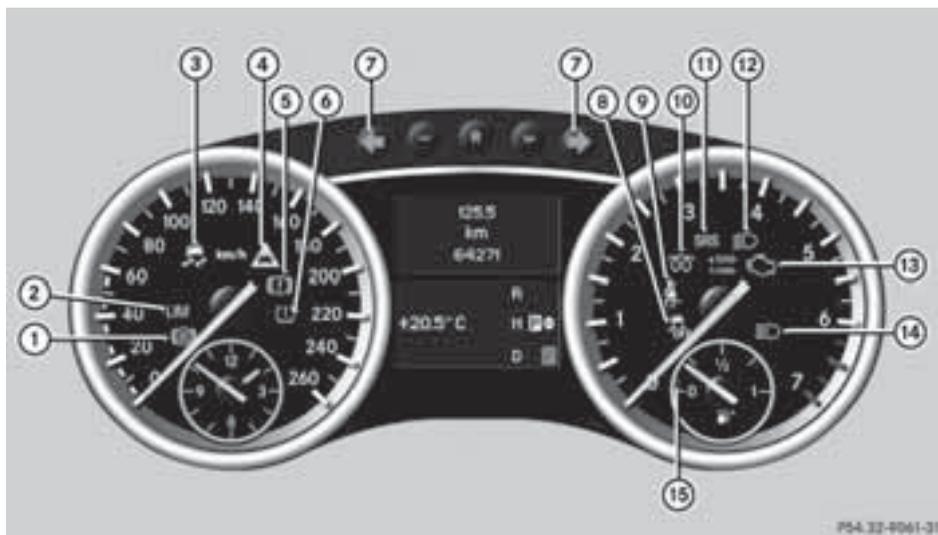
インストルメントパネル

	名称	ページ
①	前席上方の操作部	28
②	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	183
③	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	174 179
④	ホーン	
⑤	メーターパネル	146
⑥	セレクターレバー	128 137
⑦	パドル	142
⑧	ライトスイッチ	109
⑨	パーキングブレーキ解除ハンドル	132
⑩	ボンネットロック解除レバー	250

	名称	ページ
⑪	診断ソケット	
⑫	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ *	82 83
⑬	ステアリングロック解除ハンドル *	97
⑭	ステアリング調整レバー *	97
⑮	パーキングブレーキペダル	132
⑯	コンビネーションスイッチ ヘッドライト 方向指示 ワイパー リアワイパー	 112 112 118 120
⑰	エアコンディショナーコントロールパネル	202

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

	名称	ページ
①	スピードメーター	146
②	スピードメーター単位表示	159
③	照度調整ボタン（暗）	147
④	リセットボタン	147
⑤	照度調整ボタン（明）	147
⑥	タコメーター	146
⑦	燃料計	147
⑧	マルチファンクションディスプレイ	148
⑨	時計	147

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	ABS 警告灯	307
②	可変スピードリミッター表示灯	179
③	ESP® 表示灯	54
④	日本仕様車では機能しません	
⑤	ブレーキ警告灯	273
⑥	日本仕様車には装備されません	
⑦	方向指示表示灯	112
⑧	ESP® オフ表示灯	57

	名称	ページ
⑨	シートベルト警告灯	106
⑩	日本仕様車には装備されません	
⑪	SRS 警告灯	33
⑫	ヘッドライト表示灯	110
⑬	エンジン警告灯	311
⑭	ハイビーム表示灯	112 113
⑮	燃料残量警告灯	147

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	148
②	COMAND システム	別冊
③	[+] [−] 設定スイッチ / 音量スイッチ	149
	通話開始 / 終了スイッチ（電話）	149
	音声認識スイッチ	149

	名称	ページ
④	スクロールスイッチ	149
	表示切り替えスイッチ	149
	[OFF] 音声認識解除スイッチ	149

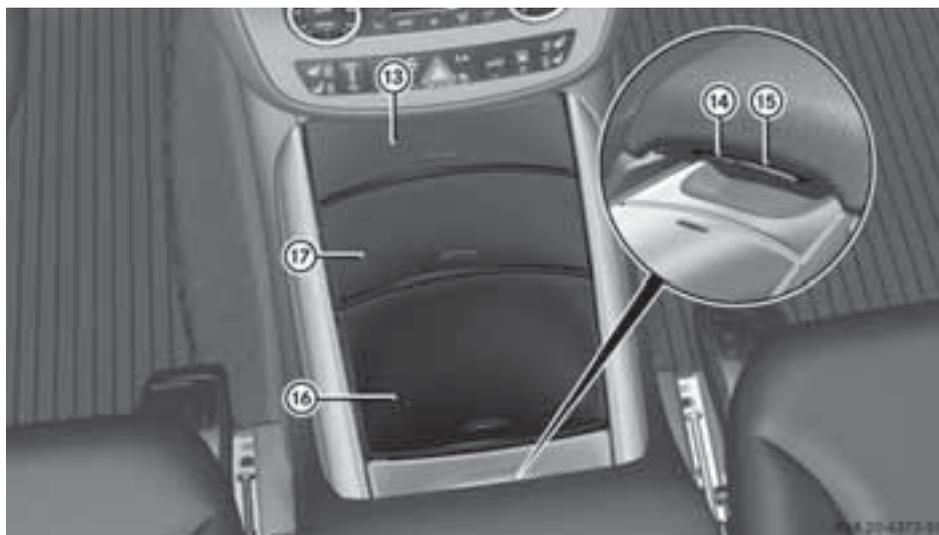
センターコンソール

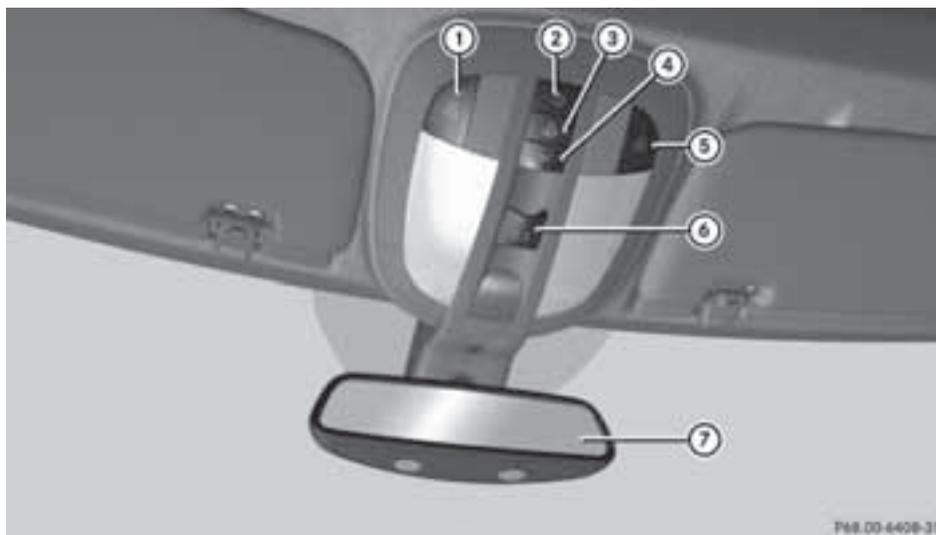
センターコンソール上部

	名称	ページ
①	COMAND システム	別冊
②	シートヒータースイッチ	94
③	日本仕様車には装備されません	
④	日本仕様車には装備されません	
⑤	日本仕様車には装備されません	
⑥	走行モード選択スイッチ	141
⑦	助手席エアバッグオフ表示灯	45

	名称	ページ
⑧	非常点滅灯スイッチ	113
⑨	盗難防止警報システム表示灯 *	58
⑩	パークトロニックオフスイッチ	185
⑪	ESP® オフスイッチ	56
⑫	日本仕様車には装備されません	

* オプションや仕様により、異なる装備です。

センターコンソール下部

	名称	ページ
⑬	センターコンソールの小物入れ	222
⑭	フロントアームレスト上段小物入れのロック解除ノブ	222
⑮	フロントアームレスト下段小物入れのロック解除ノブ	222
⑯	センターコンソールのカップホルダー	235
⑰	灰皿	238
	ライター	239

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	フロント読書灯（左側）スイッチ	114
②	サードシートルームランプスイッチ	114
③	点灯モード選択スイッチ	114
④	フロントルームランプスイッチ	114
⑤	フロント読書灯（右側）スイッチ	114
⑥	電動ブラインド / パノラミックスライディングルーフスイッチ *	217 218
⑦	ルームミラー	99

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアの操作部

	名称	ページ
①	ドアロックスイッチ	75
②	ドアレバー	74
③	ドアミラー調整スイッチ	100
④	ドアミラー選択スイッチ	100
	ドアミラー格納 / 展開スイッチ	100
⑤	ドアウインドウスイッチ	122
⑥	リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックスイッチ	51
⑦	ベンチレーションウインドウスイッチ *	125
⑧	テールゲートスイッチ *	80

* オプションや仕様により、異なる装備です。

乗員安全装備

乗員保護装置

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置）は、効果を高めるために補い合い、連携する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置を適切に機能させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷86 ～ 90、107、108 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷104 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷35 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ⓘ エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。これにより、けがの危険性を減らすことができます。

したがって、衝突時にエアバッグが作動したときは、エアバッグは正しく着用されたシートベルトの保護機能に加えて効果を発揮します。

⚠ **警 告**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ 警告

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。

- シートベルトやベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

衝突時の衝撃の強さが乗員保護装置が作動するレベルに達していても、エアバッグとシートベルトテンショナーが作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、絶対に車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ 警告

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ⓘ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向、および以下のような事故の種類に基づいて作動します。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 横転

ⓘ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

中央セカンドシートを除くシートベルトにはシートベルトテンショナーが装備されています。

シートベルトテンショナーは、車の縦方向に大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき

左右セカンドシートとサードシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用に関わらず作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 前方または後方からの衝突の際に、衝撃を受けた最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき

- 側面衝突の際に、車両の横方向に強い衝撃を検知したとき
- 車両が横転するような特定の状況で、シートベルトテンショナーの作動が乗員保護効果を高めるとシステムが判断したとき

シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

⚠ 警告

シートベルトテンショナーが作動すると、次に事故が発生した場合は乗員保護機能が得られません。そのため、作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス·ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス·ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

ベルトフォースリミッター

中央セカンドシートを除くシートベルトにはベルトフォースリミッターが装備されています。

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

エアバッグ

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。これにより、乗員の身体への衝撃を分散·軽減します。

エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。エアバッグの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

⚠ **警告**

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストが目の高さにあり、後頭部が支えられるように調整してください。
- 身長150cm未満または12歳未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後方に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- カップホルダーなどのアクセサリーを、ドアに取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

⚠ **警告**

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- フロント / 左右セカンドシートのバックレスト側面

⚠ **警告**

エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。

⚠ **警告**

関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。

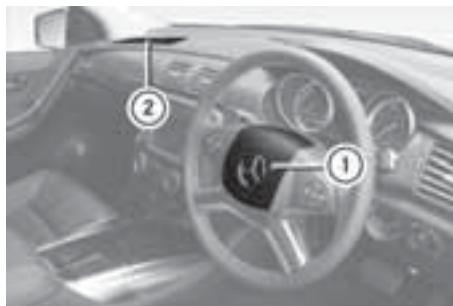
作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。次に事故が発生した場合は、エアバッグによる乗員保護機能が得られません。

⚠ **警告**

未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
フロントサイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
セカンドシートサイドバッグ	左右セカンドシートのバックレスト側面
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

運転席 / 助手席エアバッグ

運転席エアバッグ① / 助手席エアバッグ②は、縦方向からの強い衝撃を受けると作動し、運転席 / 助手席乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席エアバッグ / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき

車両が横転したときは、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知しない限り、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。

助手席エアバッグ ② は、助手席に乗員が乗車しているときにのみ作動します。

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。作動したエアバッグは交換する必要があります。

i 縦方向からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

フロント / セカンドシートサイドバッグ

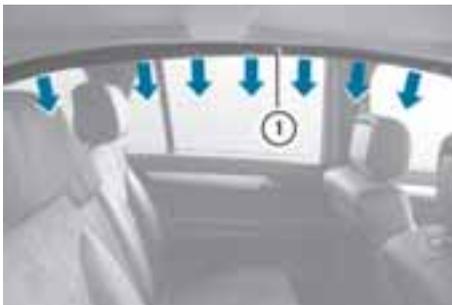
⚠ 警 告

シートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のフロントサイドバッグ ① / セカンドシートサイドバッグ② が作動し、乗員の胸部への衝撃を分散·軽減します。

サイドバッグは、シートベルトの着用や運転席 / 助手席エアバッグの作動、シートベルトテンショナーの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向に一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

車両が横転したときは、車両の横方向に一定以上の衝撃を検知し、サイドバッグの作動がシートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断しない限り、基本的に作動しません。

ウインドウバッグ

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグ①が作動し、頭部への衝撃を分散・軽減します。

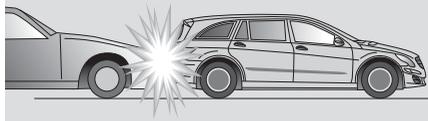
ウインドウバッグは、助手席の乗員の有無、シートベルトの着用、運転席 / 助手席エアバッグの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向に一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

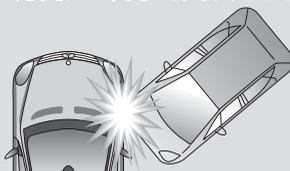
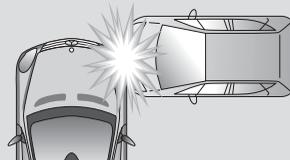
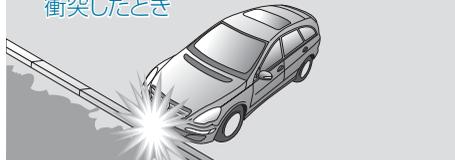
車両が横転したときは、ウインドウバッグの作動がシートベルトによる乗員保護効果を高めるとシステムが判断したときに作動します。

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE®

PRE-SAFE®（プレセーフ）は、車が危険な状態にあることを感知したときに、乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- 車が物理的な限界を超えて強いアンダーステア状態やオーバーステア状態になったときなど、車の姿勢が危険な状態になったとき

PRE-SAFE® は、約 30km/h 以上で走行しているとき、以下のように作動します。

- 前席シートベルトを引き込みます。
- メモリー付パワーシート装備車は、助手席シートが不適切な位置にある場合は、助手席シートを適正な位置に調整します。
- 車が横滑りをすると、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が危険な状態から脱すると、引き込まれたシートベルトテンショナーの張力が緩みます。また、助手席シートの位置 *、ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * の開き具合を再度調整することができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

前席シートベルトの引き込みが解除されないとき

▶ 停車しているときに、シートベルトの張力が緩むまで、バックレスト角度やシートの前後位置を後方の位置に動かします。

シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

⚠ **警 告**

シートを調整するときは、乗員がけがをしないように注意してください。

! 助手席シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方および上方に動くことにより、運転席と助手席乗員の頭部をより効果的に支持し、頭部や頸部の保護度合いを高めます。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

⚠ **警 告**

フロントシートには、必ず純正のシートカバーだけを使用してください。市販のシートカバーを使用すると、NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故の際に NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、ヘッドレストが前方に動いた状態のままになります。このときは、運転席と助手席のヘッドレストをリセットしてください（▷314 ページ）。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

子供を乗車させるときは、子供の体格や年齢、体重に合ったチャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。

チャイルドセーフティシートは後席に装着し、走行している間は、チャイルドセーフティシートにより子供の身体を固定してください。

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています（▷44 ページ）。

⚠ **警告**

急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに、子供が重大なけがや致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 身長 150cm 未満および 12 歳未満の子供は、適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗車させ、確実に身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートの使用が必要になります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- 絶対に子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに子供を保護することができなくなり、子供が車内の部品に激しくぶつかったり、致命的なけがをするおそれがあります。

助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側のサンバイザーに貼付されています。

- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着してください。

  また、助手席をもっとも後ろの位置にしてください。
- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

⚠ **警 告**

- チャイルドセーフティシートは、左右セカンドシートまたはサードシートに装着してください。子供の安全性が高くなります。
- 左右セカンドシートまたはサードシートにチャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストを起こして確実にロックしてください。
- チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接している必要があります。そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正品と交換してください。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になるため熱中症を起こしたり、寒冷時には車内が低温になるため命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。

⚠ **警 告**

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。

- 事故
- 急ブレーキ
- 急な進路変更時

車内に重い物や硬い物を積むときは、確実に固定してください。荷物を積むときの注意点ついて、詳しくは（▷231ページ）をご覧ください。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 13kg 以下	新生児〜18 カ月位
デュオプラス	9 〜 18kg	8 カ月〜4 歳位
キッド または キッドフィックス	15 〜 36kg	3 歳半〜12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席エアバッグオフ表示灯

チャイルドセーフティシート検知システム装備車のための表示灯です。日本仕様には設定のない装備のため、表示灯としては機能しません。

イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに、助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

左右セカンドシートとサードシートに、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

⚠ 警 告

この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗せるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗せるときは、チャイルドセーフティシートを左右セカンドシートまたはサードシートのシートベルトで固定してください。

⚠ 警 告

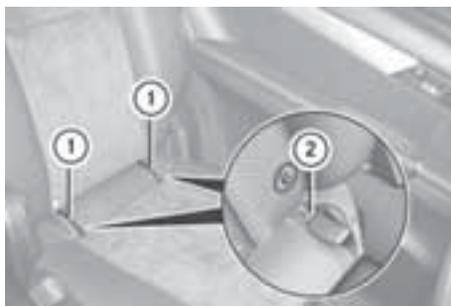
- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- 安全のため、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートは必ず左右セカンドシートまたはサードシートの固定装置に装着してください。

- 正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず固定装置に確実に装着されていることを確認してください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストを起こして確実にロックしてください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護効果が得られなくなるおそれがあります。その結果、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

セカンドシートにチャイルドセーフティシートを装着する

左右セカンドシート

▶ シートクッションのカバーの切れ目①を開きます。

▶ 内部の固定装置②にチャイルドセーフティシートを装着します。

サードシートにチャイルドセーフティシートを装着する

サードシート

▶ バックレスト下部のカバー③を取り外します。

▶ 内部の固定装置④にチャイルドセーフティシートを装着します。

テザーアンカー

⚠ **警 告**

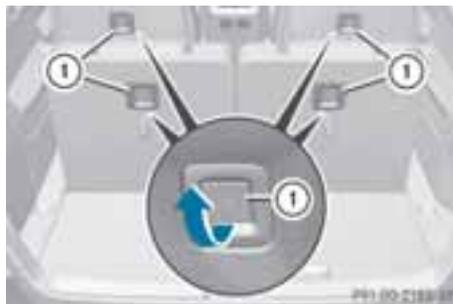
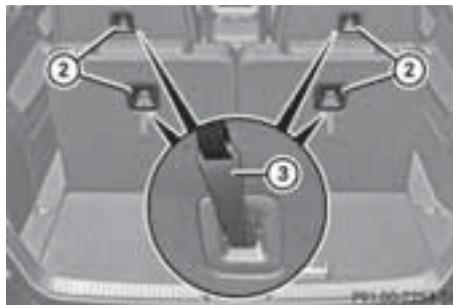
- テザーベルトをテザーアンカーに取り付けた後は、シートが確実にロックされていて、バックレストが垂直に近い角度で確実に固定されていることを確認してください。
- セカンドシートは、前側のロックインジケーターが隠れていて、後側のロックインジケーターが少し見えている状態のときにのみロックされています（▷93 ページ）。
- バックレストが確実にロックされていないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにバックレストが前方に動き、致命的なけがをするおそれがあります。

左右セカンドシートとサードシートの背面にテザーアンカーを装備しています。

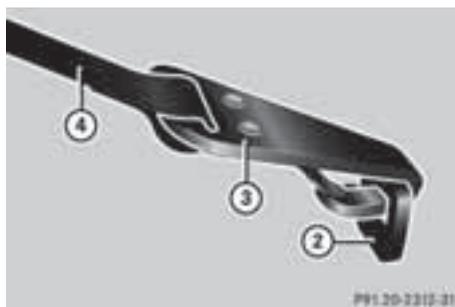
それぞれのテザーアンカーには、テザーベルトを使用して、テザーアンカーに対応した専用チャイルドセーフティシートを装着することができます。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故のときなどにチャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

ℹ 純正チャイルドセーフティシートには、テザーベルトを装備していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

テザーアンカーを使用する

▶ テザーアンカーのカバー①を取り外します。

▶ ヘッドレストをいっぱいまで上げます。

▶ バックレストのロックを解除して、前方に少し傾けます。

❗ ロックを解除すると、セカンドシートの場合はシートが前方に動きながら下がり、サードシートの場合はシートクッションが前方に起き上がります。シートに身体を挟まれたり、ぶつけないように注意してください。

▶ ヘッドレストの 2 本の支柱の間にテザーベルト④を通します。

シート背後にラゲッジルームカバー収納リール（▷231 ページ）を取り付けてあるときは、テザーベルト④がバックレストとラゲッジルームカバー収納リールの間を通るようにします。

⚠ **警 告**

サードシートにチャイルドセーフティシートを装着するときは、テザーフック③をバックレスト背面のストラップにかけないでください。チャイルドセーフティシートが正しく固定できないため、事故のとき、けがをするおそれがあります。

▶ テザーフック③をテザーアンカー②にかけます。

以下を確認してください。

- テザーフック③がテザーアンカー②にかかっている
- テザーベルト④がねじれていない
- ラゲッジルームカバー収納リールを装着しているときは、テザーベルト④がバックレストとラゲッジルームカバー収納リールの間を通っている

▶ バックレストを垂直に近い角度に戻して確実にロックします。

セカンドシートは、前側のロックインジケーターが隠れていて、後側のロックインジケーターが少し見えている状態のときにのみロックされています（▷93 ページ）。

▶ 必要であれば、ヘッドレストを少し下げます。

テザーベルト④の動きが妨げられていないことを確認してください。

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従い、テザーベルト④を締めます。

装着できる ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置には、下表のカテゴリーおよびサイズ等級に属している、ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着できます。

<table>
<tr><th>カテゴリー（適応体重）</th><th>キャリコット（携帯式ベッド）</th><th>0
（10kg まで）</th><th>0+
（13kg まで）</th><th colspan="2">I
（9 ～ 18kg）</th></tr>
<tr><td>サイズ等級（装着器具タイプ）</td><td>F
（ISO/L1）
G
（ISO/L2）</td><td>E
（ISO/R1）</td><td>C
（ISO/R3）
D
（ISO/R2）
E
（ISO/R1）</td><td>C
（ISO/R3）
D
（ISO/R2）</td><td>A
（ISO/F3）
B
（ISO/F2）
B1
（ISO/F2X）</td></tr>
<tr><td>左右セカンドシート</td><td rowspan="2">装着することはできません。</td><td colspan="3">ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応であれば、固定装置で装着することができます。</td><td rowspan="2">ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応であれば、固定装置で装着することができます。</td></tr>
<tr><td>サードシート</td><td colspan="3">装着することはできません。</td></tr>
</table>

詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ チャイルドセーフティシートのカテゴリーやサイズ等級については、チャイルドセーフティシート本体に装着されているステッカーやチャイルドセーフティシートの取扱説明書をご覧ください。

チャイルドプルーフロック

⚠ 警告

子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやリアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

⚠ 警告

- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になるため熱中症を起こしたり、寒冷時には車内が低温になるため命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定すると、車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ 設定するときは、レバーを設定側②に操作します。

▶ 車内のドアレバーを引いて、チャイルドプルーフロックが設定されていることを確認します。

▶ 解除するときは、レバーを解除側①に操作します。

ℹ チャイルドプルーフロックが設定されていても、車が解錠されているときは、車外のドアハンドルでリアドアを開くことができます。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウ操作ができなくなります。

▶ スイッチ①を押して、押された状態にします。

リアドアのスイッチからはリアドアウインドウが操作できなくなります。

▶ 解除するときは、スイッチ①を押して、押されていない状態にします。

ℹ チャイルドプルーフロックの設定／解除にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック･ブレーキング･システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）

安全上の重要事項

⚠ **警 告**

スピードの出しすぎなどの無謀な運転をすると、事故の危険性が非常に高まります。カーブを走行するときや、濡れた路面または滑りやすい路面を走行するとき、先行車との車間距離が短すぎるときなどは、特に危険です。

本書に記載されている走行安全装備は事故の危険性を低減するものではありません。また、各システムの機能には物理的な限界があります。

運転者は、路面や天候の状況に合わせて常に慎重に運転してください。周囲の交通状況に注意しながら、十分な車間距離を確保してください。

ℹ 走行安全装備は、タイヤが路面に十分接地しているときにのみ、十分な効果を発揮します。タイヤに関する情報やタイヤの摩耗については「タイヤとホイール」をご覧ください（▷259 ページ）。

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ **警 告**

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP® の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

ブレーキ操作をする

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。

ABS が作動したとき

▶ 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なとき

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

⚠ **警 告**

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

ABS により、車輪のロックが抑えられます。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ **警 告**

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

i BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

i バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

アダプティブブレーキランプ

約 25km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個別のタイヤにブレーキをかけたり、エンジンの出力を制御して、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

この車には、4 輪駆動システムのために専用に開発された 4-ESP® が装備されています。

発進時または走行中に ESP® 表示灯 [ESP] が点滅したときは、ESP® が作動しています。

[ESP] ESP® 表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 警 告

ESP® 表示灯 [ESP] が点滅したときは、以下のようにしてください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。
- 路面と天候の状況に合わせて運転してください。

車輪が空転したり、車が横滑りするおそれがあります。

⚠ 警 告

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

! ESP® が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して点検などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。ダイナモメーターを使用する前には、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

i エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示され、ESP® 表示灯 [] や ESP® オフ表示灯 []、ABS 警告灯 [] が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、故障 / 警告メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

i 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が作動することがあります（走行中に ESP® 表示灯 [] が点滅したままになります）。

i ABS が故障して ABS 警告灯 [] が点灯しているときは、ESP® の機能も解除されています。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ETS

ETS は、ESP® の機能の一部です。

ETS は、滑りやすい路面などで車輪が空転したときにブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

この車には、4 輪駆動システムのために専用に開発された 4ETS が装備されています。

ESP® の機能が解除されている場合でも、ETS の機能は解除されません。

⚠ **警 告**

ETS は駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。

ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP® の機能の解除

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行するとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときはESP® の機能を解除します。

> ⚠ **警告**
>
> ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
>
> - 急ハンドル
> - 急ブレーキ
> - 急発進、急加速
> - 急激なエンジンブレーキ

> ⚠ **警告**
>
> ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジンの出力制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- 駆動輪が空転した場合、ブレーキ制御による駆動輪の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ESP® の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP® 表示灯 [表示灯] が点滅しますが、ESP® は作動しません。

ESP® の機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESP® オフスイッチ①を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯します。

ESP® を待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度 ESP® オフスイッチ①を押します。

ESP® が待機状態になり、メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が消灯します。

ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 警 告

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯 が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。ESP® 表示灯 と ESP® オフ表示灯 が点灯しているときは、故障のため、ESP® の機能が解除されています。

特定の状況では、車が横滑りするおそれがあります。

路面と天候の状況に合わせて運転してください。

EBD

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を検知・制御し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ 警 告

EBD に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

盗難防止システム *

イモビライザー

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させないようにする機能です。

キーによりイモビライザーを作動させる

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

キーレスゴー * によりイモビライザーを作動させる

▶ イグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開きます。

イモビライザーを解除する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

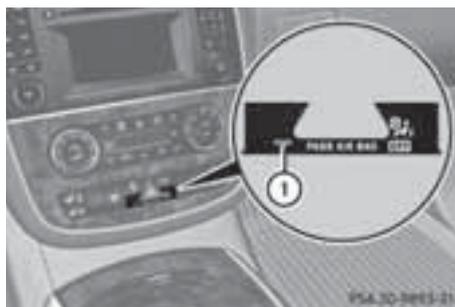
ℹ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

盗難防止警報システム

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。

- ドアが開けられたとき
- テールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、車を施錠した後、エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠し、開いたときも作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

表示灯①が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

システムを解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠します。

表示灯①が消灯します。

警報を停止する

キーによる操作

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

キーレスゴー * による操作

▶ キーが左右側アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときに、キーがある側のドアハンドルに触れるか、テールゲートハンドルを引きます。

または

▶ キーがテールゲート側アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときに、テールゲートのハンドルを引きます。

または

▶ キーが車室内アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

ⓘ ドアやテールゲートを開けられたり、ボンネットのロックを解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

ⓘ システムを待機状態にするときはボンネットが完全に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にすると、ボンネットが開けられても警報は作動しません。

ⓘ システムが待機状態のときに車内からドアやテールゲートを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

けん引防止機能

盗難防止警報システムが待機状態のとき、車が傾いたことを検知すると、けん引防止機能が作動し、サイレンと非常点滅灯の点滅による警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

約 30 秒後にけん引防止警報機能が待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠します。

けん引防止機能を解除する

誤作動を防ぐため、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて運搬するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにけん引防止機能の設定を表示させます（▷168 ページ）。

▶ ステアリングの [−] を押し、" オフ " を選択します。

けん引防止機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

または

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにエンジン停止時の表示の設定を表示させます（▷164 ページ）。

▶ [+] または [−] を押し、" ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ " を選択します。

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

マルチファンクションディスプレイに " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾝ " と表示されます。

" ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ " と表示されたときは、けん引防止機能が解除されています。そのまま、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠してください。

▶ [+] または [−] を押します。

マルチファンクションディスプレイに " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ " と表示され、けん引防止機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下の操作を行なうまで解除されたままになります。

- 車を解錠したとき
- ドアを開閉したとき
- 車を施錠したとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内センサー

室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、室内センサーが作動し、サイレンと非常点滅灯の点滅による警報が作動します。例えば、ウインドウが割られたり、車内に腕を伸ばしたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ システムを待機状態にする前に、室内センサーの誤作動を防止するために以下のことを確認してください。

- ドアウインドウが完全に閉じていること
- ベンチレーションウインドウ * が閉じていること
- パノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じていること
- ルームミラーやアシストグリップにマスコットなどをかけていないこと

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

約 40 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠します。

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウを少し開いた状態にしておくとき
- ベンチレーションウインドウ * を少し開いた状態にしておくとき
- パノラミックスライディングルーフ * を少し開いた状態で車から離れるとき

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイに、室内センサーの設定を表示させます（▷168 ページ）。

▶ ステアリングの [−] を押し、" オフ " を選択します。

室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

または

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイに、エンジン停止時の表示の設定を表示させます（▷164 ページ）。

▶ [+] を押し、" ｼﾂﾅｲｾﾝｻ " を選択します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ イグニッション位置を 0 にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

マルチファンクションディスプレイに "ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾝ" と表示されます。

"ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾌ" と表示されたときは、室内センサーが解除されています。そのまま、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠してください。

▶ [+] または [−] を押します。

マルチファンクションディスプレイに "ｼﾂﾅｲｾﾝｻｳ ｵﾌ" と表示され、室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

室内センサーが解除されます。

室内センサーは、以下の操作を行なうまで解除されたままになります。

- 車を解錠したとき
- ドアを開閉したとき
- 車を施錠したとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

⚠ 警告

- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときは、キーレスゴースイッチ * を押すことによりエンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

⚠ 警告

エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作 * を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

i キーの電池が消耗すると操作時にキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作 * ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

ℹ 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

リモコン機能

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車
① 施錠ボタン
② テールゲート開閉ボタン *
③ 解錠ボタン

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、テールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- テールゲートの開閉 *
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷125、126 ページ）。

操作時にキーの表示灯が 1 回点滅します。

ℹ キーレスゴー装備車は、エンジンスイッチにキーを差し込んでいない状態で、イグニッション位置が **0** のときに、上記の操作が行なえます。

解錠する

▶ 解錠ボタン③を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *（▷57 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能が作動します（▷71 ページ）。

施錠する

▶ 施錠ボタン①を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム *（▷57 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能が作動します（▷71 ページ）。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

テールゲートを開く *

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲート開閉ボタン②を押し続けます。

テールゲートが自動で開きます。

! リモコン操作でテールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

テールゲートを閉じる *

▶ テールゲートが閉じ始めるまで、テールゲート開閉ボタン②を押し続けます。

テールゲートが自動で閉じます。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

! リモコン操作でテールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ℹ 車が施錠されているときにテールゲート開閉ボタン②を押すと、テールゲートだけが解錠されて開きます。その状態でテールゲート開閉ボタン②を押すと、テールゲートが閉じ、施錠されます。

ℹ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- キーが車室内にあるときに、キーレスゴースイッチを押す（キーレスゴー装備車）

ℹ 車のバッテリーがあがったときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

リモコン機能の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠するように設定できます。

▶ 施錠ボタン①と解錠ボタン③を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では、以下のように作動します。

- 解錠ボタン③を押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、盗難防止警報システム *（▷57 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

  また、アンサーバック機能が作動します（▷71 ページ）。
- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン③を押すと、助手席ドア、リアドア、テールゲートが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

  また、アンサーバック機能が作動します（▷71 ページ）。

ℹ 車両の近くでリモコン機能の切り替えを行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

初期設定に戻す

▶ キーの表示灯が 2 回点滅するまで、解錠ボタン ③ と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ロケイターライティング

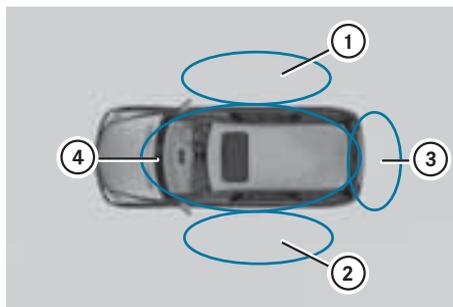
周囲が暗いとき、リモコン操作で解錠すると、以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- ヘッドライト
- LED ドライビングライト
- テールランプ
- ライセンスライト

点灯したライトは以下のときに消灯します。

- 点灯してから約 40 秒経過したとき
- 運転席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき
- キーが車室内にあるときに、キーレスゴースイッチを押したとき（キーレスゴー装備車）

この機能の設定と解除については（▷162 ページ）をご覧ください。

キーレスゴー *

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ テールゲート側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことができます。

キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときは、キーとドアハンドルまたはテールゲートとの距離は約 1m 以内にしてください。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーレスゴー操作はできません。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーが左右側アンテナの検知範囲①②にあるとき

- キーがある側のドアハンドルに触れると車の解錠ができます。
- キーがある側のドアハンドルのキーレスゴースイッチを押すと車の施錠ができます。

ℹ キーの位置によっては、キーが検知範囲にない側のドアハンドルに触れたり、キーレスゴースイッチを押すことで、車が解錠 / 施錠されることがあります。

キーがテールゲート側アンテナの検知範囲③にあるとき

- テールゲートハンドルを引くと、テールゲートのみを解錠して開くことができます。
- テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押して、車を施錠することができます。

ℹ キーの位置によっては、キーが検知範囲にないときも、テールゲートハンドルを引くことでテールゲートのみが解錠して開くことがあります。

キーが車室内アンテナの検知範囲④にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷83 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷130 ページ）。

ℹ キーの位置によっては、キーがドア付近やルーフ上、ボンネット上などの車外にあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

⚠ **警 告**

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、その他の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときやテールゲートを開閉するとき、エンジンを始動するときなどは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内にあるときや、キーの位置によっては、車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動するなど、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、解錠しないことがあります。

! キーが左右側アンテナの検知範囲にあるときに、ドアハンドルを清掃したり、ドアハンドルに雨粒や水しぶきがかかったり物などが触れると、車が解錠されることがありますので注意してください。

i キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

i 車を長期間使用しなかったときは、キーレスゴーの機能が自動的に解除されます。このときは、ドアハンドルを引き、エンジンスイッチにキーを差し込んで **2** の位置にしてください。

i キーレスゴーアンテナの検知範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動できます。

i 車のバッテリーがあがったときは、キーの電池が正常でもキーレスゴー操作はできません。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルの裏側に触れます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *（▷57 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能が作動します（▷71 ページ）。

解錠時の設定の切り替え

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車
① 施錠ボタン
② 解錠ボタン

運転席ドアハンドルの裏側に触れて解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

▶ 施錠ボタン ① と解錠ボタン ② を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

このときは、以下のように作動します。

▶ 運転席ドアハンドルに触れます。

運転席ドア、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *（▷57 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

i 車両の近くで解錠時の設定の切り替えを行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

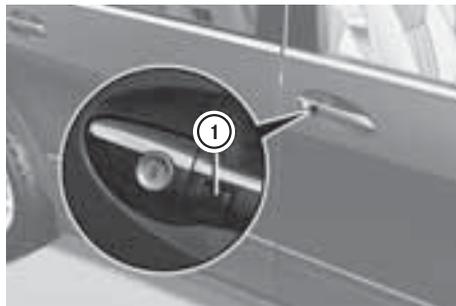
初期設定に戻す

▶ キーの表示灯が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン①と解錠ボタン②を同時に押し続けます。

ℹ 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- キーが車室内にあるときに、キーレスゴースイッチを押す

ℹ 設定を切り替えたときも、運転席以外のドアのドアハンドルの裏側に触れることで、すべてのドアとテールゲート、燃料給油フラップを解錠することができます。

施錠する

右側フロントドア

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ①を押します。

または

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ②を押します。

テールゲートが閉じます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム *（▷57 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

❗ 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

❗ テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ キーが車室内にあるときは、ドアハンドルやテールゲートのキーレスゴースイッチ * で施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰｶﾞ ｼｬﾅｲﾆ ｱﾘﾏｽ！" または "ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と表示されることがあります。

ただし、以下の場合は、施錠することができます。

- もう 1 本のキーが左右側アンテナの検知範囲にあるときにキーがある側のドアハンドルのキーレスゴースイッチを押したとき
- もう 1 本のキーがテールゲート側アンテナの検知範囲にあるときにテールゲートのキーレスゴースイッチを押したとき

ℹ いずれかのドアが開いているときに、閉じているドアのドアハンドルのキーレスゴースイッチまたはテールゲートのキーレスゴースイッチ * を押すと、マルチファンクションディスプレイに "ﾛｯｸﾉﾀﾒ ﾄﾞｱｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。

テールゲートを解錠して開く（EASY-PACK 自動開閉テールゲート非装備車）

▶ テールゲートハンドルを引きます。

テールゲートのみが解錠されます。

▶ テールゲートを引き上げます。

テールゲートを解錠して開く（EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車）

▶ テールゲートハンドルを引きます。

テールゲートのみが解錠されて自動で開きます。

アンサーバック機能

リモコン機能またはキーレスゴーで車両を施錠したときに、確認音が 1 回鳴ります。

仕様により、車両を解錠したときに確認音が 1 回鳴り、車両を施錠したときに確認音が 3 回鳴る場合があります。

この機能の設定と解除については（▷166 ページ）をご覧ください。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷312 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ 非常時の解錠 / 施錠（▷312 ページ）に記載されている方法で車両を施錠するか、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で解錠 / 施錠できない。	長い時間キーレスゴーで解錠しなかったため、キーレスゴーの機能が停止している。 ▶ ドアハンドルを 2 回引いて、キーをエンジンスイッチに差し込んでください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷315 ページ）。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンスイッチがまわらないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷339 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	ステアリングロックが効いている。 ▶ ステアリングを軽く左右にまわしながら、エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。
キーが車内にある状態で、キーレスゴースイッチを押しても、エンジンが始動しない。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ドア

⚠ 警告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じ方が不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

車外からのドアの開閉

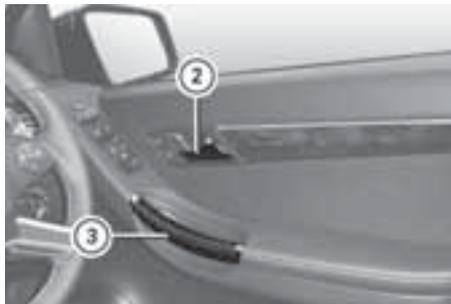
開く

▶ ドアハンドル①を引きます。

閉じる

▶ ドアハンドル①を持って確実に閉じます。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ず車を施錠してください。

車内からのドアの開閉

開く

▶ ドアレバー②を引きます。

ドアが施錠されているときはロックノブ①（▷75 ページ）が上がり、解錠されます。

閉じる

▶ インナーグリップ③を持って確実に閉じます。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ℹ 助手席のドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

ℹ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（▷303 ページ）。

車内からの解錠 / 施錠

⚠ 警 告

ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

ドアごとに解錠 / 施錠する

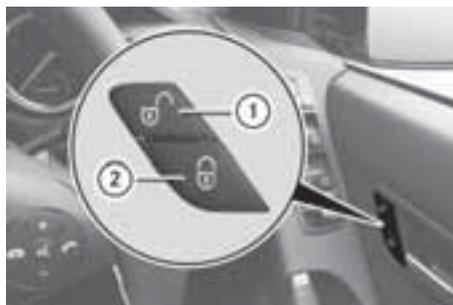
解錠する

▶ ドアレバー②を引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ①を押し込みます。

ドアロックスイッチ

右側フロントドア

車内から、すべてのドアとテールゲートをスイッチ操作で解錠 / 施錠できます。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

解錠する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）①を押します。

施錠する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）②を押します。

以下の場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

ℹ ドアロックスイッチにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

ℹ ドアロックスイッチで燃料給油フラップの解錠 / 施錠はできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 運転席ドアが開いているときは、ドアロックスイッチで運転席ドア以外のドアとテールゲートの解錠 / 施錠ができます。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（▷165 ページ）をご覧ください。

❗ 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を移動したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるとき、ダイナモメーターで車を点検するときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

❗ 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

ℹ 車速感応ドアロックにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

テールゲート

⚠ **警告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ **警告**

- テールゲートを開くときは、テールゲートの動きに注意してください。テールゲートのすぐ後方にいると、テールゲートに接触して、けがをするおそれがあります。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

⚠ **警告**

- EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートが開閉しているときに、身体や物が挟まれそうになったり、接触しそうになったときは、ただちに以下のいずれかの操作を行なってください。テールゲートの作動が停止します。
  - ◇テールゲートハンドルを引く
  - ◇キーのテールゲート開閉ボタンを押す
  - ◇運転席ドアのテールゲートスイッチを操作する
  - ◇テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
  - ◇テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す
- ラゲッジルームに乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

  子供などがラゲッジルームに閉じ込められないように注意してください。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

! 強風のときにテールゲートを開くと、風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! テールゲートが開いているときにリモコン操作で施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

! テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

ℹ テールゲートが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ℹ EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートが自動で開いているときに障害物との接触を感知すると、テールゲートはその位置で停止します。

ℹ EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートが自動で閉じているときに挟み込みを感知すると、警告音が鳴り、テールゲートが停止して、全開位置または設定された開口角度（▷80 ページ）まで開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート非装備車

テールゲートの開閉

テールゲートを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ テールゲートハンドル①を手前に引きます。

▶ テールゲートを引き上げます。

テールゲートを閉じる

▶ 凹部①に手をかけてテールゲートを引き下げます。

▶ 外側からテールゲートを軽く押さえます。

クロージングサポーターが作動して、テールゲートが閉じます。

▶ 必要であれば、リモコン操作またはキーレスゴー操作により車を施錠します。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車

車外からのテールゲートの開閉

テールゲートを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ テールゲートハンドル①を手前に引きます。

テールゲートが自動で開きます。

または

▶ テールゲートが開きはじめるまで、キーのテールゲート開閉ボタン（▷65 ページ）を押し続けます。

テールゲートが自動で開きます。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車

テールゲートを閉じる

▶ テールゲートクローザースイッチ①を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

または

▶ テールゲートがいっぱいまで開いているときに、テールゲートが閉じ始めるまで、キーのテールゲート開閉ボタンを押し続けます。

テールゲートが自動で閉じます。

▶ 必要であれば、リモコン操作またはキーレスゴー操作により車を施錠します。

ⓘ 完全に停車していないときは、テールゲートクローザースイッチ①でテールゲートを閉じることはできません。

テールゲートを閉じて車を施錠する（キーレスゴー装備車）

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ②を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム＊（▷57 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! キーがテールゲート側アンテナの検知範囲にないときに、テールゲートのキーレスゴースイッチ②を押すと、テールゲートが少し閉じた後に停止します。また、完全に閉じても施錠されません。

! テールゲートのキーレスゴースイッチで車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

ⓘ いずれかのドアが開いているときにテールゲートのキーレスゴースイッチ②を押すと、テールゲートは少し閉じた後停止します。このときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾛｯｸﾉﾀﾒ ﾄﾞｱｦ ﾄｼﾞ ﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。

＊オプションや仕様により、異なる装備です。

車内からのテールゲートの開閉

解錠された状態で停車しているときは、運転席ドアのスイッチでテールゲートを開閉することができます。

テールゲートを開く

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲートスイッチ①を引き続けます。

テールゲートが自動で開きます。

テールゲートを閉じる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、テールゲートスイッチ①を押し続けます。

テールゲートが自動で閉じます。

ⓘ 完全に停車していないときは、テールゲートスイッチ①でテールゲートを開閉することはできません。

テールゲートの開口角度の設定

上方に十分な空間がないところなどでテールゲートを開くときのために、テールゲートの開口角度を設定できます。

開口角度を設定する

▶ テールゲートが開閉しているときに、以下のいずれかの操作を行なって、設定したい角度でテールゲートを停止させます。

- テールゲートハンドルを引く
- キーのテールゲート開閉ボタンを押す
- 運転席ドアのテールゲートスイッチを操作する
- テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
- テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す

▶ 確認音が 1 回鳴るまで、テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度が設定されます。

次にテールゲートを開いたときは、設定された開口角度で停止します。

開口角度の設定を解除する

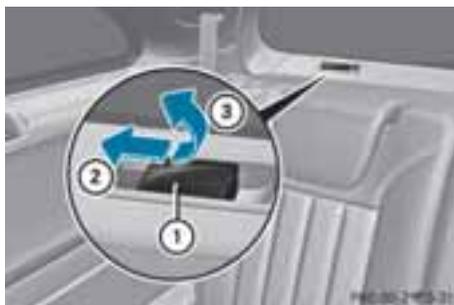
▶ テールゲートを開きます。

▶ 確認音が 2 回鳴るまで、テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度の設定が解除されます。

ⓘ テールゲートの角度によっては、その開口角度に設定できないことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

テールゲート内側のレバーでの解錠

テールゲート内側のレバーで、テールゲートを解錠して開くことができます。

テールゲートを開く

▶ レバー①を矢印②の方向に押しながら､矢印③の方向に引き上げます。

テールゲートのロックが解除されます。

▶ レバー①を引き上げたまま、テールゲートを後方へ押し上げます。

⚠ 警 告

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートを開くときに大きな力が必要になります。テールゲートが不意に下がってきて、身体を挟まないように注意してください。

! 盗難防止警報システム装備車では、リモコン操作やキーレスゴー操作 * で施錠した後に、レバー①でテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーのいずれかのボタンを押す
- キーをエンジンスイッチに差し込む

キーレスゴー装備車は、以下のいずれかの操作を行なっても、警報が停止します。

- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときに、キーがある側のドアハンドルに触れるか、テールゲートハンドルを引く
- キーがキーレスゴーのテールゲート側アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときに､テールゲートハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチを押す
- キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときに、キーレスゴースイッチを押す

i EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートのロックを解除してからテールゲートを開かないでいると、数秒後にテールゲートが自動的に閉じる場合があります。

i レバーでテールゲートを解錠して開いても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。

i レバーで解錠して開いた後に、テールゲートを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

イグニッション位置

⚠ **警告**

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止させないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

キーによるイグニッション位置の選択

イグニッション位置を選択する

▶ エンジンスイッチに差し込んだキーをまわします。

以下のようにイグニッション位置が変更されます。

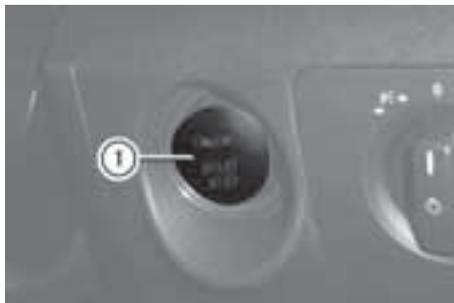
キーの位置	イグニッション位置
0	**0**：キーを差し込む／抜く位置
1	**1**：イグニッション位置が **1** になります。
2	**2**：イグニッション位置が **2** になります。
3	**3**：エンジンが始動します。

エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差し込んでからまわしてください。

! バッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

ℹ キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

ℹ 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがありますが、イグニッション位置の選択や、エンジンの始動はできません。

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択（キーレスゴー装備車）

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ①を取り付けてあるとき、キーレスゴースイッチ①を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ①を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	**0** から **1** になります。
さらに 1 回押す	**1** から **2** になります。
さらに 1 回押す	**2** から **0** になります。

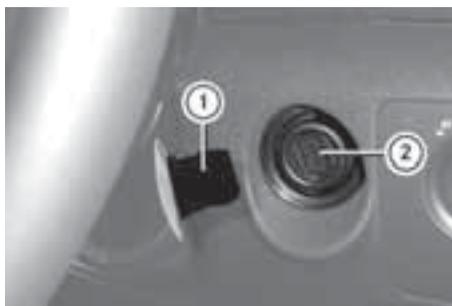
ⓘ エンジンを停止してイグニッション位置が **1** になったときに運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ①を押します。

❗ ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

ⓘ 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに " ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ " と表示されます。

キーレスゴースイッチの取り外し

キーレスゴースイッチ①を取り外し、エンジンスイッチ②にキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置を選択できます。

ⓘ 上記の操作は、シフトポジションが P のときにのみ可能です。

ⓘ キーレスゴースイッチは、通常は駐車時でも取り外す必要はありません。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

ⓘ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けてから約 2 秒間は、キーレスゴースイッチでのイグニッション位置の選択やエンジン始動ができません。

シート

フロントシート

フロントシートには以下の 2 種類があります。

名称	ページ
4 ウェイパワーシート	86
メモリー付パワーシート	87

⚠ **警 告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもシート位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、けがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転席シートは、必ず停車しているときに調整してください。走行中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

シートの高さを不用意に調整すると、けがをするおそれがあります。特に子供は、シート調整スイッチを不用意に操作してけがをするおそれがあるため、以下のことに注意してください。

- シートを調整している間は、シートの下やシートの可動部分に手を入れないでください。
- 子供が乗車するときは、シートの下やシートの可動部分に手を入れないように注意してください。

⚠ **警 告**

シートの調整をするときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。また、エアバッグに関する注意もご覧ください。

子供を乗せるときは、（▷42 ページ）をご覧ください。

⚠ **警 告**

ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストの中央部に支えられていることを確認してください。後頭部がヘッドレストに正しく支えられていないと、事故などのときに、首に重大なけがをするおそれがあります。ヘッドレストが正しい位置に調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ **警 告**

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い状態で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

! シートを前方に移動するときは、ダッシュボードとシートの間に身体を挟まれないように注意してください。

! シートやシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートは定期的に清掃することをお勧めします。「日常の手入れ」をご覧ください（▷279 ページ）。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフや工具などの鋭利な物を置かないでください。シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。

- シートヒーターの使用中は、布やコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! 左右セカンドシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動するときは、セカンドシートに接触しないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

! シートを調整するときは、ヘッドレストがルーフ内張りやアシストグリップ、サンバイザーなどに接触しないように注意してください。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

4 ウェイパワーシートの調整

右側フロントシートのスイッチ、レバー

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①～③の方向に操作します。

シートの前後位置は、レバーを④の方向に引いたままシートを前後に動かして調整します。

矢印の方向	調整内容
①	シートクッションの角度
②	シートの高さ
③	バックレストの角度
④	シートの前後位置

ヘッドレストの高さを調整する

▶ 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。

低くするときは、ロック解除ボタン①を押しながらヘッドレストを下げます。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの下部を持って、矢印の方向に動かします。

メモリー付パワーシートの調整

左側フロントシートのスイッチ

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①～⑤の方向に操作します。

矢印の方向	調整内容
①	ヘッドレストの高さ
②	バックレストの角度
③	シートの前後位置
④	シートクッションの角度
⑤	シートの高さ

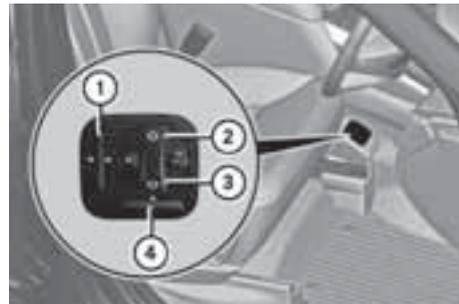
! 助手席の前後には物を置かないでください。PRE-SAFE® が作動して助手席が適正な位置に自動的に調整されるときに、シートの移動の妨げになります。

ⓘ 仕様により、シートの前後位置を調整すると、ヘッドレストの高さも連動して上下します。

ⓘ PRE-SAFE®（▷41 ページ）が作動すると、助手席シートはエアバッグの作動に対して適正な位置に自動的に調整されます。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの下部を持って、矢印の方向に動かします。

マルチコントロールシートバック *

フロントシートのサポートを調整します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

スイッチは運転席 / 助手席のシート下部にあります。

シートクッション前部のサポートを調整する

▶ スイッチ④を前方または後方に操作します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ランバーサポートを調整する

腰部のサポートを調整できます。

▶ スイッチの [+] または [−] を押して、サポートの強さを調整します。

▶ サポートの位置を下げるときは、スイッチ③を押します。

▶ サポートの位置を上げるときは、スイッチ②を押します。

バックレスト横方向のサポートを調整する

▶ スイッチ①を左右に操作します。

ℹ スイッチを操作しても調整できないときは、バックレストのエアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

セカンドシートとサードシート

⚠ **警告**

シートを調整したときは、シートが確実に固定されていて、バックレストが垂直に近い角度で固定されていることを確認してください。

左右のセカンドシートを調整したときは、セカンドシートのロックインジケーター（▷93 ページ）の状態を確認してください。

バックレストが確実に固定されていないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにバックレストが前方に動き、致命的なけがをするおそれがあります。

シートの調整をするときは、他の乗員の身体や物などが挟まれないように注意してください。

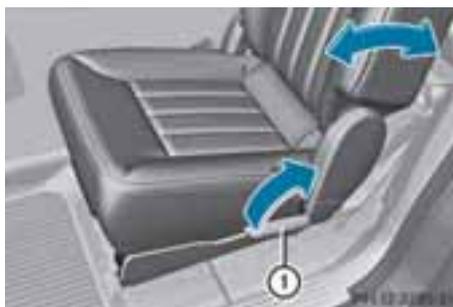
左右セカンドシートの前後位置の調整

▶ 調整レバー①を矢印の方向に引きながら、シートを前後に動かします。

▶ 調整レバー①から手を放します。

シートが固定されます。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

バックレストの角度の調整

左右セカンドシート

サードシート

▶ シートに乗車した状態で、調整レバー①を矢印の方向に軽く引いたままバックレストの角度を調整します。

ℹ サードシートのバックレストは、シートに荷重がかかっていないときにレバー①を矢印の方向に引くと、バックレストが前方に倒れ、シートクッションが起き上がります。

⚠ 警告

セカンドシートのバックレストの角度を調整するときは、以下の点に注意してください。シートクッションが床面まで下がり、身体を挟んでけがをするおそれがあります。

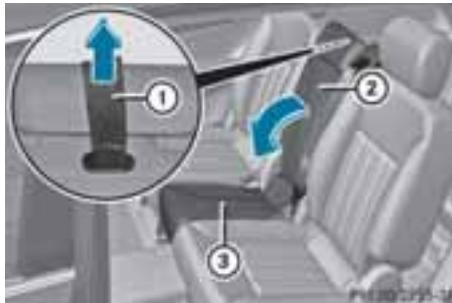
- セカンドシートに乗車し、シート後方に荷重をかけた状態で調整してください。
- 調整レバー①はいっぱいまで引かないでください。必ず軽く引いて操作してください。
- バックレストの角度を調整しているときにバックレストを後方から押さないでください。

⚠ 警告

セカンドシートに乗車しているときは、シートクッションの横や下、アーム部分（イラストの×印の部分）などに手や指などを入れないでください。

シートクッションが床面まで下がったときに、手や指などが挟まれ、けがをするおそれがあります。

中央セカンドシートの調整

バックレストを前方に倒すと、アームレストとして使用できます。

アームレスト位置にする

▶ ヘッドレストを最も低い位置にします。

▶ ストラップ①を矢印の方向に引きます。

▶ バックレスト②を、シートクッション③に重なるまで前方に倒し、確実にロックします。

アームレスト位置

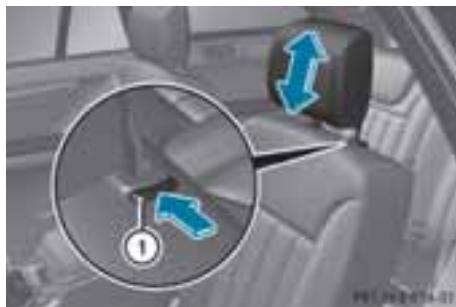
バックレストを元の位置に戻す

▶ ストラップ①を矢印の方向に引きながらバックレスト②を後方に起こし、確実にロックします。

ヘッドレストの調整

⚠ 警 告

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付け、ヘッドレストを引き上げてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

ヘッドレストの高さの調整

左右セカンドシート

サードシート

ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの角度の調整

左右セカンドシートのヘッドレストは角度の調整ができます。

中央セカンドシートとサードシートのヘッドレストは、角度の調整はできません。

▶ ヘッドレストの下側を押して / 引いて調整します。

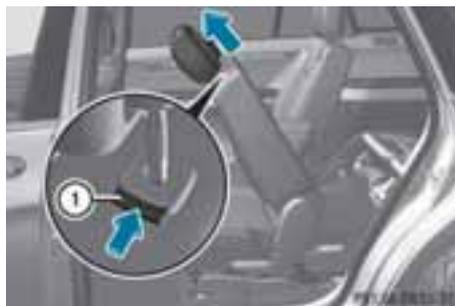
ヘッドレストの脱着

⚠ **警告**

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

左右セカンドシートのヘッドレスト

ヘッドレストを取り外す

▶ シート位置を最も後方の位置にして、バックレストを前方に倒します（▷88 ページ）。

左右セカンドシート

▶ ロック解除ボタン①を押しながらヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

▶ シート位置を最も後方の位置にして、バックレストを前方に倒します（▷88 ページ）。

▶ 切り欠きのある支柱が左側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックさせます。

中央セカンドシートのヘッドレスト

ヘッドレストを取り外す

▶ ロック解除ボタン①を押しながらヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

▶ 切り欠きのある支柱が右側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックさせます。

⚠ **警告**

中央セカンドシートに乗員が乗車しているときは、中央セカンドシート背面のストラップ②を引かないでください。中央セカンドシートが前方に移動してシートクッションが床面まで下がり、身体を挟んでけがをするおそれがあります。

サードシートのヘッドレスト

ヘッドレストを取り外す

▶ バックレストを前方に傾けます。

▶ ロック解除ボタン①を押しながらヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

▶ バックレストを前方に傾けます。

▶ 切り欠きのある支柱が右側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックさせます。

サードシートへの乗車

左右セカンドシートのバックレストを前方に倒し、セカンドシートを前方に移動することにより、サードシートへの乗り降りを容易にします。

⚠ **警 告**

セカンドシートやサードシートに乗車するときは、左右セカンドシートが確実に固定されていて、バックレストが垂直に近い角度で固定されていることを確認してください。

左右のセカンドシートを調整したときは、セカンドシートのロックインジケーターの状態を確認してください。

バックレストが確実に固定されていないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにバックレストが前方に動き、致命的なけがをするおそれがあります。

サードシートに乗車する

▶ セカンドシートに乗車していないときに、レバー①を矢印の方向に軽く引きながら、バックレストを前方に倒します。

バックレストが前方に倒れ、シートが前方に移動して、シートクッションが床面まで下がります。

左右セカンドシートを前方に倒した状態

サードシートから車を降りる

▶ セカンドシート背面のストラップ①を矢印の方向に引きます。

バックレストのロックが解除されます。

▶ バックレストを軽く前方に押します。

バックレストが前方に倒れ、シートが前方に移動して、シートクッションが床面まで下がります。

左右セカンドシートを前方に倒した状態

⚠ 警告

セカンドシートに乗員が乗車しているときは、ストラップ①を引かないでください。セカンドシートのバックレストが前方に倒れ、シートが前方に移動してシートクッションが床面まで下がり、身体を挟んでけがをするおそれがあります。

左右セカンドシートを元の位置に戻す

▶ バックレストを後方に起こしてロックしてから、シート全体を後方に移動させます。

"カチッ"という音がして、シートがロックされたことを確認してください。

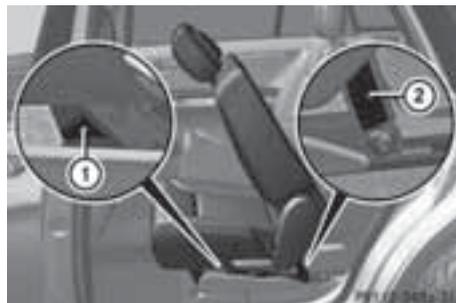
⚠ 警告

走行する前にシートが確実にロックされていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

サードシートに乗員が乗車しているときにセカンドシートを元の位置に戻すときは、サードシートの乗員の身体が挟まれないように注意してください。

! シートを操作するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

ロックインジケーター

シートがロックされていない状態

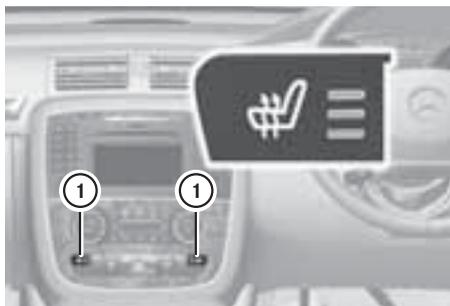
セカンドシートを元の位置に戻したときは、ロックインジケーター①②の状態を確認してください。

ロックインジケーター①②が上図の状態のときは、シートはロックされていません。

シートがロックされている状態

ロックインジケーター①②が上図の状態のときは、シートがロックされています。

ロックインジケーターでの確認だけでなく、シートを前後に押して、確実にロックされていることを確認してください。

シートヒーター

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯するスイッチの表示灯の数が変わり、シートヒーターの作動が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

⚠ 警告

シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。

異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがあります。

! 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

i 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

シートヒーターのトラブル

シートヒータースイッチの表示灯が 1 つまたはすべて点滅しているときは、シートヒーターが自動的に停止しています。多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

電圧が回復すると、シートヒーターは再び自動的に作動します。

シートベンチレーター

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートベンチレーターを使用する

▶ シートベンチレータースイッチ①を押します。

シートベンチレータースイッチを押すごとに点灯するスイッチの表示灯の数が変わり、シートベンチレーターの作動が切り替わります。

※ シートベンチレーターは、日本仕様には装備されません。

車両の操作

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止しています。

シートベンチレーターを停止する

▶ シートベンチレータースイッチ①を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

ⓘ リモコン操作でドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を開くと、運転席のシートベンチレーターが強で作動します。

ⓘ 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートベンチレーターが停止することがあります。電圧が回復すると、再び自動的に作動します。

シートベンチレーターのトラブル

シートベンチレータースイッチの表示灯が 1 つまたはすべて点滅しているときは、シートベンチレーターが自動的に停止しています。多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

電圧が回復すると、シートベンチレーターは再び自動的に作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ステアリング

⚠ **警 告**

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼付しないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

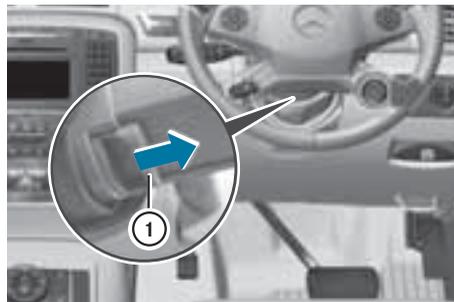
⚠ **警 告**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバー * を操作することでステアリングが動き出し、ステアリングに挟まれるおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ステアリングの調整（手動式）

ステアリング位置を調整する

▶ ステアリングコラム下部のロック解除ハンドル①を手前に引きます。

ステアリングを前後上下に動かして正しい位置に調整します。

▶ ロック解除ハンドル①を前方に押してロックします。

調整後は、ステアリングが確実にロックしていることを確認してください。

ステアリングの調整（電動式）

① 前後位置の調整
② 上下位置の調整

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを①の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを②の方向に操作します。

ℹ 仕様により、ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます（▷103 ページ）。

イージーエントリー *

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く
- 運転席ドアが開いているときに、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にする（キーレスゴー装備車）

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じている状態で、エンジンスイッチにキーを差す
- イグニッション位置が **0** のときは、運転席ドアを閉じてから **1** の位置にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じて、**2** の位置にする

この機能の設定と解除については（▷166 ページ）をご覧ください。

⚠ **警告**

- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。

  挟まれそうになったときは、運転席のメモリースイッチかポジションスイッチ、ステアリング調整レバーのいずれかを操作してください。イージーエントリーの作動が停止します。
- 子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開いたときにイージーエントリーが作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

ℹ ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

クラッシュセンサー連動機能

イージーエントリー機能を設定しているときは、事故などのときに、クラッシュセンサーに連動してイージーエントリー機能が作動します。事故などのときに運転席ドアを開くと、イグニッション位置に関わらずステアリングが上方に移動して、車外への脱出と乗員の救出を容易にします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ミラー

⚠ **警 告**

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーやドアミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

⚠ **警 告**

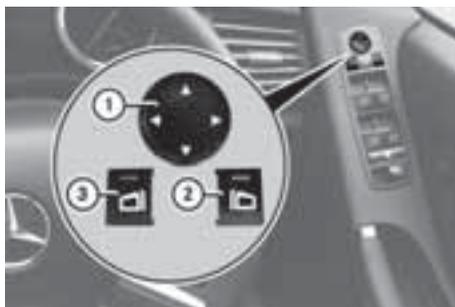
ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ⓘ ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が低く、リアデフォッガー（▷210 ページ）を作動させたときは、自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ⓘ 仕様により、ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷103 ページ）。

ⓘ 運転席側ドアミラーは、ルームミラーに連動して防眩になります（▷101 ページ）。

ドアミラーの角度調整

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整したい側のドアミラー選択スイッチ②または③を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ①を操作してドアミラーの角度を調整します。

ℹ ドアミラーの角度を調整しないまま約 15 秒経過すると、ドアミラー選択スイッチの表示灯が消灯し、角度調整はできなくなります。

ドアミラーの格納 / 展開

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

ドアミラーを格納する

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ④を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 再度、ドアミラー格納 / 展開スイッチ④を押します。

! ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーを展開してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については （▷167 ページ）をご覧ください。

ⓘ ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、フロントドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が一時的に断たれたり、バッテリーがあがったときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ④を押します。

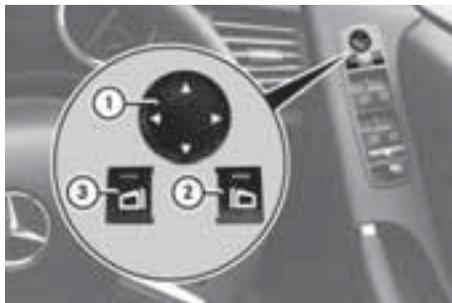
自動防眩機能

周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを受けると、自動的にルームミラーと運転席側のドアミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

⚠ **警告**

車内に高さのある荷物を積んでいるときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが照射されないときは自動防眩機能が作動しないことがあるため、眩惑により事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でルームミラーの角度を調整してください。

ⓘ シフトポジションが **R** のときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能は解除されます。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

シフトポジションを **R** にしたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

助手席側ドアミラーの角度の記憶

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ③を押します。

▶ シフトポジションを **R** にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

▶ ドアミラー調整スイッチ①で、助手席ドアミラーを後退時に後方が確認しやすい角度に調整します。

調整した角度が新たに記憶されます。

助手席側ドアミラーを記憶させていた角度にする

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ③を押します。

▶ シフトポジションを **R** にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- シフトポジションを **R** から他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ②を押したとき

ℹ 運転席側ドアミラー選択スイッチ②が押されているときは、助手席側ドアミラーの角度は変わりません。

ℹ パーキングヘルプ機能が作動しているときは、助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯したままになります。

メモリー機能 *

シート位置の記憶

左側フロントシートのスイッチ

フロントシートには、3 つの位置を記憶させることができます。

運転席シートでは、ステアリングの位置とドアミラーの角度も記憶させることができます。

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置、ドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの角度を調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にしてください。

▶ メモリースイッチ "M" を押します。

▶ 約 3 秒以内にポジションスイッチ "1"、"2"、"3" のいずれかを押します。

" ピッ " という確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

⚠ **警 告**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。スイッチを操作することでシートなどが動きだし、身体を挟まれるおそれがあります。

シート位置の呼び出し

⚠ **警 告**

運転席シートのシート位置などの呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 呼び出したいポジションスイッチ "1"、"2"、"3" のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

! バックレストを大きく後ろに傾けているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

i 安全のため、ポジションスイッチから指を放すとシートなどは停止します。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ 警 告

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。

- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバックなどを挟み込まないでください。
- シートベルトをドアに挟んだり、鋭利な部分に当てないでください。
- シートベルトにたばこの火など、熱いものを近付けないでください。
- バックル部分に異物を入れないでください。
- シートベルトを分解したり、改造しないでください。
- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更時やブレーキ時、事故のときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷42 ページ）をご覧ください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。
- 乗員が装着しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

> ⚠ **警告**
>
> シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

> ⚠ **警告**
>
> - 汚れていたり損傷しているシートベルトや、事故で衝撃を受けたシートベルト、改造を受けたシートベルトは、適切な保護性能を発揮することができません。事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。
>
>   シートベルトに汚れや損傷がないことを定期的に確認してください。
>
>   損傷しているシートベルトや事故などで衝撃を受けたシートベルトは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検し、必要であれば交換してください。
> - 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
> - シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。
>   - ◇強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
>   - ◇乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
>   - ◇シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトを着用する

▶ シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー①からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにします。

▶ プレート②の先端をバックル③に差し込みます。

フロントシートは、テンション自動調整機能を設定しているときは、シートベルトのテンションが自動的に調整されます。

▶ フロントシートは、必要であれば、シートベルトの高さを調整します (▷107 ページ)。

▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート②を持ち、バックル③の解除ボタン④を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれて、ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換する必要があります。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能

フロントシートベルトにはテンション自動調整機能が装備されています。

イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込むと、シートベルトが身体に密着するように、自動的にシートベルトのテンション（締め付け具合）を調整します。

この機能の設定と解除については (▷167 ページ) をご覧ください。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにイグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。

ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて走行速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

フロントシートベルトの高さ調整

フロントシートベルトでは、高さを調整することができます。

シートベルトが首にかかったり、肩から外れないように高さを調整します。

高さは 3 段階に調整できます。

シートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、ベルトアンカーをそのまま上げます。

▶ 下げるときは、ロック解除ボタン①を押しながらベルトアンカーを下げます。

調整後はベルトアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

正しい運転姿勢

⚠ 警 告

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 以下のことに注意して、シート③を調整します。

- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- 正しい姿勢で着座している
- シートベルトが正しく着用できる
- バックレストをできるだけ垂直に調整している
- 大腿部がシートクッションに軽く支えられている
- ペダルが楽に踏み込める

▶ 以下のことに注意して、ヘッドレストを調整します。

- ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認する

▶ 以下のことに注意して、ステアリング①を調整します。

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

▶ 以下のことに注意して、シートベルト②を着用します。

- シートベルトが身体に密着している
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっている

▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分確認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

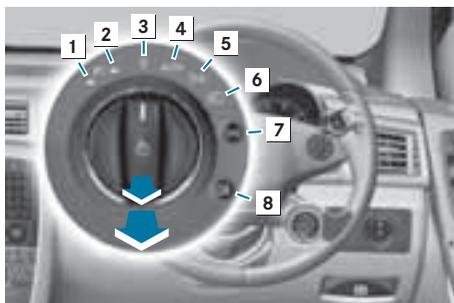
▶ メモリー付パワーシート装備車は、メモリー機能でシートとステアリングの位置、ドアミラーの角度を記憶させます。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が他の乗員や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れてシートが動くと、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ライト

ライトスイッチ

1	←P≡	左側パーキングライトが点灯
2	P≡→	右側パーキングライトが点灯
3	0	すべてのライトが消灯
4	AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
5	≡00≡	車幅灯、テールランプ、ライセンスライトやスイッチなどの照明が点灯し、表示灯⑦が点灯
6	≡D	≡00≡ の位置で点灯するライトなどに加えて、ヘッドライトと LED ドライビングライトが点灯
7	車幅灯表示灯	
8	リアフォグランプ表示灯	

! 車から離れるときはライトを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! エンジンを停止した状態で、ライトを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! ライトスイッチを ≡00≡ の位置にしたまま、エンジンスイッチにキーが差し込まれていない状態やキーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にしている状態で運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ライト ヲ ケシテ クダサイ !" と表示されます。

このときはライトを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

i ヘッドライト / LED ドライビングライトが点灯しているときに、イグニッション位置を **2** 以外にすると、ヘッドライト / LED ドライビングライトが消灯します。さらにこの状態でイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

車幅灯

車幅灯を点灯する

▶ ライトスイッチを ≡00≡ の位置にします。

ライトスイッチ横の車幅灯表示灯 ≡00≡ が点灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドライト / LED ドライビングライト

ヘッドライト / LED ドライビングライトを手動で点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にします。

ヘッドライト / LED ドライビングライトが点灯し、メーターパネルのヘッドライト表示灯 [ヘッドライト] が点灯します。

ⓘ イグニッション位置が **1** のときは、車幅灯、テールランプ、ライセンスライトが点灯し、ライトスイッチ横の車幅灯表示灯 [車幅灯] が点灯します。

オートモードにする

▶ ライトスイッチを [AUTO] の位置にします。

- 周囲が暗いとき、イグニッション位置を **1** にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスライトが自動的に点灯し、ライトスイッチ横の車幅灯表示灯 [車幅灯] が点灯します。
- エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドライト / LED ドライビングライトも自動的に点灯し、メーターパネルのヘッドライト表示灯 [ヘッドライト] が点灯します。

ⓘ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサーと同じ位置にあります（▷120 ページ）。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が作動しなくなります。

⚠ **警 告**

霧の中を走行するときにオートモードにしていると、ライトが自動的に点灯しなかったり点灯していたライトが消灯することがあるため、事故を起こすおそれがあります。霧の中を走行するときはライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にしてください。

ライトのオートモードは運転者を支援する機能です。ライトの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。

⚠ **警 告**

ライトスイッチを [AUTO] から [ヘッドライト] の位置にするときは、必ず停車してください。ライトが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

リアフォグランプ

リアフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ライトスイッチが [ヘッドライト] の位置のときに、ライトスイッチを引きます。

リアフォグランプが点灯し、リアフォグランプ表示灯 [8] が点灯します。また、LED ドライビングライトが消灯します。

! リアフォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。後続車の迷惑になります。

パーキングライト

暗がりでの駐車時に車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングライトを点灯する

イグニッション位置が **2** 以外のときに点灯させることができます。

▶ ライトスイッチを P≤→ または ←P≤ の位置にします。

位置	作動内容
P≤→	右側のパーキングライトが点灯
←P≤	左側のパーキングライトが点灯

車外ライト消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- ヘッドライト
- LED ドライビングライト
- テールランプ
- ライセンスライト

点灯した車外ライトは、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒経過すると消灯します。

この機能の設定と解除については (▷163 ページ) をご覧ください。

車外ライト消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、イグニッション位置を **2** にします。

i ライトが消灯するまでの時間は、ドアやテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

i エンジンを停止してからドアやテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ライトは消灯します。

ヘッドライトウォッシャー

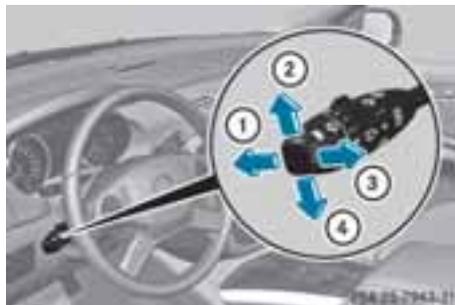
エンジンがかかっていてヘッドライトが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャーを約 10 回操作すると、ヘッドライトウォッシャーが自動的に作動します。

i エンジンを停止するか、ヘッドライトを消灯させると、フロントウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。

i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

コンビネーションスイッチ

方向指示

①ヘッドライト（上向き）
②方向指示（右側）
③パッシング
④方向指示（左側）

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

方向指示灯を短時間点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②または④の方向に軽く操作します。

操作した側の方向指示灯が3回点滅します。

方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②または④の方向に操作します。

操作した側の方向指示灯が点滅します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ 方向指示灯を点滅させているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ヘッドライトの下向き / 上向きの切り替え

ヘッドライトを上向きにする

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ロービーム] の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを①の位置にします。

ヘッドライトが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 [ハイビーム] が点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドライトを上向きで点灯しないでください。

ヘッドライトを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを元の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯 [ハイビーム] が消灯します。

パッシング

▶ イグニッション位置を **1** か **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを③の方向に引きます。

引いている間、ヘッドライトが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと元の位置に戻ります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。

非常点滅灯スイッチ①とメーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

! 非常時以外は使用しないでください。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

i 約 70km/h 以上で走行中に急ブレーキを効かせて停止したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

i 非常点滅灯を点滅させているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

i エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯させるときは、非常点滅灯スイッチを押します。

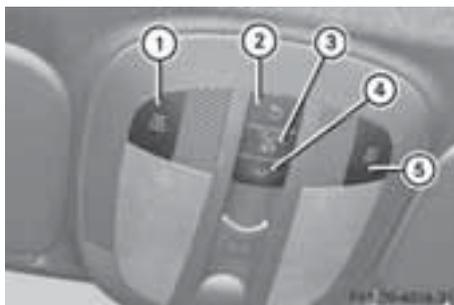
ヘッドライトの内側が曇るとき

外気の湿度が高いときは、ヘッドライトの内側が曇ることがあります。

▶ ヘッドライトを点灯して走行してください。

走行距離や天候（湿度と気温）に応じて、ヘッドライト内側の曇りは取れます。

▶ ヘッドライト内側の曇りが取れない場合は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ルームランプ

① フロント読書灯（左側）スイッチ
② サードシートルームランプスイッチ
③ 点灯モード選択スイッチ
④ フロントルームランプスイッチ
⑤ フロント読書灯（右側）スイッチ

点灯モードの切り替え

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ③を押して、スイッチが押されていない状態にします。

自動点灯モードになり、以下のときにフロントルームランプやセカンドシートルームランプ、サードシートルームランプ、ラゲッジルームランプ、テールゲート裏側のライトが点灯 / 消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。

  この機能の設定と解除については（▷163 ページ）をご覧ください。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

- いずれかのドアまたはテールゲートを開くと点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアやテールゲートを閉じるとただちに消灯します。

  ドアやテールゲートが開いたままのときは、消灯しません。

  ◇イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアやテールゲートを閉じると約 7 秒後に消灯します。

  ドアやテールゲートを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプなどが消灯することを確認してください。

i 点灯したセカンドシートルームランプは、ランプの前部を押すと消灯します。

i 点灯しているルームランプや読書灯などは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると自動的に消灯します。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ③が押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームライトなどは点灯しません。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠する
- ドアまたはテールゲートを開く

* オプションや仕様により、異なる装備です。

フロントルームランプの点灯 / 消灯

フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ フロントルームランプスイッチ④を押します。

フロントルームランプが点灯 / 消灯します。

非常時の自動点灯

ルームランプが自動点灯モードのときは、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ルームランプが自動的に点灯します。また、このときは非常点滅灯も点滅します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ リモコン操作で解錠します。

または

▶ 点灯モード選択スイッチ③を押します。

フロント読書灯の点灯 / 消灯

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ フロント読書灯スイッチ①⑤を押します。

ルームミラー下側のフロント読書灯が点灯 / 消灯します。

セカンドシートルームランプの点灯 / 消灯

右側のセカンドシートルームランプ

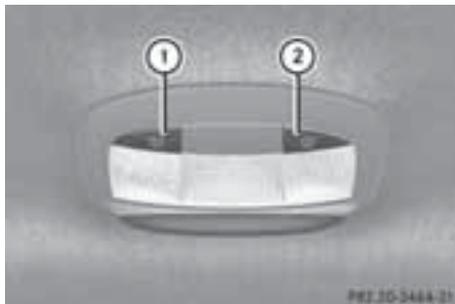
セカンドシートルームランプは左右リアドアウインドウの上方にあります。

セカンドシートルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ セカンドシートルームランプ①の前部（矢印の部分）を押します。

セカンドシートルームランプが点灯 / 消灯します。

! セカンドシートルームランプを長時間点灯すると、セカンドシートルームランプが熱くなり、火傷をするおそれがあります。操作するときなどは注意してください。

サードシートルームランプおよびサードシート読書灯 * の点灯 / 消灯

サードシートルームランプはサードシートの上方にあります。

サードシートルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ サードシートルームランプスイッチ②（▷114 ページ）を押します。

サードシートルームランプが点灯 / 消灯します。

ⓘ サードシートルームランプを点灯 / 消灯すると、ラゲッジルームランプとテールゲート裏側のランプも点灯 / 消灯します。

サードシート読書灯 * を点灯 / 消灯する

▶ サードシート読書灯スイッチ①②を押します。

サードシート読書灯が点灯 / 消灯します。

フットウェルライト

フロントシートとセカンドシートの足元 * に乗降用のライトがあります。

フロントルームランプまたはサードシートルームランプを点灯させると、明るく点灯します。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠すると低い照度で点灯し、約 30 秒後に消灯します。
- イグニッション位置が **2** のときは低い照度で点灯し、**2** 以外の位置にすると約 7 秒後に消灯します。
- いずれかのドアを開くと明るく点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じると減光します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇イグニッション位置が **2** 以外のときは、ドアを閉じると減光し、約 7 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

センターコンソールライト

ルームミラーの下部にあります。

車外ライトが点灯しているときに点灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドア下部のライト

ドア下部に乗降用のライトがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- ドアを開くと点灯します。
- イグニッション位置が **2** 以外でドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

ドアミラー下部のライト

ドアミラー下部に乗降用のライトがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- いずれかのドアを開くと点灯し、ドアを閉じると約 7 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは、約 30 秒後に消灯します。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠すると、約 30 秒間点灯します。

緊急時点灯機能

ルームランプの点灯モードを自動点灯モードにしているときは、事故などのときに大きな衝撃を受けると、ルームランプが自動的に点灯します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ キーの施錠ボタンを押した後に解錠ボタンを押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ワイパー

⚠ **警告**

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

! ウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。ウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャーを噴射してから使用してください。

! 自動洗車機で洗車した後に、ワイパーを使用してもフロントウインドウに油膜が残るときは、ウインドウにワックスや洗浄液などが付着している可能性があります。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液を噴射してフロントウインドウを清掃してください。

! ウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを停止の位置にしてください。ワイパーが動き､けがをするおそれがあります。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを 0 の位置に戻してください。コンビネーションスイッチを ━ や 〓 の位置のままイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! 寒冷時にはワイパーがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー装備車はイグニッション位置を **0** にしてください。

フロントワイパー

位置	作動内容
1 0	停止
2 •••	オートモードⅠ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
3 ••••	オートモードⅡ オートモードⅠよりも少ない雨滴量で作動します。 レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
4 —	低速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、間欠作動になります。
5 ═	高速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、低速作動になります。
⑥	ティップ機能 / フロントウインドウウォッシャーの噴射

ワイパーを作動させる

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、作動内容を選択します。

ワイパーを 1 回だけ作動させる

▶ コンビネーションスイッチを⑥の方向に軽く押します。

ウォッシャー液は噴射せずにワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

フロントウインドウが濡れていなくても、コンビネーションスイッチを ••• か •••• に合わせると、ワイパーが 1 回作動します。

ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

オートモードのとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは、フロントドアを閉じて、他のシフトポジションにしたときに作動を再開します。

レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

! フロントウインドウが濡れていないときは、コンビネーションスイッチを停止位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の反射などでレインセンサーが誤作動し、ワイパーが作動するおそれがあります。

フロントウインドウウォッシャーの噴射

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

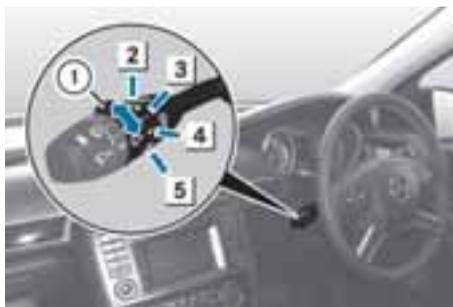
▶ コンビネーションスイッチを矢印⑥の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間ウインドウウォッシャー液が噴射して、ワイパーも作動します。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

ⓘ 純正ウインドウウォッシャーには油膜や汚れの付着を防ぐ効果があります。

ⓘ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

リアワイパー

位置	作動内容
①	ノブ
2 5 [ウォッシャー]	テールゲートウインドウウォッシャーの噴射
3 [•••]	リアワイパーの作動
4 [0]	停止

⑥ リアワイパーインジケーター

リアワイパーを作動させる

▶ イグニッション位置が 1 か 2 のときにノブ①をまわして、3 の位置に合わせます。

リアワイパーが間欠で作動し、マルチファンクションディスプレイに、リアワイパーインジケーター⑥が表示されます。

ℹ イグニッション位置が 2 でフロントワイパーが作動しているときにシフトポジションを R にすると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のとき

  間欠で作動します。

- フロントワイパーが低速あるいは高速作動のとき

  低速で作動します。

テールゲートウインドウウォッシャーを噴射する

▶ イグニッション位置が 1 か 2 のときにノブ①をまわして、2 5 の位置に合わせて保持します。

その間ウォッシャー液が噴射し、リアワイパーも作動します。

ワイパーのトラブル

ワイパーの作動が妨げられている

葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着しているため、ワイパーの作動が妨げられている。ワイパーモーターの作動が停止している。

▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

▶ イグニッション位置を 0 にして、運転席ドアを開きます。

▶ 障害物を取り除きます。

▶ 再度、ワイパーを作動させます。

ワイパーが作動しない

ワイパーが故障している。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない

ウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されない。ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルの角度を調整してください。

パワーウインドウ

⚠ 警告

ウインドウを開くときは、ウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにウインドウスイッチを操作してウインドウを開いてください。

⚠ 警告

子供が車内からウインドウを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

⚠ 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

- 車内の各部に触れて、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。
- 車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。

子供を乗せるときは、セカンドシートまたはサードシートに乗車させ、リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。走行中にウインドウが開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。

ドアウインドウの開閉

① 左フロントドアウインドウスイッチ
② 右フロントドアウインドウスイッチ
③ 右リアドアウインドウスイッチ
④ 左リアドアウインドウスイッチ

ドアウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ドアウインドウを開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じていることを確認してください。

i ドアウインドウが開いているときに PRE-SAFE®（▷41 ページ）が車両の横滑りを感知すると、ドアウインドウが少し開いた位置まで自動的に閉じます。

i リモコン操作でドアウインドウを開くことができます（▷125 ページ）。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でドアウインドウを閉じることができます（▷126 ページ）。

i ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉することができます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

i 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席やリアドアのスイッチでドアウインドウを操作することはできません。

挟み込み防止機能

⚠ **警 告**

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。ウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止して、スイッチから指を放すと、その位置から少し開きます。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウはより強い力で閉じます。このときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから指を放すと、その位置から少し下降します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

さらにこの状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してからただちに再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しません。

ドアウインドウが自動で開閉しないとき

以下のときは、それぞれのドアウインドウをリセットしてください。

- バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたとき
- ドアウインドウを閉じた後にスイッチから指を放すと、その位置から少し開くとき
- ドアウインドウが自動で開閉できなくなったとき

▶ ドアを閉じます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 運転席ドアのドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

この操作を行なってもドアウインドウが少し開いた状態になるとき

▶ ただちに運転席ドアのドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

スイッチから指を放したときにドアウインドウが閉じていれば、ドアウインドウはリセットされています。

ドアウインドウが少し開いた状態になるときは、再度上記の操作を行なってください。

ベンチレーションウインドウの開閉 *

⚠ **警 告**

ベンチレーションウインドウを閉じるときに、身体や物が挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを押してください。ベンチレーションウインドウが開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ベンチレーションウインドウ①の開閉スイッチ②は運転席ドアにあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ベンチレーションウインドウを開閉できます。

ベンチレーションウインドウを開く

▶ スイッチ②を押します。

　左右のベンチレーションウインドウが自動で開きます。

ベンチレーションウインドウを閉じる

▶ スイッチ②を引きます。

　左右のベンチレーションウインドウが自動で閉じます。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ベンチレーションウインドウを開閉できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ベンチレーションウインドウの開閉はできなくなります。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作により、以下の各部を操作することができます。

- 車両を解錠する
- ドアウインドウを開く
- ベンチレーションウインドウ * を開く
- パノラミックスライディンググルーフ * を開く
- 電動ブラインド * を開く

ⓘ コンビニエンスオープニング機能は、キーのリモコン操作でのみ行なうことができます。操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

コンビニエンスオープニング機能を作動させる

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ キーの解錠ボタン（▷65 ページ）を押し続けます。

　パノラミックスライディンググルーフ非装備車は、ドアウインドウが開きます。

　パノラミックスライディンググルーフ装備車は、電動ブラインドが閉じているときは、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、電動ブラインドが開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

電動ブラインドなどが開いた後、一度解錠ボタンから指を放し、再度解錠ボタンを押し続けると、パノラミックスライディングルーフが開きます。

電動ブラインドが開いているときは、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフが開きます。

解錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウやベンチレーションウインドウ、電動ブラインドやパノラミックスライディングルーフはその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作できません。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * により、車外から以下の操作をすることができます。

- ドアウインドウを閉じる
- ベンチレーションウインドウ * を閉じる
- パノラミックスライディングルーフ * を閉じる
- 電動ブラインド * を閉じる

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

⚠ **警告**

車外からドアウインドウとベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * などを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、以下の操作を行なってください。

- リモコン操作の場合は、施錠ボタンから指を放してください。そして、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * を開いてください。
- キーレスゴー操作の場合は、コンビニエンスクロージング操作部から指を放してください。そして、ただちにドアハンドルを引き続けてください。

  ドアウインドウとベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が開きます。

! コンビニエンスクロージング機能でドアウインドウなどを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作またはキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

! 車外から施錠したときは、車から離れる前に、すべてのドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作はできません。

リモコン操作で閉じる

操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ キーの施錠ボタン（▷65 ページ）を押し続けます。

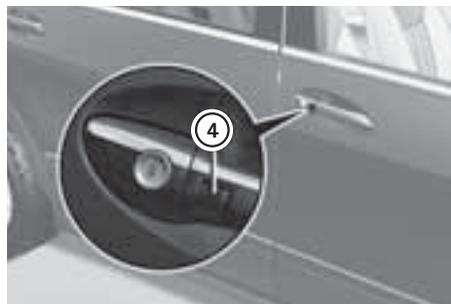
パノラミックスライディングルーフ非装備車は、ドアウインドウが閉じます。

パノラミックスライディングルーフ装備車は、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフが閉じます。

パノラミックスライディングルーフなどが閉じた後、一度施錠ボタンから指を放し、再度施錠ボタンを押し続けると、電動ブラインドが閉じます。

施錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドはその位置で停止します。

キーレスゴー操作で閉じる *

キーが車外にあり、すべてのドアが閉じているときに操作できます。

右側フロントドア

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ④を押し続けます。

パノラミックスライディングルーフ非装備車は、ドアウインドウが閉じます。

パノラミックスライディングルーフ装備車は、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフ * が閉じます。

パノラミックスライディングルーフなどが閉じた後、一度キーレスゴースイッチ④から指を放し、再度キーレスゴースイッチを押し続けると、電動ブラインドが閉じます。

キーレスゴースイッチ④から指を放すと、作動中のドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドはその位置で停止します。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 警告

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ 警告

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、シフトポジションが N のときも始動できますが、安全のため、必ずシフトポジションを P にして、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

i エンジンが冷えた状態で始動したときは、触媒が約 30 秒間予熱されます。このときは、エンジン音が通常と異なることがあります。

シフトポジション

シフトポジション	作動内容
P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 以下のときは、シフトポジションが自動的に P になります。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いたとき • 停車中またはごく低速で走行しているときに、シフトポジションが D か R の状態で運転席ドアを開いたとき
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、自動的に N になります。 ! シフトポジションを N にしたまま走行すると、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

キーによるエンジンの始動

ⓘ キーによるエンジン始動を行なうときは、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチ * を取り外します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

ⓘ **タッチスタート機能：**エンジンスイッチに差し込んだキーを **3** の位置（▷82 ページ）までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

キーレスゴーによるエンジンの始動 *

⚠ **警告**

ごく短時間でも、車から離れるときは子供だけを車内に残さないでください。また、必ずキーを携帯してください。キーレスゴー操作により車が発進して事故の原因になったり、運転装置に触れてけがをするおそれがあります。

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

エンジンが始動します。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して走行を開始すると、警告音が鳴ります。また、マルチファンクションディスプレイに " ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ " と数秒間表示されます。この警告は、停車してドアやテールゲートを開いた後に走行を開始するたびに行なわれます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

発進

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、車輪を空転させないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

i 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷165 ページ）をご覧ください。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にします。

⚠ 警 告

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

i ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシスト

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

ヒルスタートアシストの作動

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

⚠ 警 告

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にしてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートアシストは解除され、車が動き出すおそれがあります。

i ヒルスタートアシストの機能は解除できません。

ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションが N のとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

駐車

⚠ 警 告

駐停車するときは、マフラーや排気系部品が、枯れ草や紙くず、油などの燃えやすいものに触れないようにしてください。発火して、火災が発生するおそれがあります。

⚠ 警 告

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、パノラミックスライディングルーフ * を閉じて、車を施錠してください。

確実に駐車するために、以下のことを確認してください。

- パーキングブレーキが確実に効いていること
- シフトポジションが P になっていて、エンジンスイッチからキーが抜かれているか、イグニッション位置が **0** になっていること
- 坂道で駐車するときは、前輪が歩道方向に向いていること

パーキングブレーキ

⚠ 警 告

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル②を踏み、左足でパーキングブレーキペダル③をいっぱいまで踏み込みます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダル②をいっぱいまで踏みます。

▶ 解除ハンドル①を手前に引きます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が消灯します。

i パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

エンジンの停止

⚠ 警告

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

車のコントロールを失って事故を起こし、乗員がけがをするおそれがあります。

そのため、走行中はエンジンを停止しないでください。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

エンジンを停止する

▶ 完全に停車します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーのボタンを押して、シフトポジションを P にします。

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

▶ キーをまわし、イグニッション位置を **0** にして、キーを抜きます。

イモビライザーが作動します。

i シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。さらにこの状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、シフトポジションが P になります。

ただし、シフトポジションを N にしてエンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは P になりません。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ * を取り付けているとき

▶ エンジンが停止するまで、キーレスゴースイッチを押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

走行中にキーレスゴースイッチを約3秒間押すとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

ℹ 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。

ℹ シフトポジションが D か R のときにキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。さらにこの状態でフロントドアを開くと、シフトポジションが P になります。

ℹ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

長期間駐車するとき

約4週間以上駐車したままにすると、バッテリーが完全放電して損傷するおそれがあります。このようなときは、以下のようにしてください。

▶ バッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。

ℹ バッテリー充電器については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

約6週間以上駐車したままにすると、不具合が発生するおそれがあります。このようなときは、別途対応が必要です。

▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

エンジンのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置にまわすか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまで、キーレスゴースイッチを押してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷339 ページ）。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ スターターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 触媒を損傷するおそれがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
冷却水温度が約120℃を超えている。 冷却水警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▷255 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転してください。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。
エンジンが停止しない。	エンジンスイッチに異常がある。 ▶ エンジンルーム内にあるヒューズボックスを開きます。 ▶ エンジンルーム内ヒューズボックスの 120 番のヒューズを抜きます。 エンジンが停止します。 エンジンを再始動するとき： ▶ ヒューズを交換してください。

オートマチックトランスミッション

⚠ **警告**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットやカーペットは正しく固定し、ペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

⚠ **警告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

セレクターレバー

① セレクターレバー
② パーキングポジションの選択
③ ニュートラルポジションの選択
④ ニュートラルポジションの選択
⑤ リバースポジションの選択
⑥ ドライブポジションの選択

! セレクターレバーはステアリングの右側にあります。方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こしたり、車を損傷するおそれがあります。

シフトポジションを P にする

▶セレクターレバー①の先端のボタンを②の方向に押します。

シフトポジションを N にする

▶セレクターレバー①を③または④の方向に軽く操作します。

シフトポジションを R にする

▶セレクターレバー①を⑤の方向にいっぱいまで操作します。

シフトポジションを D にする

▶セレクターレバー①を⑥の方向にいっぱいまで操作します。

シフトポジション

シフトポジション	作動内容
P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動／停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 以下のときは、シフトポジションが自動的に P になります。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いたとき • 停車中またはごく低速で走行しているときに、シフトポジションが D か R の状態で運転席ドアを開いたとき
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、自動的に N になります。 ! シフトポジションを N にしたまま走行すると、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1速～7速の範囲で自動的に変速します。

⚠ **警告**

約 10km/h 以下で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更できますが、シフトポジションが変更されたことに気付かずに一旦停止して、再度走り出すと、車が不意に後退または前進して事故を起こすおそれがあります。

エンジンを停止してシフトポジションが自動的に N になったときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを効かせてください。車が動き出すおそれがあります。

! セレクターレバーを操作するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

! シフトポジションを P または R にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、車輪を空転させないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

i セレクターレバーから手を放すと、セレクターレバーは中立の位置に戻ります。

i シフトポジションが R のときは、確認音が鳴ります。

i シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。さらに、この状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが P になります。

ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションが N のときにエンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは P になりません。

i 停車してイグニッション位置が **2** のとき、またはごく低速で走行しているとき、シフトポジションが D または R の状態で運転席ドアを開くと、シフトポジションが P になります。

ただし、運転席ドアが開いている状態でシフトポジションを D または R にしたときは、前進 / 後退することができます。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを P から D または R にできます。

i イグニッション位置が **1** で、ブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを P から N にできます。

i シフトポジションを P から他のシフトポジションにするときにブレーキペダルが踏まれていないと、マルチファンクションディスプレイに "P ﾚﾝｼﾞ ｶﾗ ｼﾌﾄ　ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。

ⓘ 約 10km/h 以上で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更しようとすると、N になります。

ⓘ イグニッション位置が **2** のとき、シフトポジションが N の状態で運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに " ｾﾚｸﾀｶﾞ ｿｳｺｳｲﾁ " と表示され、警告音が鳴ります。

ⓘ 約 10km/h 以下でセレクターレバー先端のボタンを②の方向に押すと、シフトポジションが P になります。また、約 15km/h 以上でセレクターレバー先端のボタンを②の方向に押したときは、シフトポジションは P にならず、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "P ﾚﾝｼﾞ ﾊ ﾃｲｼｼﾞ ﾉﾐ " と表示されます。

シフトポジション表示

① シフトポジション表示
（ドライブポジションが選択されている状態）

マルチファンクションディスプレイが表示されているときに、選択されているシフトポジションがシフトポジション表示①に反転表示されます。

! マルチファンクションディスプレイが故障してシフトポジションが表示されないときは、セレクターレバーを慎重に操作してゆっくりとアクセルペダルを踏み、選択されたシフトポジションを確認してから走行してください。できれば、シフトポジションを D にして、ティップシフトは解除してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

シフトポジションの選択

オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが D のとき、以下の状況に合わせて自動的にギアを変速します。

- 選択されているギアレンジ
- 走行モード（▷141 ページ）
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

⚠ 警告

キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

停車する

▶ 一時的に停車するときは、シフトポジションを D にしたままブレーキペダルを踏みます。

▶ やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にします。

⚠ 警告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが D か R になると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

! 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

! 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。

走行モード

路面の状況や運転に合わせて、オートマチックトランスミッションのギアの変速特性を選択できます。

走行モード	作動内容
E モード	快適性と経済性を重視したモードです。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。

走行モードの選択

▶ 走行モード選択スイッチ①を押します。

E モード→ S モード→ E モードと切り替わります。

走行モード表示

イグニッション位置を **2** にすると、マルチファンクションディスプレイに走行モード表示①が表示されます。

ⓘ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは E モードになります。

パドルによる操作

① 左側パドル（低いギアレンジを選択）
② 右側パドル（高いギアレンジを選択）

シフトポジションが D のときは、パドルを操作して、オートマチックトランスミッションの変速範囲を変えることができます（▷143 ページ）。

オートマチックギアシフト

走行モードが E モードのときは、以下のようになります。

- エンジンが快適性を重視した設定になります。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃料の余分な消費が抑えられます。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが S モードのときは、以下のようになります。

- エンジンがスポーティな設定になります。
- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- シフトアップが遅めに行なわれるため、エンジン回転数が高くなり、燃料をより多く消費します。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要なシフトアップを抑えます。

シフトポジションが D のときにティップシフトにできます。

レンジ	作動内容
D	1 速〜 7 速の範囲で変速します。
D6	1 速〜 6 速の範囲で変速します。
D5	1 速〜 5 速の範囲で変速します。
D4	1 速〜 4 速の範囲で変速します。
D3	1 速〜 3 速の範囲で変速します。 エンジンブレーキが必要なときに使用します。
D2	1 速〜 2 速の範囲で変速します。 下り坂や山道、悪路を走行するときに使用します。
D1	1 速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。急な下り坂や長い下り坂を走行するときに使用します。

⚠ 警告

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。また、駆動輪が空転すると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

ⓘ ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。

ⓘ エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

ⓘ ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数により異なります。

ティップシフトにする

① 左側パドル（低いギアレンジを選択）
② 右側パドル（高いギアレンジを選択）

③ ギアレンジ表示

▶ シフトポジションが D のときに、左側パドル①を引きます。

ティップシフトになり、ギアレンジ表示 ③ に選択されたギアレンジが表示されます。

ℹ シフトダウン操作によりエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、エンジン保護のため、シフトダウンされません。

ℹ 加速時にエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、エンジン保護のため、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側パドル①を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側パドル②を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側パドル②を引いて保持します。

または

▶ セレクターレバーを D の方向に操作します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示 ③ に "D" が表示されます。

最適なシフトレンジを選択する

▶ 左側パドル ① を引いて保持します。

そのときの加速や減速に最も適したギアレンジが選択されます。

ℹ ティップシフトにしていないときに右側パドル ② を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

オートマチックトランスミッションのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常があり、エマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ シフトポジションを D にします。 2 速ギアになります。 または ▶ シフトポジションを R にします。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷23 ページ）をご覧ください。

⚠ **警告**

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの点灯

メーターパネルは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約 30 秒後に消灯）
- メーターパネル照度調整ボタンまたはリセットボタンを押したとき（約 30 秒後に消灯）
- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき（イグニッション位置を **0** にしてから約 30 秒後に消灯）
- 車外ライトが点灯したとき（車外ライトが消灯してから約 30 秒後に消灯）

スピードメーター

車の走行速度を表示します。

速度の表示単位をマイルに変更することもできますが、表示単位をマイルにすると、表示単位を km/h にしたときに比べ、同じ数字でも約 1.6 倍の速度になります。速度の出しすぎを防ぐため km/h 表示にしてください。

表示単位の切り替えについては（▷159 ページ）をご覧ください。

ℹ 1mph は約 1.6km/h です。

ℹ 表示単位をマイルにすると、トリップメーターなどの表示単位もマイルになります。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

外気温度表示

外気温度を表示します。

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

⚠ 警告

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

① 照度調整ボタン（明）
② リセットボタン
③ 照度調整ボタン（暗）

メーターパネル照度調整ボタン

周囲が暗いときにメーターパネルの明るさを調整できます。

照度を上げる

▶ 照度調整ボタン①を押します。

照度を下げる

▶ 照度調整ボタン③を押します。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定などをリセットするときに使用します。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 80 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 13 リットルです。

ℹ 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

時計

時刻は、COMAND システムの時刻に連動します。

時刻の調整については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイ

警告

マルチファンクションディスプレイは道路と交通状況が許すときにのみ操作してください。注意がそれ、運転に集中することができず、事故の原因になります。

警告

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障しているときは、メッセージは表示されません。

その結果、速度や外気温度、警告灯や表示灯、メッセージなどの走行状態を示す情報を得ることができなくなります。また、走行特性に変化が出る可能性もあります。運転スタイルと走行速度を状況に合わせてください。

また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

警告

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムの故障および警告のみを記録および表示します。そのため、車両が安全に使用できることを常にお客様自身で確認してください。安全性が確保されていない車両を運転することにより、事故の原因になります。

警告

不適切な作業を行なうと、車両安全性に悪影響を与えるおそれがあります。その結果、車両操縦性を失い、事故の原因になります。さらに、安全装備が設計通りに乗員を保護できなくなります。

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

警告

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

マルチファンクションディスプレイの操作

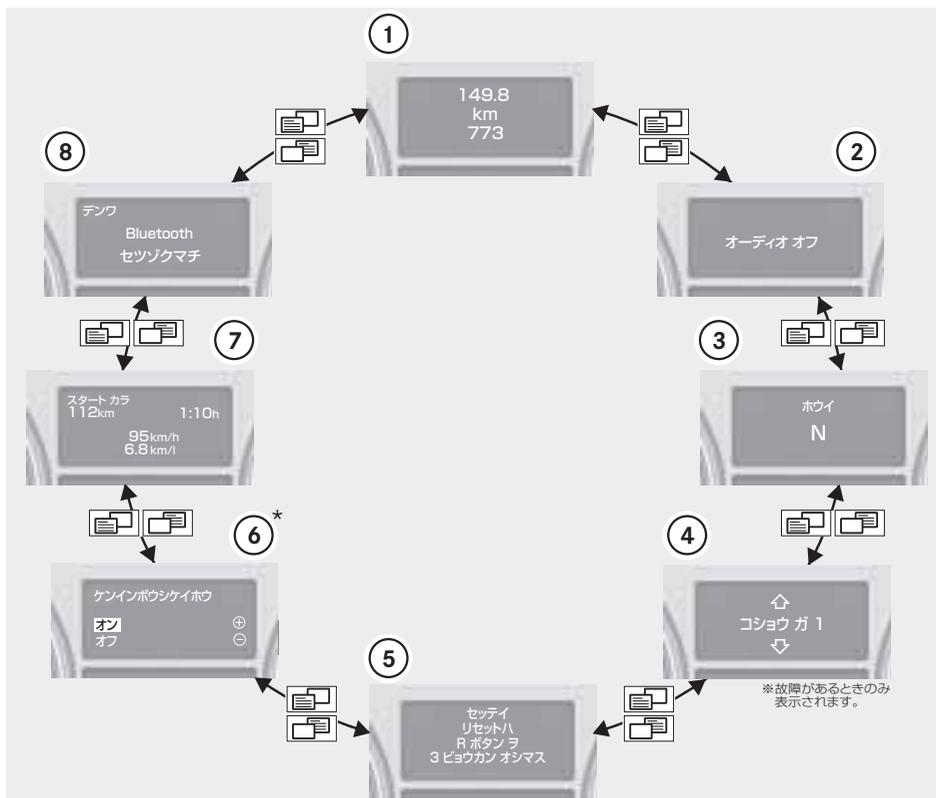
イグニッション位置を **1** にすると、マルチファンクションディスプレイは作動します。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイを操作します。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**通話終了スイッチ** • 電話の保留 / 切断 • 電話帳表示や発信履歴表示の終了 **通話開始スイッチ** • 電話の発信 / 受信 • 発信履歴の表示 **設定スイッチ / 音量スイッチ** + − • 設定メニューでの設定グループの選択 • 各設定項目での数値や設定の変更や、機能のオン / オフの選択 • メインメニューやオーディオメニュー表示中の音量の調節 **音声認識スイッチ** 音声認識の使用
③	**スクロールスイッチ** • 選択したメインメニュー内での表示の切り替え • オーディオメニュー表示中のオーディオやテレビの選曲・選局、DVD ビデオのチャプターの選択 • 電話メニュー表示中の電話帳や発信履歴の選択 **表示切り替えスイッチ** メインメニューの選択 **音声認識解除スイッチ** OFF 音声認識の中止

ステアリングスイッチでのCOMAND システムの操作については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メインメニューの一覧

①	**車両情報**（▷151 ページ） • タイヤ空気圧警告システム（▷264 ページ） • メンテナンスインジケーター（▷277 ページ）
②	**オーディオ**（▷154 ページ）
③	**ナビ**（▷156 ページ）
④	**故障表示**（▷156 ページ）
⑤	**設定**（▷157 ページ）
⑥	**車両設定** *（▷168 ページ）
⑦	**トリップコンピューター**（▷169 ページ）
⑧	**電話**（▷171 ページ）

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車両情報

「車両情報」には以下の項目があります。

- 基本画面（トリップメーター、オドメーター）
- 走行情報表示
- タイヤ空気圧警告システム（▷264ページ）
- 冷却水温度表示
- サブスピードメーター / 外気温度表示
- メンテナンスインジケーター（▷277ページ）

基本画面（トリップメーター / オドメーター）

基本画面を表示させる

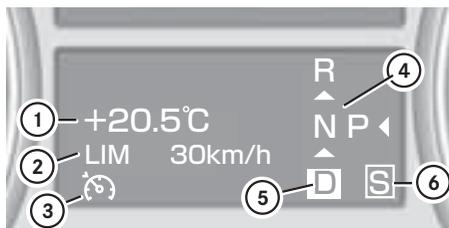
▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、基本画面を表示させせます。

①	トリップメーター	リセット後の走行距離を表示します。
②	オドメーター	これまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0に戻す）

▶ リセットボタン（▷147ページ）を、表示が0.0になるまで押し続けます。

走行情報表示

⚠ **警 告**

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

ℹ 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

ℹ 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

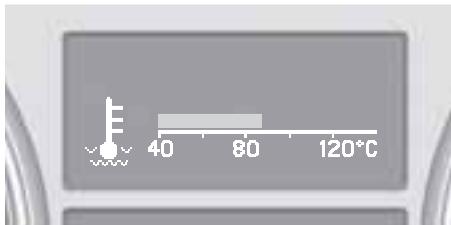
①	外気温度表示 / サブスピードメーター	外気温度または走行速度を表示します。 表示の切り替えは設定の " インストルメントクラスタ " の走行情報表示の設定（▷160 ページ）で行ないます。
②	可変スピードリミッター設定速度表示	可変スピードリミッター（▷177 ページ）で設定した速度を表示します。
③	クルーズコントロールインジケーター	クルーズコントロール（▷173 ページ）を作動させたときに表示されます。
④	シフトポジション表示	オートマチックトランスミッションのシフトポジションを表示します。 選択しているシフトポジションは反転表示されます（▷140 ページ）。
⑤	ギアレンジ表示	ティップシフトのときに選択しているギアレンジを表示します（▷143 ページ）。
⑥	走行モード表示	オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します（▷141 ページ）。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイヤ空気圧警告システム

詳しくは（▷264 ページ）をご覧ください。

冷却水温度表示

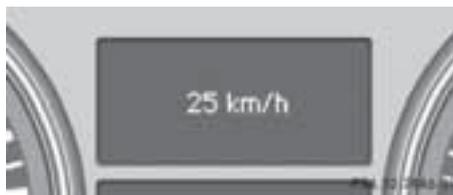
イグニッション位置が **2** のとき、エンジンの冷却水温度を表示します。

冷却水温度を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、基本画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、冷却水温度を表示させます。

ℹ 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

ℹ 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が右端付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷300 ページ）が表示されない限り、問題ありません。

サブスピードメーター / 外気温度表示

サブスピードメーター

外気温度表示

表示の切り替えは設定の " インストルメントクラスタ " の 走行情報表示の設定（▷160 ページ）で行ないます。

サブスピードメーター / 外気温度を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、基本画面を表示させます（▷151 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、サブスピードメーター / 外気温度を表示させます。

ℹ サブスピードメーターの表示単位を km/h または mph に切り替えることができます（▷160 ページ）。

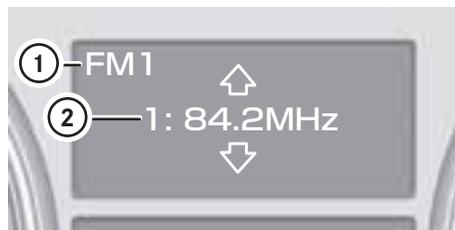
メンテナンスインジケーター

詳しくは（▷277 ページ）をご覧ください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オーディオ

ラジオ局を選局する

① "FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2" または "TI"
② ラジオ局名または受信周波数

COMAND システムで、FM ラジオまたは AM ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオメニューを表示させます。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ [△] または [▽] を押します。

プリセットされたラジオ局が選択されます。

ラジオ局を自動選局する

▶ 受信周波数が動きはじめるまで、[△] または [▽] を押して保持します。

次に受信できる周波数で停止します。

ℹ ラジオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

音楽を選曲する

① 音楽ソース表示
（"DISC" / "CARD" / "HDD" / "MEDIA" / "AUX"）
② トラック番号

COMAND システムで再生している音楽ソース（ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース、外部入力）が音楽ソース表示 ① に表示されます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオメニューを表示させます。

音楽を選曲する

ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェースのいずれかを再生しているときは選曲を行なうことができます。

▶ [△] または [▽] を押します。

次の曲または前の曲が選曲されます。

ℹ 音楽再生の詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

DVD ビデオのチャプターを選択する

① チャプター番号

COMAND システムで、DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

▶ [button] または [button] を押して、オーディオメニューを表示させます。

DVD ビデオのチャプターを選択する

▶ [△] または [▽] を押します。

次のチャプターまたは前のチャプターが再生されます。

ℹ DVD ビデオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

テレビ局を選局する

① "TV1" または "TV2"
② プリセット番号 / チャンネル番号

COMAND システムで、テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [button] または [button] を押して、オーディオメニューを表示させます。

テレビ局をプリセット選局する

▶ [△] または [▽] を押します。

プリセットされたテレビ局が選択されます。

テレビ局を自動選局する

▶ 受信チャンネルが動きはじめるまで、[△] または [▽] を押して保持します。

次に受信できるチャンネルで停止します。

ℹ テレビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ナビ

COMAND システムのナビ機能をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ナビメニューを表示させる

▶ または を押して、ナビメニューを表示させます。

ルート案内を行なっていないとき

マルチファンクションディスプレイにに進行方向の方位が表示されます。

ルート案内を行なっているとき

マルチファンクションディスプレイに進行方向や目的地までの距離、交差点（分岐点）または通過点までの距離が表示されます。

ℹ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

故障表示

①	故障件数表示 （この例では、1 件故障があります）
②	故障 / 警告メッセージの例

故障や異常が発生したとき、車の状況をメッセージで表示します。

ℹ 故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージが自動的に表示されます。

ステアリングの や またはリセットボタンを押すと、故障 / 警告メッセージが消えます。

故障 / 警告メッセージを手動で確認する

イグニッション位置が **1** か **2** のときに表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ [button] または [button] を押して、故障件数画面①を表示させせます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ [▲] または [▼] を押して、故障 / 警告メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

故障 / 警告メッセージのリセット

マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されているときは、イグニッション位置を **0** にすると、故障 / 警告メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

⚠ **警 告**

- 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷296 ページ～）をご覧ください。

設定

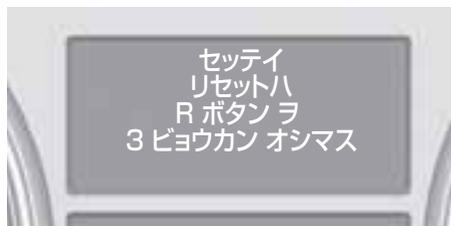
「設定」では、以下の項目が設定できます。

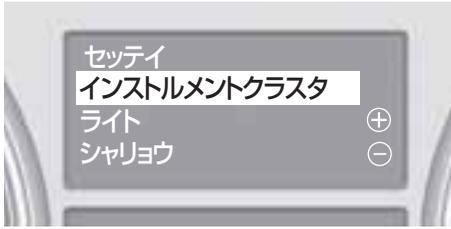
- 設定項目の初期化
- インストルメントクラスタ
- ライト
- シャリョウ
- コンフォート

❗ 設定の変更は必ず停車中に操作してください。

設定メニュー

設定メニューを表示させる

▶ [button] または [button] を押して、設定メニューを表示させせます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループの選択

設定グループを選択する

▶ 設定メニュー表示中に [△] を押して、設定グループを表示させせます。

▶ [＋] または [－] を押して、設定したいグループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、[△] を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目が表示されます。

設定項目を選択する

▶ [△] または [▽] を押して、設定項目を選択します。

設定を変更する、機能のオン / オフを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

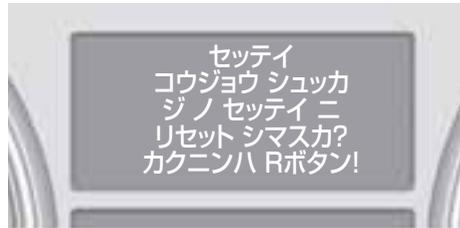
選択した設定が記憶されます。

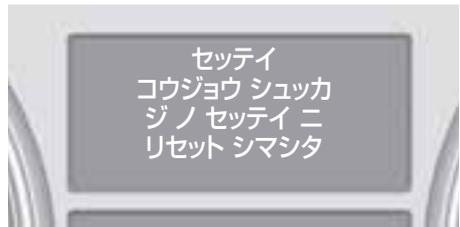
設定項目の初期化

設定メニューのすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

設定項目を初期化する

▶ [ ] または [ ] を押して、設定メニューを表示させせます（▷157 ページ）。

▶ リセットボタン（▷147 ページ）を約 3 秒間押し続けます。

確認画面が表示されます。

▶ 確認画面が表示されているとき（約 5 秒以内）に、再度リセットボタンを押します。

初期化を実行し、初期化完了画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ℹ 確認画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、設定メニューに切り替わります。

ℹ 初期化すると、設定グループの表示になります。

ℹ 安全のため、エンジンがかかっているときに設定項目すべての初期化を行なうことはできません。このときはマルチファンクションディスプレイに " ｾｯﾃｲ ｴﾝｼﾞﾝｻﾄﾞｳﾁｭｳﾊ ｺｳｼﾞｮｳ ｼｭｯｶｼﾞﾉ ｾｯﾃｲ ﾆ ﾘｾｯﾄ ｽﾙｺﾄﾊﾃﾞｷﾏｾﾝ !" と表示されます。

インストルメントクラスタ

「インストルメントクラスタ」では以下の項目の設定ができます。

- 速度・距離単位の設定
- サブスピードメーターの単位の設定
- ディスプレイ言語の設定
- 走行情報表示の設定

設定グループを選択する

▶ [⊟] または [⊟] を押して、設定メニューを表示させます（▷157 ページ）。

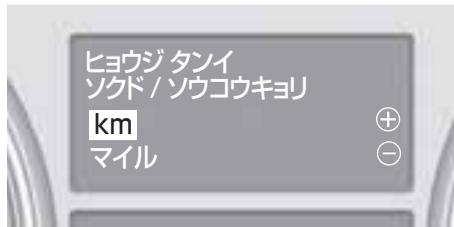
▶ 設定メニュー表示中に [△] を押して、設定グループを表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、" インストルメントクラスタ " を選択します。

設定項目を選択する

▶ [△] または [▽] を押します。

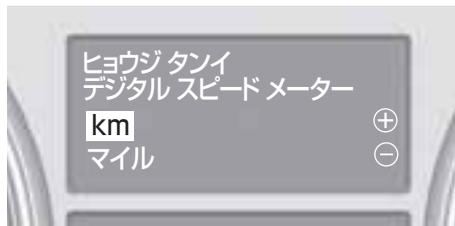
インストルメントクラスタの各設定項目画面が表示されます。

速度・距離単位の設定

スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの速度と走行距離などの表示単位の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示単位が km/h、km などになります。
マイル	表示単位が mph、マイル、MI などになります。

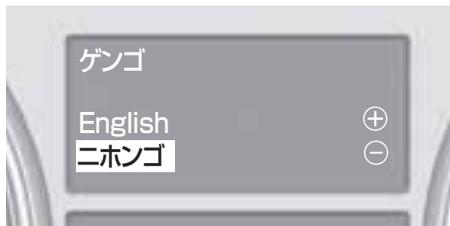
❗ 1mph は約 1.6km/h です。表示単位がマイルになっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず表示単位を km にしてください。

サブスピードメーターの単位の設定

マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター（▷151 ページ）の単位の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	km/h になります。
マイル	mph になります。

! 1mph は約 1.6km/h です。表示単位がマイルになっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず表示単位を km にしてください。

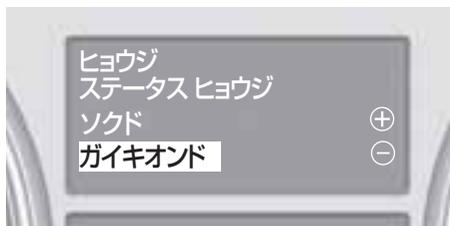
ディスプレイ言語の設定

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ニホンゴ	日本語表示になります。

ℹ COMAND システムの言語設定を " ﾏﾙﾁﾌｧﾝｸｼｮﾝﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲと同期 " に設定しているときは、この画面で設定した言語が COMAND システムにも適用されます。詳細については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

走行情報表示の設定

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行情報表示（外気温度）

走行情報表示（▷151 ページ）の表示項目の設定ができます。

▶ ［＋］または［－］を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ソクド	走行情報表示にサブスピードメーターが表示されます。 このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター / 外気温度表示（▷153 ページ）には外気温度が表示されます。
ガイキオンド	走行情報表示に外気温度が表示されます。 このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター / 外気温度表示（▷153 ページ）にはサブスピードメーターが表示されます。

ライト

「ライト」では以下の項目の設定ができます。

- ヘッドライト点灯モードの設定
- ロケイターライティングの設定
- 車外ライト消灯遅延機能の設定
- ルームランプ消灯遅延機能の設定

設定グループを選択する

▶ ［⊟］または［⊟］を押して、設定メニューを表示させます（▷157 ページ）。

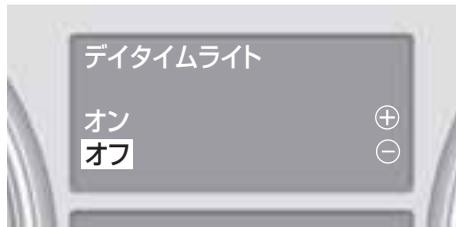
▶ 設定メニュー表示中に［△］を押して、設定グループを表示させます。

▶ ［＋］または［－］を押して、" ライト " を選択します。

設定項目を表示させる

▶ ［△］または［▽］を押します。

ライトの各設定項目が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ヘッドライト点灯モードの設定

ヘッドライトの点灯モードの設定ができます。

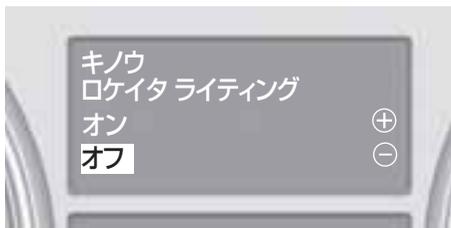
▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	常時点灯モードです。 ライトスイッチを [0] か [AUTO] の位置にしているときに、エンジンを始動すると、ヘッドライトなどが常に点灯します。
オフ	手動点灯モードです。 ヘッドライトなどを点灯するときはライトスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。

! 安全のため、エンジンがかかっているときは設定を変更することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ﾊ ｴﾝｼﾞﾝ ｵﾌ ﾉﾄｷﾉﾐ ｶﾉｳﾃﾞｽ" と表示されます。

ℹ 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

ℹ 常時点灯モードで自動的に点灯するライトは、車幅灯、ヘッドライト、LED ドライビングライト、テールランプ、ライセンスライトです。ヘッドライトを上向きにしたり、リアフォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

ロケイターライティングの設定

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ライトが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、車幅灯、ヘッドライト、LED ドライビングライト、テールランプ、ライセンスライトが点灯します。
オフ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（▷67 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車外ライト消灯遅延機能の設定

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ライトが点灯する機能の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、ヘッドライト、LED ドライビングライト、テールランプ、ライセンスライトが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。
オフ	車外ライト消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷111 ページ）をご覧ください。

ルームランプ消灯遅延機能の設定

ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷114 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

シャリョウ

「シャリョウ」では以下の項目の設定ができます。

- エンジン停止時の表示の設定 *
- ウィンタータイヤスピードリミッターの設定
- 車速感応ドアロックの設定
- アンサーバック機能の設定 *

設定グループを選択する

▶ [⊟] または [⊟] を押して、設定メニューを表示させせます（▷157 ページ）。

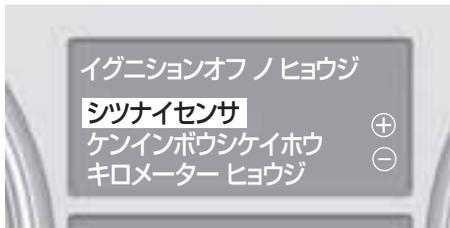
▶ 設定メニュー表示中に [△] を押して、設定グループを表示させせます。

▶ [＋] または [－] を押して、" シャリョウ " を選択します。

設定項目を表示させる

▶ [△] または [▽] を押します。

シャリョウの各設定項目画面が表示されます。

エンジン停止時の表示の設定 *

イグニッション位置を **0** にしたときやエンジンスイッチからキーを抜いたときに、最初に表示される画面の設定ができます。

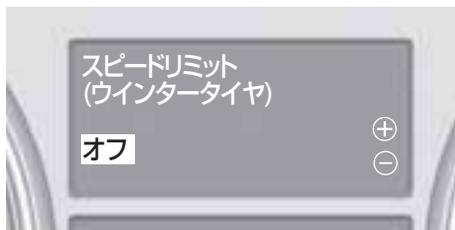
▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
シツナイセンサ	室内センサーのオン / オフが表示されます。
ケンインボウシケイホウ	けん引防止警報機能のオン / オフが表示されます。
キロメーターヒョウジ	基本画面になります。

ℹ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 2 分間経過すると、室内センサーやけん引防止警報機能を解除したり、待機状態にすることはできなくなります（▷59、60 ページ）。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ウィンタータイヤスピードリミッターの設定

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

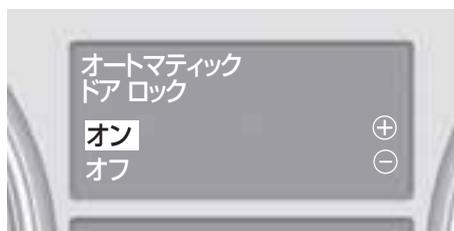
日本仕様でも設定はできますが法定速度を守って走行してください。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

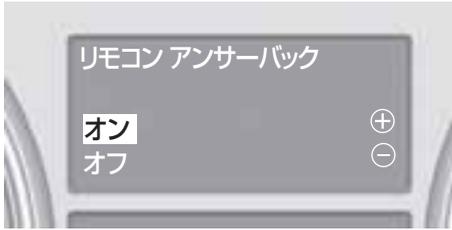
ⓘ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。詳しくは（▷177 ページ）をご覧ください。

▶ [+] または [−] を押して、設定内容を選択します。

車速感応ドアロックの設定

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷76 ページ）をご覧ください。

アンサーバック機能の設定 *

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を施錠したときに確認音が鳴る機能の設定ができます。

※仕様により、解錠時に確認音が鳴る場合もあります。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	アンサーバック機能が作動します。
オフ	アンサーバック機能は作動しません。

詳しくは（▷71 ページ）をご覧ください。

コンフォート

「コンフォート」では以下の項目が設定できます。

- イージーエントリーの設定 *
- フロントシートベルトのテンション自動調整機能の設定
- 施錠時のドアミラー格納の設定

設定グループを選択する

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、設定メニューを表示させます（▷157 ページ）。

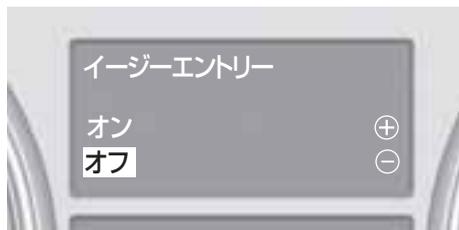
▶ 設定メニュー表示中に [△] を押して、設定グループを表示させます。

▶ [＋] または [－] を押して、" コンフォート " を選択します。

設定項目を表示させる

▶ [△] または [▽] を押します。

コンフォートの各設定項目画面が表示されます。

イージーエントリーの設定 *

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリーの設定ができます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ステアリングが上方に移動します。
オフ	イージーエントリー機能は作動しません。

詳しくは（▷98 ページ）をご覧ください。

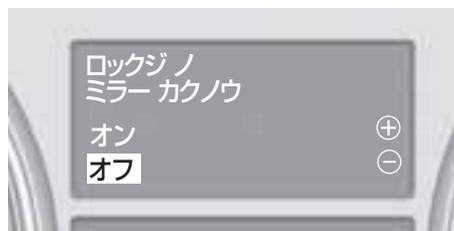
フロントシートベルトのテンション自動調整機能の設定

イグニッション位置が **2** のとき、フロントシートベルトが乗員の上半身に密着するように、テンション（締め付け具合）を自動的に調整する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	イグニッション位置が **2** のときに、フロントシートベルトのテンションが自動的に調整されます。
オフ	フロントシートベルトのテンションは調整されません。

詳しくは（▷106 ページ）をご覧ください。

施錠時のドアミラー格納の設定

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは（▷101 ページ）をご覧ください。

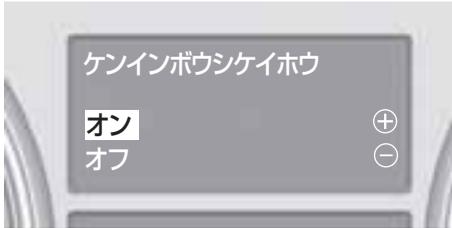
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車両設定 *

「車両設定」では、以下の項目の設定ができます。

- けん引防止機能の設定
- 室内センサーの設定

けん引防止機能の設定

盗難防止システムのけん引防止機能を設定できます。

けん引防止機能を設定する

▶ [⊟] または [⊟] を押して、けん引防止機能の設定を表示させせます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	けん引防止警報機能が待機状態になります。
オフ	けん引防止警報機能が解除されます。

ⓘ エンジン停止時の表示の設定（▷164 ページ）が "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ" のときは、イグニッション位置を **0** にするかエンジンスイッチからキーを抜くと、マルチファンクションディスプレイに "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ" または "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾝ" と表示されます。このとき [+] か [−] を押すと、けん引防止警報機能を待機状態にするか、または解除することができます。

詳しくは（▷59 ページ）をご覧ください。

室内センサーの設定

盗難防止システムの室内センサーを設定できます。

室内センサーを設定する

▶ [⊟] または [⊟] を押して、けん引防止機能の設定を表示させせます。

▶ [△] または [▽] を押して、室内センサーの設定を表示させせます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

表示	設定内容
オン	室内センサーが待機状態になります。
オフ	室内センサーが解除されます。

ℹ エンジン停止時の表示の設定（▷164 ページ）が " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ " のときは、イグニッション位置を **0** にするかエンジンスイッチからキーを抜くと、マルチファンクションディスプレイに " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾌ " または " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾝ " と表示されます。このとき [+] または [−] を押すと、室内センサーを待機状態にするか、または解除することができます。

詳しくは（▷60 ページ）をご覧ください。

トリップコンピューター

「トリップコンピューター」には以下の項目があります。

- エンジン始動時からの情報表示
- リセット時からの情報表示
- 走行可能距離表示
- 瞬間燃費表示

エンジン始動時からの情報表示

① エンジン始動時からの走行距離（km）
② エンジン始動時からの経過時間（h）
③ エンジン始動時からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動時からの平均燃費（km/l）

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

ℹ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、自動的にリセットされます。約 4 時間以内にイグニッション位置を **1** か **2** にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999 時間経過後、または 9,999km/ マイル走行後に自動的にリセットされます。

エンジン始動時からの情報を表示させる

▶ エンジン始動時からの情報が表示されるまで、[ボタン] または [ボタン] を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両の操作

エンジン始動時からの情報を手動でリセットする

エンジン始動時からの情報は手動でリセットすることもできます。

▶ エンジン始動時からの情報が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷147 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

リセット時からの情報表示

① リセット時からの走行距離（km）
② リセット時からの経過時間（h）
③ リセット時からの平均速度（km/h）
④ リセット時からの平均燃費（km/l）

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

リセット時からの情報を表示させる

▶ [□] または [□] を押して、エンジン始動時からの情報を表示させます。

▶ リセット時からの情報が表示されるまで、[△] または [▽] を押します。

リセットする

▶ リセット時からの情報が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷147 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ℹ リセット後は、9,999 時間経過後、または 99,999km/ マイル走行後に自動的にリセットされます。

走行可能距離表示

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。イグニッション位置が **2** のときに表示されます。

走行可能距離を表示させる

▶ [□] または [□] を押して、エンジン始動時からの情報を表示させます（▷169 ページ）。

▶ 走行可能距離が表示されるまで、[△] または [▽] を押します。

! 表示される走行可能距離は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されるか、[⛽] が表示されます。

最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

瞬間燃費表示

そのときの瞬間燃費を km/l 単位で表示します。エンジンがかかっているときに表示されます。

瞬間燃費を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、エンジン始動時からの情報を表示させます(▷169 ページ)。

▶ 瞬間燃費が表示されるまで、[▲] または [▼] を押します。

電話

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ℹ COMAND システムには Bluetooth® 接続で携帯電話を接続できます。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

⚠ **警告**

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話を発信しないでください。

また、走行中に電話が着信したときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

ℹ 走行中は一部の機能が使用できなくなります。

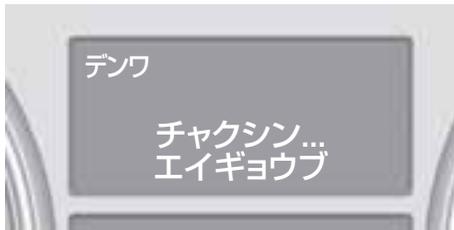
電話メニューを表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、電話メニューを表示させせます。

マルチファンクションディスプレイに " デンワ マチウケ " と表示されます。

着信した電話を受ける

発信元が電話帳データに登録されている場合

電話が着信すると上記のようなメッセージが表示されます。

▶ 着信呼び出し中に [受話ボタン] を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ [終話ボタン] を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に [終話ボタン] を押します。

ℹ 上記の操作は電話メニューを表示していないときも行なうことができます。

電話帳から電話を発信する

COMAND システムに登録されている電話帳から電話を発信できます。

ℹ COMAND システムの電話帳には、COMAND システムから直接電話帳データを入力したり、携帯電話や PC カードからデータをダウンロードできます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、電話メニューを表示させせます。

▶ [▲] または [▼] を押して、電話帳を呼び出します。

▶ [▲] または [▼] を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

ℹ [▲] または [▼] を押し続けると、はじめの 7 件目までは 1 件づつ表示されます。

[▲] または [▼] をさらに押し続けると、8 件目からは五十音順またはアルファベット順の先頭のデータが表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ [電話] を押します。

マルチファンクションディスプレイに、" ハッシン ..." のメッセージと発信した電話番号が表示されます。電話帳に名前が登録されているときは、名前が表示されます。また、発信した番号が履歴に登録されます。

ℹ 電話帳データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに [▲] または [▼] を押して電話番号を選択してから、[電話] を押すと発信されます。

ℹ ステアリングの [終話] スイッチを押し、電話を発信しないで電話帳を閉じたときは、待ち受け画面に戻ります。

発信履歴から電話を発信する

▶ [◀] または [▶] を押して、電話メニューを表示させせます。

▶ マルチファンクションディスプレイに " マチウケ " と表示されているときに、[電話] を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ [▲] または [▼] を押して、発信先を選択します。

▶ [電話] を押します。

走行装備

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

⚠ 警 告

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  - ◇ 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  - ◇ 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面
  - ◇ 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

! クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

車両の操作

! 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ 警告

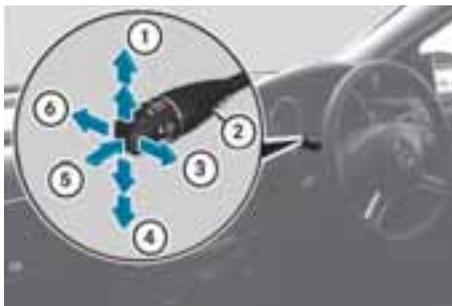
路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキペダルの動きを妨げるおそれがあります。

また、物やフロアマットなどで、ブレーキペダルの動きが妨げられないことを走行前に確認してください。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷302 ページ）をご覧ください。

クルーズコントロールの使いかた

① 現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールを解除する

可変スピードリミッター（▷177 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯 ② が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯 ② が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを ⑤ の方向に押すと表示灯が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯 ② が消灯していることを確認して、希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを ① か ④ の方向に操作します。

そのときの速度にクルーズコントロールが設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

⚠ 警告

記憶されている速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速をして事故を起こすおそれがあります。

⑦ 設定速度
⑧ クルーズコントロールインジケーター

マルチファンクションディスプレイに設定速度 ⑦ が表示され、数秒後に走行情報表示に移動します。

また、走行情報表示にクルーズコントロールインジケーター ⑧ が表示されます。

ℹ 走行速度が約 30km/h 以下のときや、ESP® オフスイッチで ESP® の機能を解除しているときはクルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "—km/h" が数秒間点滅します。

ℹ クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると記憶された速度は消去されます。

ℹ クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを ① の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が上がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに " クルーズ゛コントロール " と設定速度が表示され、数秒後に走行情報表示に移動します。

! レバーを ① の方向に操作してクルーズコントロールの設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度に到達するために車が加速することがあります。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

または

▶ レバーを ④ の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が下がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに " クルーズ゛コントロール " と設定速度が表示され、数秒後に走行情報表示に移動します。

⚠ **警 告**

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると、挟まれたりブレーキペダルの動きを妨げるおそれがあります。

また、物やフロアマットなどで、ブレーキペダルの動きが妨げられないことを走行前に確認してください。

ℹ レバーを ④ の方向に操作して減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、設定速度に戻ります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを ⑥ の方向に操作します。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ② が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

⚠ **警 告**

クルーズコントロールはシフトポジションを N にしても解除されますが、走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ⓘ 以下のときはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- シフトポジションを N にしたとき
- ESP® が作動したとき
- ESP® オフスイッチで ESP® の機能を解除したとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ" と表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは自動的に解除されます。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定速度を超えないように走行できます。

設定できる速度は 30km/h から 210km/h の間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度では走行できません。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

警告

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターは、ブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

警告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

警告

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキの動きを妨げるおそれがあります。

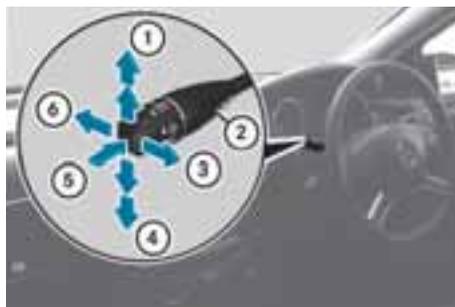
また、物やフロアマットなどで、ブレーキペダルの動きが妨げられないことを走行前に確認してください。

! 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷302 ページ）をご覧ください。

i ウィンタータイヤスピードリミッター（▷165 ページ）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

i 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄｦ ｺｴﾏｼﾀ" と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

① 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤ 可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロール（▷173 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯 ② が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯 ② が消灯しているときは、クルーズコントロールの操作ができる状態です。レバーを ⑤ の方向に押すと表示灯 ② が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを設定する

▶ レバーを ① または ④ の方向に軽く操作します。

- 停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは 30km/h に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以上のときはそのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に再度設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。

⑦ 設定速度
⑧ 可変スピードリミッター表示灯

マルチファンクションディスプレイに"リミット"と設定速度⑦が表示され、数秒後に走行情報表示に移動します。

また、メーターパネルの可変スピードリミッター表示灯⑧が点灯します。

ℹ 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度**0**か**1**にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは、可変スピードリミッターは設定できません。

⚠ **警告**

- 制限速度を設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。
- 前回の設定速度が走行速度よりも低いときは、前回の設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h単位で設定速度が上がります。
- 1km/h単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後10km/h単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。"リミット"と設定速度がマルチファンクションディスプレイに表示され、数秒後に走行情報表示に移動します。

設定速度を下げる

▶ レバーを④の方向に軽く操作します。

1km/h単位で設定速度が下がります。

または

▶ レバーを④の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h単位で設定速度が下がります。
- 1km/h単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後10km/h単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。"リミット"と設定速度がマルチファンクションディスプレイに表示され、数秒後に走行情報表示に移動します。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に操作します。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ② が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

ⓘ 次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。ただし、走行速度が設定速度より約 20km/h 以上低いときは、キックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

- エンジンを停止したとき

4MATIC

4MATIC は、滑りやすい路面での発進時や加速時の走行安定性を向上させ、車両操縦性を確保しようとする 4 輪駆動システムです。

⚠ **警 告**

- 4MATIC は車両操縦性や走行安定性を高める装備で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。4MATIC 車でも、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。
- 運転時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 滑りやすい路面などでいずれかのタイヤが空転したときは、アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

  ◇ 急ハンドル

  ◇ 急ブレーキ

  ◇ 急発進、急加速

  ◇ 急激なエンジンブレーキ

❗ 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

❗ ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

❗ ダイナモメーターを使用して点検などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、4MATIC の効果が発揮されます。

パークトロニック

パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

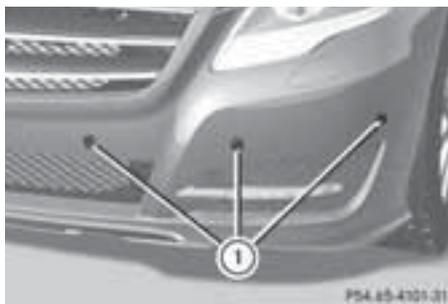
⚠ **警 告**

パークトロニックは運転者を支援するシステムであり、すべての障害物を検知するわけではありません。また、注意を払った運転の代わりになるものでもありません。

運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。

⚠ **警 告**

周辺に人や動物がいないことを確認してください。

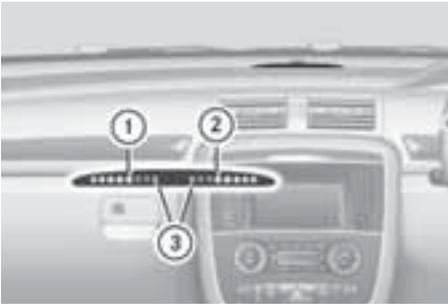
パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

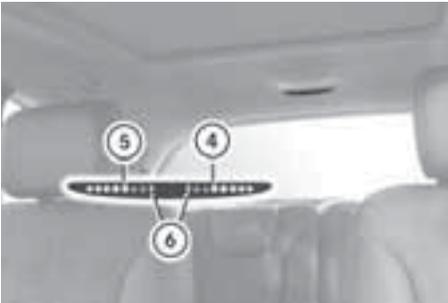
リア
② センサー

フロントバンパーの 6 個のセンサー ① とリアバンパーの 4 個のセンサー ② が車の周辺の障害物などを感知します。

❗ センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。

❗ センサーに損傷を与えないように注意してください。正しく作動しなくなるおそれがあります。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ 作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
④ 左側インジケーター
⑤ 右側インジケーター
⑥ 作動表示灯

リアのインジケーターと作動表示灯はサードシート上方の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離をインジケーターの点灯数で示します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i イグニッション位置を **2** にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

イグニッション位置が **2** でパーキングブレーキが解除されているとき、シフトポジションに応じて以下のように作動します。

シフトポジション	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③とリアの作動表示灯⑥が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

i パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じてインジケーターが点灯し、警告音も鳴ります。

ℹ パークトロニックは、走行速度が約 18km/h 以下のときに作動します。走行速度が約 18km/h 以上になると機能が解除されます。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

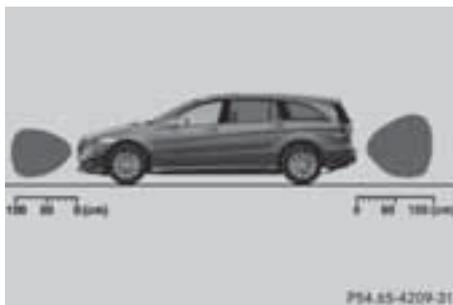
障害物との距離が近くなったとき

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

❗ 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

側方から見た感知範囲

上方から見た感知範囲

フロントバンパー側	センサー感知範囲
センター	約 100cm ～ 20cm
コーナー	約 60cm ～ 15cm

リアバンパー側	センサー感知範囲
センター	約 120cm ～ 20cm
コーナー	約 80cm ～ 15cm

! 車のセンターでバンパーから約20cm 以内、コーナーでバンパーから約 15cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

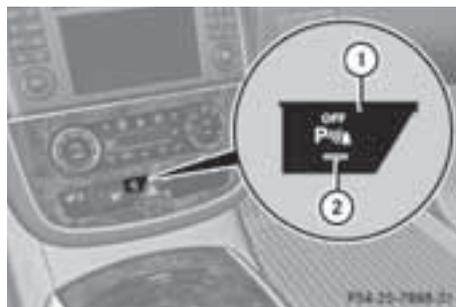
! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 路面が平坦でないときは、パークトロニックは正常に作動しないことがあります。

パークトロニックオフスイッチ

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックを停止することができます。

パークトロニックを停止する

▶ イグニッション位置が **2** のときに、パークトロニックオフスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ パークトロニックオフスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が消灯します。

ℹ パークトロニックオフスイッチでパークトロニックを停止しても、次にイグニッション位置を **2** にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

パークトロニックのトラブル

<table>
<tr><th>トラブル</th><th>考えられる原因および症状 / ▶ 対応</th></tr>
<tr><td>パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴った。
約 20 秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。</td><td>パークトロニックに異常があり、機能が停止している。
▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックが解除された。</td><td>パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。
▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷284 ページ）。
▶ 再度、イグニッション位置を 2 にしてください。</td></tr>
<tr><td>外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。
▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷184 ページ）。</td></tr>
</table>

サイドビューカメラ

助手席側ドアミラー下部に装着されたカメラにより、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の映像を、COMAND ディスプレイに表示します。

また、ガイドラインにより、カーブなどでの走行を補助します。

発進する際などには、必ずサイドビューカメラで助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の状況を確認してください。

⚠ **警 告**

- サイドビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はサイドビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- サイドビューカメラ使用時においても安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- COMAND ディスプレイの映像には近くにある障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。COMAND ディスプレイの映像だけを見て発進や路肩への幅寄せなどをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

  サイドビューカメラ使用時においても、目視による安全確認を行ないながら運転してください。

! 乗車人数や荷物の積載量により、サイドビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイドラインの示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

! ボディ側面前方や後方にある物はCOMAND ディスプレイには表示されません。

! 外気温度が低いときは、COMAND ディスプレイが暗くなったり、映像が薄くなることがあります。また、動いている物の映像が歪んだり、COMAND ディスプレイに表示されないことがあります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

! ドアを開閉するときやドアミラーを格納 / 展開するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

! カメラやカメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。カメラが故障したり、カメラの取り付け位置や角度がずれるおそれがあります。

! ドアミラーやカメラを損傷したり、カメラの取り付け位置や角度がずれたときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの修理および調整を行なってください。

! カメラの修理および調整は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。お客様自身で作業を行なうと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

! カメラや関連部品の取り外しや分解、改造は絶対に行なわないでください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときや、" ガイドできません。オーナーズマニュアルを参照ください " というメッセージが表示されたときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 以下のような場合は、サイドビューカメラは正常に作動しません。

- 助手席ドアが完全に閉じていないとき
- 助手席側ドアミラーが完全に展開していないとき
- スノーチェーンや応急用スペアタイヤを装着しているとき
- 激しい雨や雪が降っているとき、または霧のとき
- 夜間や暗い場所で使用するとき
- カメラにヘッドライトや日光の反射などの強い光が直接当たったとき
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入るときなど）
- カメラが曇ったり水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラに泥や汚れが付着したとき

洗車するときの注意

- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷するおそれがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

サイドビューカメラの位置

① 助手席側ドアミラー
② サイドビューカメラ

サイドビューカメラ②は助手席側ドアミラー①の下部に装備されています。

サイドビューカメラの表示範囲

① サイドビューカメラの表示範囲

サイドビューカメラは、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の範囲①を表示します。

サイドビューカメラの作動と停止

サイドビューカメラを作動させる

イグニッション位置が **2** のときにサイドビューカメラを作動させることができます。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの "ｼｽﾃﾑ" を選択します。

設定基本画面になります。

設定基本画面

▶ "ｻｲﾄﾞﾋﾞｭｰｶﾒﾗ" を選択します。

COMAND ディスプレイに、サイドビューカメラの映像とガイドラインが表示されます。

サイドビューカメラを停止する

▶ コントロールスティックを押すか、COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

設定基本画面に戻ります。

または

▶ COMAND コントロールパネルのアプリケーション選択ボタンを押します。

それぞれのボタンに応じた画面になります。

ℹ COMAND システムをオフにしたり、イグニッション位置を **2** 以外にすると、サイドビューカメラが停止します。

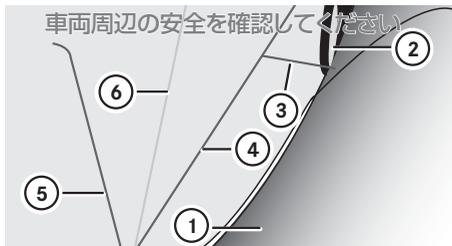
再度 COMAND システムをオンにしたり、イグニッション位置を **2** にするとサイドビューカメラが作動します。

サイドビューカメラの映像

走行速度が約 20km/h を超えると、サイドビューカメラの映像は表示されなくなります。

このときは、ディスプレイに " 安全のため、走行中は利用できません。" と表示されます。

走行速度が約 15km/h 以下になると、サイドビューカメラの映像は再び表示されます。

ガイドライン

① 自車
② 助手席側フロントタイヤ

③	助手席側フロントホイールの中心位置を表示するガイドラインです。
④	助手席側の車体から約 25 ～ 30cm の位置を表示するガイドラインです。
⑤	ステアリングをいっぱいまでまわして曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドラインです。
⑥	現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドラインです。 ステアリング操舵角が変化すると、角度が変化します。

ⓘ ガイドライン⑤および⑥は以下のときには表示されません。

- 助手席方向にまわしたステアリング操舵角が約 90° 以下のとき
- ステアリングが運転席方向にまわしてあるとき
- シフトポジションが R のとき

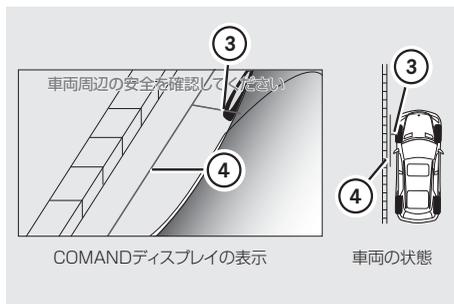
また、以下のときはガイドライン③および④も表示されません。

- 助手席ドアが完全に閉じていないとき

  ディスプレイに " 助手席側ドアが開いているため ガイドできません " と約 6 秒間表示されます。

- 助手席側ドアミラーが格納されているとき

  ディスプレイに " ドアミラーが格納されているため ガイドできません " と約 6 秒間表示されます。

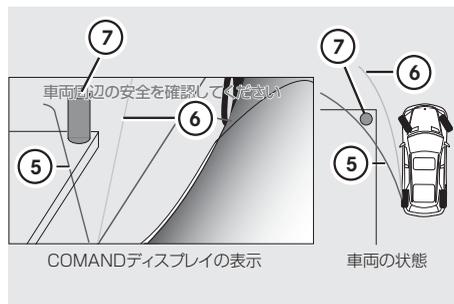
路肩などに車を寄せるとき

③ 助手席側フロントホイールの中心を表示するガイドライン（青色）
④ 助手席側の車体から約 25 ～ 30cm の位置を表示するガイドライン（青色）

路肩などに車を寄せるときに、車体と路肩の縁石などの目標物との位置関係を確認できます。

▶ 左図のように、ガイドライン④が目標物の端に接するように車両を幅寄せします。

▶ ガイドライン④を目標物と平行にすることで、目標物に沿って駐車できます。

ガイドライン③の位置により、助手席側フロントホイールのおよその位置を知ることもできます。

障害物のあるカーブを曲がるとき

⑤ ステアリングをいっぱいまでまわして曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドライン（青色）
⑥ 現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドライン（黄色）
⑦ 障害物

⚠ 警 告

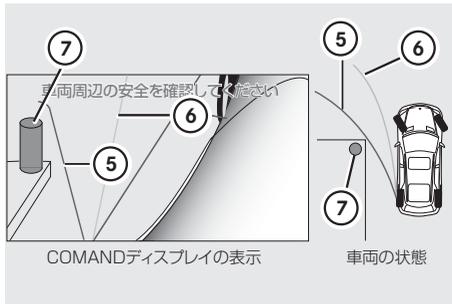
- ディスプレイの表示はあくまで目安です。走行するときはディスプレイの表示だけに頼らず、必ず周囲の状況を直接確認してください。
- ガイドラインは目安を示すものであり、車両の移動軌道を保証するものではありません。ガイドラインは目安として使用し、実際は必ず周囲の状況を直接確認してください。

助手席側に障害物があるカーブを曲がるときに、車体の予想進路と障害物との位置関係の目安を確認できます。

▶ ステアリングを助手席側にまわします。

左図のように、ガイドライン⑥が障害物⑦より外側にくるときは、車体と障害物が接触しない目安になります。

ただし、よりステアリングを助手席側にまわし、ガイドライン⑥が障害物と重なったり、障害物よりも内側にくると、車体と障害物が接触するおそれがあります

ガイドライン⑥が障害物より外側にくるようにステアリング操舵角を調整して走行してください。

上図のように、ガイドライン⑤が障害物⑦より外側にあるときは、ステアリングをいっぱいまでまわして曲がっても、車体と障害物が接触しない目安になります。

パーキングアシストリアビューカメラ

パーキングアシストリアビューカメラは、車の後方の映像と音声により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助するシステムです。

⚠ 警告

- パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はパーキングアシストリアビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- パーキングアシストリアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- システムの特性上、COMAND ディスプレイの映像には障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退などをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を確認してください。

! 乗車人数や荷物の積載量により、パーキングアシストリアビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイドラインの示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

! COMAND ディスプレイに表示される物などが歪んだ形状で表示されたり、鮮明に表示されないことがあります。

! リアバンパーの至近距離や下方にある物は COMAND ディスプレイには表示されません。

運転者は COMAND ディスプレイの映像だけに頼らず、必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。特に周囲に人や動物がいないことを確認してください。

! カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときは正常に作動しません。

- テールゲートが完全に閉じていないとき
- カメラやカメラの周囲に損傷があるとき

! テールゲートを開閉するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

! 以下のような場合はシステムを使用しないでください。

- 激しい雨や雪が降っているときやカメラが汚れているときなど、COMAND ディスプレイの映像が見えづらいとき
- 積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき
- 坂道やカーブなどの平坦でない、または直線でない道路

! カメラや関連部品の取り外しや分解、改造は絶対に行なわないでください。

! カメラや車の後部を損傷したときや、カメラの取り付け位置や角度がずれたときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの修理および調整を行なってください。

お客様自身で作業を行なうと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

洗車するときの注意

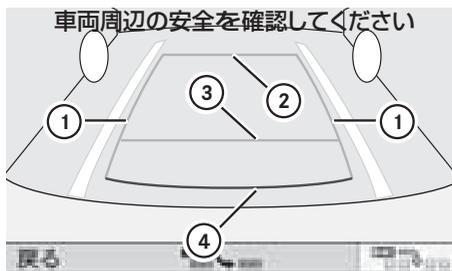
- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷することがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

カメラの位置

① カメラ

カメラ①はテールゲートハンドルの横に装備されています。

COMAND ディスプレイの映像

後退駐車モードの映像
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

COMAND ディスプレイに映し出される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右反転させた鏡像となります。

ℹ テールゲートが開いていたり、完全に閉じていない状態でパーキングアシストリアビューカメラを作動させたときや、パーキングアシストリアビューカメラ作動中にテールゲートを開いたときは、ガイドラインは表示されません。

このときは COMAND ディスプレイに " テールゲートが開いています ガイドできません " と数秒間表示されます。

! 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

! 障害物に向かって後退しているときは、0.25m ガイドライン④を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25m ガイドライン④まで後退する以前に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

i 以下のときは映像が見えづらくなりますが、異常ではありません。

- 夜間や暗い場所で使用するとき
- カメラ付近の温度が極端に高いときや低いとき
- カメラにヘッドライトや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な明るさの変化があったとき（ガレージに出入りするときなど）
- カメラが曇ったり水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラに泥や汚れが付着したとき

後退駐車モード

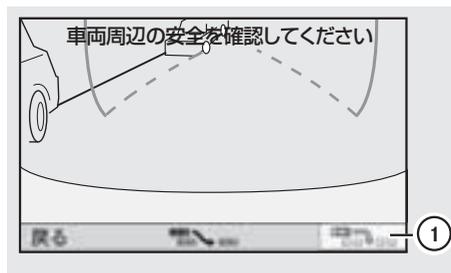
駐車場の駐車スペースなどに後退して駐車するときに、後退操作を補助をするモードです。

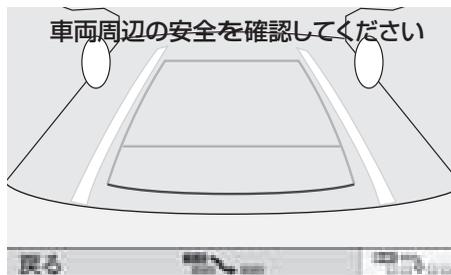
後退駐車モードにする

▶ COMAND システムをオンにします。

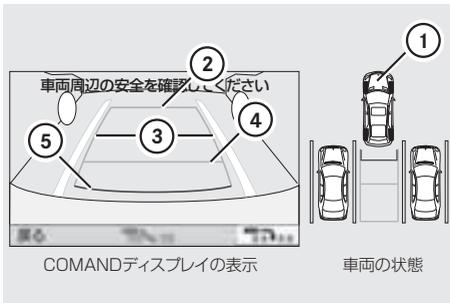
▶ シフトポジションを R にします。

COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

が表示されていないときは、後退駐車アイコン ①を選択して、コントロールスティックを押します。

① 後退駐車アイコン

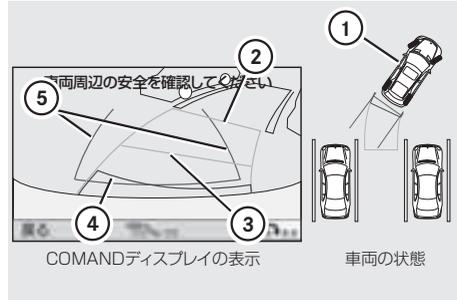
後退駐車時のガイドラインが表示されます。

"戻る"を選択してコントロールスティックを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

ステアリングをまわさないでまっすぐ後退駐車する

① 自車位置
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 予想進路ガイドライン（黄色）
④ 1.0m ガイドライン（黄色）
⑤ 0.25m ガイドライン（赤色）

▶ 予想進路ガイドライン③が駐車スペースに収まっていることを確認し、周囲に注意しながら、まっすぐに後退します。

! ガイドライン内やその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

ステアリングをまわしながら後退駐車する

① 自車位置
② 予想進路ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）
⑤ 直進ガイドライン（青色）

直進ガイドライン⑤は、ステアリングが直進状態で車が後退するときの進路を示します。

予想進路ガイドライン②は、そのときのステアリングの操舵角で車が後退するときの予想進路を示します。

▶ 予想進路ガイドライン②が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

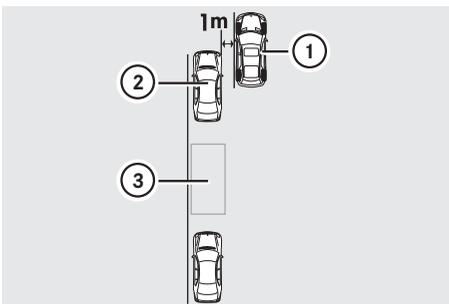
▶ 直進ガイドライン⑤が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

! ガイドライン内やその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

! ステアリングをまわして予想進路ガイドライン②の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

▶ 駐車スペース前方の駐車車両②から約 1m 間隔を空けて平行に、駐車車両②の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。

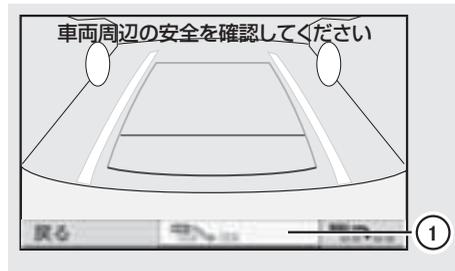
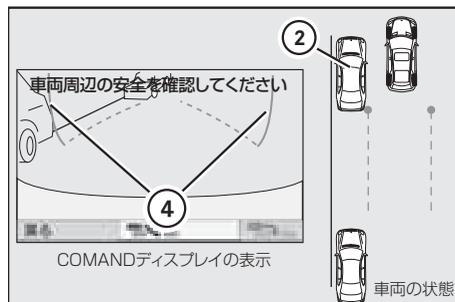
ステアリングは直進状態にします。

i 駐車スペース③の前方に駐車車両②がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

が表示されていないときは、縦列駐車アイコン ①を選択して、コントロールスティックを押します。

① 縦列駐車アイコン

② 駐車スペース前方の駐車車両
④ 垂直ガイドライン

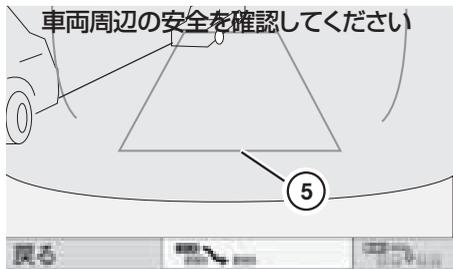
縦列駐車モードのガイドラインが表示されます。

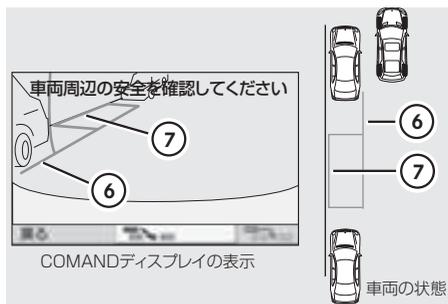
i "戻る" を選択してコントロールスティックを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

▶ 垂直ガイドライン④が、駐車スペース前方の駐車車両②の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン④が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

! 垂直ガイドライン④が駐車車両②の後端から外れていると、正しい位置に駐車することはできません。

⑤ 駐車位置ガイドライン

垂直ガイドラインが表示されてからしばらくすると、駐車位置ガイドライン⑤が表示されます。

⑥ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑦ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑥が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。

また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認してください。

! 駐車位置ガイドライン（道路側）⑥が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。

! 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

! ステアリングをまわしすぎたときは "ガイドできません ステアリングを戻してください" と表示されます。

▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン④、駐車位置ガイドライン（道路側）⑥、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦が消えます。

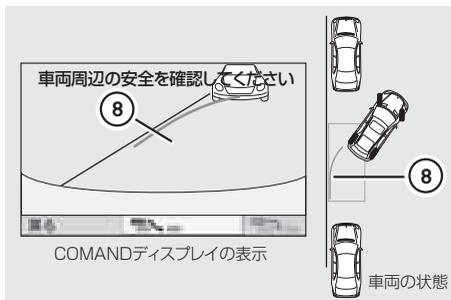
i ゆっくり後退しないと、ガイドが間に合わないことがあります。

i 以下のときはガイドが中止されます。

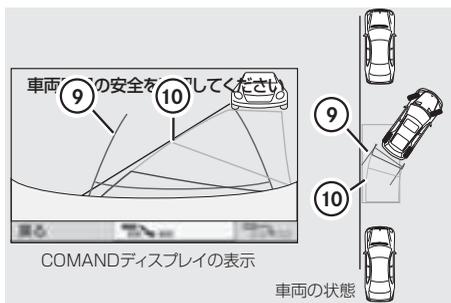
- シフトポジションを R 以外にしたとき
- "戻る" を選択したとき
- COMAND システムの他の機能を作動させたとき
- ステアリングを操作したとき

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。

! 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、画面に "ガイドできません" または "ガイドできませんステアリングがずれました" と表示されます。

! ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑧ ステアリング角度ガイドライン

▶ ゆっくり後退をはじめると、ステアリング角度ガイドライン⑧が表示されます。縁石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン⑧が合うまで、ステアリングをまわさないでそのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン⑧が正しい位置に合ったら、停車します。

⑨ 直進ガイドライン（青色）
⑩ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン⑨と予想進路ガイドライン⑩が表示されます。

▶ 予想進路ガイドライン⑩が縁石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに衝突しないように注意してください。

▶ 車が駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進状態に戻します。

! ステアリング操作は、必ず停車した状態で行なってください。

音声案内の設定

パーキングアシストリアビューカメラ作動時の音声案内を停止 / 作動できます。

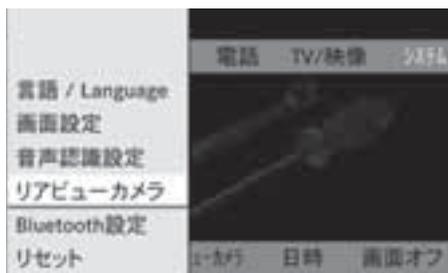
▶ COMAND システムをオンにします。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの " ｼｽﾃﾑ " を選択します。

設定基本画面

設定基本画面になります。

▶ " ｼｽﾃﾑ設定 " → " リアビューカメラ " を選択します。

▶ コントロールスティックを押します。

コントロールスティックを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマークが表示されているときは、音声案内が行なわれます。

ℹ 音声案内の音量は、ステアリングスイッチ [+] [−]、または COMAND コントロールパネルの音量調整ダイヤルで調整できます。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や車内温度、外気温度や日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

警 告

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。ウインドウが曇ります。これにより交通状況を把握できず、事故の原因になります。

警 告

送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

環 境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

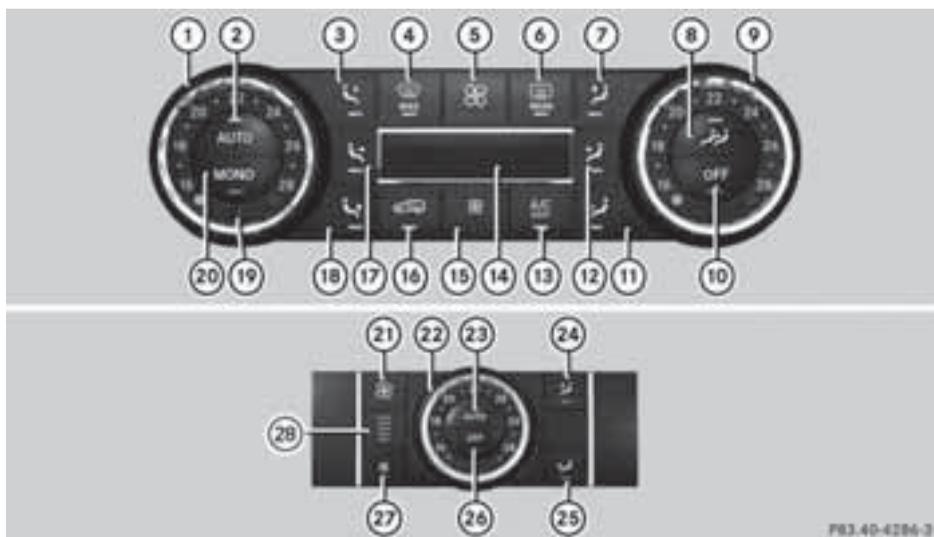
i 外気温度が高いときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。リモコン操作で車外からドアウインドウとベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * を開くと、短時間で換気できます (▷125 ページ)。

i 除湿された水分は車体下方に排水されます。

i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コントロールパネル

コントロールパネル（フロント）

	名称
①	送風温度調整ダイヤル（左側）
②	AUTO スイッチ
③	送風口選択スイッチ（左側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口）
④	デフロスタースイッチ
⑤	送風量調整スイッチ（強）
⑥	リアデフォッガースイッチ
⑦	送風口選択スイッチ（右側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑧	リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑨	送風温度調整ダイヤル（右側）
⑩	オフスイッチ
⑪	送風口選択スイッチ（右側：足元 / サイド送風口）
⑫	送風口選択スイッチ（右側：中央 / サイド送風口）
⑬	AC スイッチ / 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑭	ディスプレイ
⑮	送風量調整スイッチ（弱）
⑯	内気循環スイッチ
⑰	送風口選択スイッチ（左側：中央 / サイド送風口）
⑱	送風口選択スイッチ（左側：足元 / サイド送風口）
⑲	室内温度センサー
⑳	運転席モードスイッチ

コントロールパネル（リア）

	名称
㉑	送風量調整スイッチ（強）
㉒	送風温度調整ダイヤル
㉓	AUTO スイッチ
㉔	送風口選択スイッチ（セカンドシート中央 / セカンドシート上部 / サードシート送風口）
㉕	送風口選択スイッチ（セカンドシート足元 / セカンドシート上部 / サードシート送風口）
㉖	オフスイッチ
㉗	送風量調整スイッチ（弱）
㉘	送風量インジケーター

通常の使いかた

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ AUTO を押します。

AUTO スイッチ AUTO の表示灯が点灯し、エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

または

▶ オフスイッチ OFF を押します。

オフスイッチ OFF の表示灯が消灯し、エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ OFF を押します。

オフスイッチ OFF の表示灯が点灯します。

ⓘ エアコンディショナーが停止しているときは、送風や内気循環も停止します。ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が閉じているときは、エアコンディショナーの停止は一時的にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなります。

フロントのコントロールパネルによるリアエアコンディショナーの操作

リアエアコンディショナーを操作する

▶ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ [リアスイッチ] を押します。

リアエアコンディショナーコントロールスイッチ [リアスイッチ] の表示灯が点灯し、ディスプレイ ⑭ に "ON" と "MODE" が表示されます。

また、リアエアコンディショナーコントロールパネルの AUTO スイッチ AUTO の表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

ⓘ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ [リアスイッチ] を押してから約 3 秒間何も操作をしないと、スイッチの表示灯が消灯し、ディスプレイから "MODE" の表示が消えて、フロントのエアコンディショナーを操作できる状態に戻ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車両の操作

リアエアコンディショナーを停止する

▶ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ [ｊ̇ｊ̇] を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイ ⑭ に "MODE" が表示されます。

▶ 約 3 秒以内にオフスイッチ [OFF] を押します。

ディスプレイ ⑭ に "OFF" が表示され、リアエアコンディショナーが停止します。

リアのコントロールパネルによるリアエアコンディショナーの操作

リアエアコンディショナーを AUTO モードで作動させる

▶ フロントのコントロールパネルでエアコンディショナーを作動させます。

▶ AUTO スイッチ [AUTO] を押します。

AUTO スイッチ [AUTO] の表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ [OFF] を押します。

オフスイッチ [OFF] の表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが停止します。

AC モード

AC モードに設定しているときは、除湿 / 冷房された空気が送風されます。

ℹ 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ [A/C REST] を押します。

AC スイッチ [A/C REST] の表示灯が消灯します。

除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ 再度、AC スイッチ [A/C REST] を押します。

AC スイッチ [A/C REST] の表示灯が点灯します

除湿 / 冷房された空気が送風されます。

⚠ **警 告**

AC モードが解除されているときは、車内の空気が除湿または冷房されません。ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなり、交通状況を把握できずに事故の原因になります。

環 境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的に AC モードになります。

ℹ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

AC モードのトラブル

AC スイッチ [A/C REST] を押したときに、表示灯が消灯したままのときは、エアコンディショナーの故障のため、AC モードが解除されます。除湿 / 冷房された空気は送風されません。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

AUTO モード

AUTO モードでは、設定温度に応じて車内の温度を一定に保ちます。送風温度、送風量、送風口の選択は自動的に制御されます。

AUTO モードと AC モードを同時に選択すると、最適な空調が得られます。

フロントのコントロールパネルによるフロントエアコンディショナーの操作

AUTO モードに設定する

▶ 送風温度を設定します。

▶ AUTO スイッチ [AUTO] を押します。

AUTO スイッチ [AUTO] の表示灯が点灯し、送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

AUTO モードを解除する

▶ 送風量調整スイッチ [❀] または [❀] を押します。

AUTO スイッチ [AUTO] の表示灯が消灯し、送風量の AUTO モードが解除されます。

ディスプレイに送風量インジケーターが表示されます。

または

▶ 送風口選択スイッチ [ ]、[ ]、[ ]、[ ]、[ ]、[ ] のいずれかを押します。

AUTO スイッチ [AUTO] の表示灯が消灯し、送風口の AUTO モードが解除されます。

ディスプレイに送風口インジケーターが表示されます。

リアのコントロールパネルによるリアエアコンディショナーの操作

AUTO モードに設定する

▶ フロントのコントロールパネルでエアコンディショナーを作動させます。

▶ AUTO スイッチ [AUTO] を押します。

AUTO スイッチ [AUTO] の表示灯が点灯し、送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

AUTO モードを解除する

▶ 送風量調整スイッチ [送風量増] または [送風量減] を押します。

AUTO スイッチ [AUTO] の表示灯が消灯し、送風量の AUTO モードが解除されます。

送風量インジケーター ㉘ が点灯します。

または

▶ 送風口選択スイッチ [送風口] または [送風口] を押します。

AUTO スイッチ [AUTO] の表示灯が消灯し、送風口の AUTO モードが解除されます。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

設定温度の調整

ⓘ 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ⓘ ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が開いていると、設定温度を維持できません。

送風温度を調整する

運転席と助手席、後席で、それぞれ異なる温度を設定できます。

設定温度ゾーンのイメージ

フロントの設定温度を調整する

▶ 送風温度調整ダイヤル①または⑨をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

フロントコントロールパネルから後席の設定温度を調整する

▶ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ [リア] を押します。

ディスプレイ ⑭ がリアエアコンディショナーの表示に切り替わります。

▶ 送風温度調整ダイヤル⑨をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

ⓘ 再度リアエアコンディショナーコントロールスイッチ [リア] を押すと、フロントエアコンディショナーを操作できる状態に戻ります。

ⓘ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ [リア] を押してから約 3 秒間何も操作をしないと、スイッチの表示灯が消灯しフロントのエアコンディショナーを操作できる状態に戻ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアコントロールパネルで後席の設定温度を調整する

▶ 送風温度調整ダイヤル ㉒ をまわします。

送風口の選択

送風口を手動で選択できます。

フロントのコントロールパネル

送風口マーク	主に送風される送風口
[icon] [icon]	フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口
[icon] [icon]	足元送風口、サイド送風口
[icon] [icon]	中央送風口、サイド送風口

リアのコントロールパネル

送風口マーク	主に送風される送風口
[icon]	リア中央送風口 / リアサイド送風口 / サードシート送風口
[icon]	リアサイド送風口 / リア足元送風口 / サードシート送風口

送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ [icon]、[icon]、[icon]、[icon]、[icon]、[icon] のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

! 中央セカンドシートを折りたたんでいるときは（▷227 ページ）、リア中央送風口からの送風が中央セカンドシートに当たらないようにしてください。暖気が送風されるとシートが高温になり、乗員が火傷をしたり、シートを損傷するおそれがあります。

i 複数の送風口選択スイッチを押すと、組み合わせた送風口から送風できます。

i 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風量の調整

送風量を手動で調整できます。

i エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量調整スイッチを押すと、送風量調整の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

i 送風量を上げているときに、COMAND システムの音声認識機能を使用すると、送風量が自動的に下がります。音声認識機能が終了すると、送風量は元の設定に戻ります。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ [送風量+] を押します。

ディスプレイ ⑭ に表示される送風量インジケーターの点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ [送風量-] を押します。

ディスプレイ ⑭ に表示される送風量インジケーターの点灯数が減ります。

運転席モード

助手席およびリアエアコンディショナーの設定の一部を運転席と同じ設定にできます。

運転席の設定を変更すると、助手席およびリアエアコンディショナーの設定も変更されます。

運転席モードに設定する

▶ 運転席モードスイッチ MONO を押します。

運転席モードスイッチ MONO の表示灯が点灯します。

助手席の送風温度および送風口の選択が運転席の設定に連動します。

また、リアエアコンディショナーがAUTO モードで作動し、送風温度の設定が運転席の設定に連動します。

運転席モードを解除する

▶ 再度、運転席モードスイッチ MONO を押します。

運転席モードスイッチ MONO の表示灯が消灯します。

i 助手席やリアエアコンディショナーの設定を変更したときは、運転席モードは自動的に解除されます。

デフロスターモード

フロントウインドウの外側が凍結しているときや、フロントウインドウまたはフロントドアウインドウの内側が曇っているときに使用します。

i 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ [MAX] を押します。

デフロスタースイッチ [MAX] の表示灯が点灯し、以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 外気温度によっては、送風量が上がります。
- 外気温度によっては、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ [MAX] を押します。

デフロスタースイッチ [MAX] が消灯し、送風量や送風温度、送風口の選択などが元の設定に戻ります。

または

▶ オフスイッチ [OFF] を押します。

または

▶ AUTO スイッチ [AUTO] を押します。

または

▶ 送風温度調整ダイヤル⑨をまわします。

または

▶ 送風量調整スイッチ [ ] または [ ] を押します。

! ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

i デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していた場合は AC モードに設定され、AC モードを解除していて内気循環モードにしていたときは内気循環モードは解除されます。

i デフロスターモードに設定すると、リアエアコンディショナーが自動的に停止し、操作できなくなります。

フロントウインドウの内側が曇るとき

▶ AC スイッチ [A/C REST] を押して、AC モードに設定します。

▶ AUTO スイッチ [AUTO] を押します。

▶ 曇りが取れないときは、デフロスターモードに設定します。

i 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

フロントウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、フロントウインドウやフロントドアウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

▶ フロントワイパーを作動させます。

▶ 送風口選択スイッチ [ ] / [ ] または [ ] / [ ] を押します。

i 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

⚠ **警告**

ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアデフォッガーを使用する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ リアデフォッガースイッチ [REAR] を押します。

リアデフォッガースイッチ [REAR] の表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ [REAR] を押します。

リアデフォッガースイッチ [REAR] の表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは数分後に自動的に停止します。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

ⓘ リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は、外気温度と走行状況により異なります。

ⓘ バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を再開します。

リアデフォッガーのトラブル

リアデフォッガースイッチ [REAR] の表示灯が点滅しているときは、バッテリーの電圧が低下しています。このときは、リアデフォッガーが短時間で停止したり、使用できません。以下のようにしてください。

▶ 読書灯やルームランプなど、必要でない電気装備を停止してください。

バッテリーの電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動します。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときなどに使用します。

内気循環モードに設定すると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * を開閉できます。

⚠ **警告**

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、視界が損なわれ、交通状況を把握することができずに事故の原因になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ [内気循環] を押します。

内気循環モードに設定され、スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環モードに設定されていても、一定時間を経過すると以下のように外気導入をはじめます。

外気温度が 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が 5℃以上のとき	約 30 分後

ⓘ 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに内気循環スイッチ [内気循環] を押します。

内気循環モードが解除され、スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 外気温度が約 26℃以上のときは、内気循環モードはすぐに解除されない場合があります。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

内気循環スイッチによるコンビニエンスオープニング / クロージング機能

⚠ 警 告

ドアウインドウやベンチレーションウインドウ * を開閉するときは、身体を挟まれないようにしてください。また、身体や物がドアウインドウやベンチレーションウインドウ * に触れないようにしてください。ドアウインドウやベンチレーションウインドウ * が作動しているときにウインドウに引き込まれたり、ウインドウとウインドウフレームの間に挟まれるおそれがあります。挟まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチまたはベンチレーションウインドウスイッチを反対の方向に操作してください。

パノラミックスライディングルーフ * を開閉するときは、パノラミックスライディングルーフに身体を挟まれないようにしてください。挟まれそうになったときは、パノラミックスライディングルーフスイッチを反対の方向に操作してください。

コンビニエンスクロージング機能

▶ ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が閉じるまで、内気循環スイッチ [内気循環] を押し続けます。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が点灯し、内気循環モードに設定されます。

コンビニエンスオープニング機能

▶ ドアウインドウやベンチレーションウインドウ *、パノラミックスライディングルーフ * が開くまで、内気循環スイッチ [内気循環] を押し続けます。

押し続けている間、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフは前回開いていた位置まで、ベンチレーションウインドウは全開の位置まで開きます。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が消灯し、内気循環モードが解除されます。

ℹ 内気循環スイッチ [内気循環] で閉じたドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ [A/C REST] を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ [A/C REST] の表示灯が点灯します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口の組み合わせや送風温度は自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ [A/C REST] を押します。

または

▶ オフスイッチ [OFF] を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ [A/C REST] の表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- 使用を開始してから約 30 分後
- イグニッション位置を **2** にしたとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- 冷却水温度が低いとき

ℹ 送風量は弱の設定で一定に保たれます。

ℹ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

ℹ リア送風口からは送風されません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風口の調整

⚠ **警 告**

送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

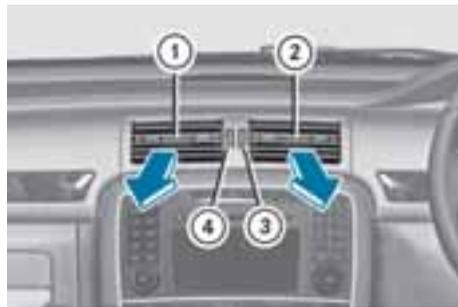
送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

車外の空気を車内へ取り入れるために、以下の点に注意してください。

- フロントウインドウ下部の吸気口が、氷や雪、葉などで覆われていないこと
- 車内の送風口や吸排気口が覆われていないこと

ⓘ 送風効率を上げるため、各送風口の向きが中央になるように調整してください。

中央送風口

① 中央送風口（左側）
② 中央送風口（右側）
③ 送風口開閉ダイヤル（右側）
④ 送風口開閉ダイヤル（左側）

中央送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ③④ を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

中央送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ③④ を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ 中央送風口 ① または ② のノブを上下左右に動かします。

サイド送風口

サイド送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ③ を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

サイド送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ③ を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

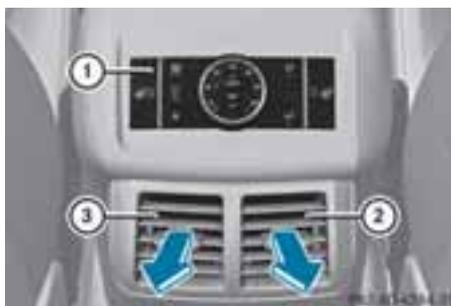
送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

ℹ サイド送風口 ② を閉じても、ドアウインドウ送風口 ① を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ サイド送風口 ② のノブを上下左右に動かします。

セカンドシート中央送風口

① リアエアコンディショナーコントロールパネル
② セカンドシート中央送風口（右側）
③ セカンドシート中央送風口（左側）

風向きを調整する

▶ 中央送風口 ② または ③ のノブを上下左右に動かします。

リアサイド送風口

① リアサイド送風口（右側）
② 送風口開閉ダイヤル

リアサイド送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ② を右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

リアサイド送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ② を左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ リアサイド送風口 ① のノブを上下左右に動かします。

サードシート送風口

① サードシート送風口（左側）
② 送風口開閉ダイヤル

サードシート送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ② を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

サードシート送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ② を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ サードシート送風口からは暖気は送風されません。送風温度調整ダイヤル ㉒ で設定温度を上げると送風が停止します。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ サードシート送風口 ① のノブを上下左右に動かします。

パノラミックスライディングルーフ *

⚠ 警告

パノラミックスライディングルーフを開閉するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。

⚠ 警告

子供が車内からパノラミックスライディングルーフを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

⚠ 警告

パノラミックスライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにパノラミックスライディングルーフの開口部から車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はパノラミックスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! パノラミックスライディングルーフを閉じるときやチルトダウンするときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。

! パノラミックスライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。パノラミックスライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

! パノラミックスライディングルーフの開口部から、物を出し入れしないでください。パノラミックスライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にパノラミックスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! パノラミックスライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。パノラミックスライディングルーフを損傷するおそれがあります。

i リモコン操作で電動ブラインドとパノラミックスライディングルーフを開くことができます（▷125 ページ）。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で電動ブラインドとパノラミックスライディングルーフを閉じることができます（▷126 ページ）。

i パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドが自動で開いているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ パノラミックスライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、パノラミックスライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

ℹ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、電動ブラインドとパノラミックスライディングルーフを操作できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、電動ブラインドとパノラミックスライディングルーフの操作はできなくなります。

ℹ パノラミックスライディングルーフが開閉できないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電動ブラインドの開閉

電動ブラインドは、パノラミックスライディングルーフが閉じているときに開閉できます。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

① 開く
② 開く
③ 閉じる

電動ブラインドを開く

▶ スイッチを①または②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

①の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

電動ブラインドを閉じる

▶ スイッチを③の方向に操作します。

操作している間だけ閉じます。

ℹ 前後の電動ブラインドは独立して開閉できません。

パノラミックスライディングルーフの開閉

パノラミックスライディングルーフは電動ブラインドが開いているときに開閉できます。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

① チルトアップ
② 開く
③ 閉じる / チルトダウン

パノラミックスライディングルーフを開く

▶ 電動ブラインドを開きます。

▶ スイッチを②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

②の方向にいっぱいまで操作します。

パノラミックスライディングルーフが自動で開き、走行風の影響がもっとも少ない位置で停止します。

▶ 再度②の方向に操作すると、パノラミックスライディングルーフが全閉します。

ⓘ 自動で開く操作は、パノラミックスライディングルーフが全閉のときのみ作動します。

パノラミックスライディングルーフを閉じる

▶ スイッチを③の方向に操作します。

操作している間だけ閉じます。

パノラミックスライディングルーフをチルトアップする

▶ スイッチを①の方向に操作します。

操作している間だけチルトアップします。

パノラミックスライディングルーフをチルトダウンする

▶ スイッチを③の方向に操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

パノラミックスライディングルーフのリセット

パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドがスムーズに作動しないときは、パノラミックスライディングルーフと電動ブラインドのリセットを行なってください。

バッテリーあがりやバッテリー交換などで電源が断たれたときも、パノラミックスライディングルーフと電動ブラインドのリセットを行なってください。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ ラゲッジルームのヒューズボックス（▷347 ページ）から、以下のヒューズを取り外します。

- f 41（25A）
- f 42（25A）

▶ 再度、上記のヒューズを差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ スイッチを③の方向（▷217ページ）に操作して電動ブラインドを完全に閉じます。

▶ スイッチを操作したまま約2秒以上保持します。

▶ スイッチを①の方向（▷217ページ）に操作して電動ブラインドを完全に開きます。

▶ スイッチを操作したまま約2秒以上保持します。

▶ スイッチを①の方向（▷218ページ）に操作してパノラミックスライディングルーフを完全にチルトアップします。

▶ スイッチを操作したまま約2秒以上保持します。

▶ スイッチを③の方向（▷218ページ）に操作してパノラミックスライディングルーフを完全にチルトダウンします。

▶ スイッチを操作したまま約2秒以上保持します。

▶ パノラミックスライディングルーフおよび電動ブラインドが自動で全開することを確認します。

▶ 自動で全開しないときは、再度リセットを行ないます。

! リセットを行なっても、パノラミックスライディングルーフと電動ブラインドが自動で全開／全閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

パノラミックスライディングルーフのトラブル

パノラミックスライディングルーフを閉じることができず、原因がわからないとき

⚠ 警告

強い力でパノラミックスライディングルーフを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でパノラミックスライディングルーフを閉じるときは十分注意してください。閉じているパノラミックスライディングルーフに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

閉じているパノラミックスライディングルーフが停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ パノラミックスライディングルーフが停止したらただちに、パノラミックスライディングルーフが閉じるまでスイッチを③の方向に軽く操作し続けてください。

強い力でパノラミックスライディングルーフが閉じます。

閉じているパノラミックスライディングルーフが再度停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ パノラミックスライディングルーフが停止したらただちに、パノラミックスライディングルーフが閉じるまでスイッチを ③ の方向に軽く操作し続けてください。

挟み込み防止機能が作動しない状態で、パノラミックスライディングルーフが閉じます。

荷物の積み方 / 小物入れ

荷物を積むときの注意点

⚠ 警 告

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な道路変更時、事故のときなどに投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を積むときは、「荷物の固定 (▷229 ページ)」もご覧ください。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ 警 告

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物の積み方は車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物の重量が、制限重量(▷357 ページ)を超えないようにしてください。
- ラゲッジルームには極端に重い荷物を積載しないでください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルーム前方の低い位置）に確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、ラゲッジルーム内部を損傷するおそれがあります。

- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。
- 荷物はラゲッジルームに積み、サードシートのバックレスト、シートクッション、またはフロントシートのバックレストに接するようにしてください。
- 荷物はできるだけ乗員のいない席の後方に積んでください。
- 強度の十分な荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- ウインドウに荷物が当たらないようにしてください。ウインドウガラスを損傷したり、リアデフォッガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

ⓘ 荷物固定用のアクセサリーはDaimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

⚠ **警 告**

走行中は、小物入れのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

鋭い角のあるものや壊れやすいものは小物入れに収納しないでください。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

グローブボックスを開く

▶ ハンドル①を引きます。

カバー②が開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー②を押してロックします。

グローブボックスのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んで、グローブボックスを施錠 / 解錠できます。

グローブボックスを施錠する

▶ キーを水平位置 2 にまわします。

確実に施錠されていることを確認します。

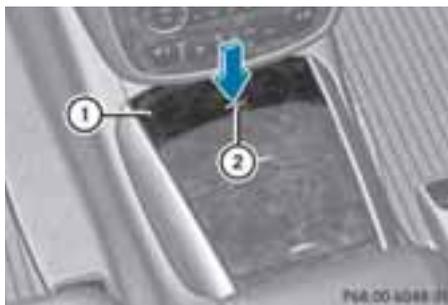
グローブボックスを解錠する

▶ キーを垂直位置 1 にまわします。

ⓘ グローブボックス内には、メディアインターフェース用端子があります。メディアインターフェースは、iPod® や USB 機器などのポータブル音楽機器のための接続端子です。詳しくは別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

ⓘ イグニッション位置が **1** か **2** のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスライトが点灯します。

ⓘ 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

センターコンソールの小物入れ

センターコンソールの小物入れを開く

▶ カバー①のマーク②を押します。

カバー①が開きます。

センターコンソールの小物入れを閉じる

▶ カバー①を押して閉じます。

フロントアームレストの小物入れ

フロントアームレストには上段と下段に小物入れがあります。

上段の小物入れを開く

▶ ロック解除ノブ①を引いて、アームレストを開きます。

下段の小物入れを開く

▶ ロック解除ノブ②を引いて、アームレストを開きます。

小物入れを閉じる

▶ アームレストを下げて閉じます。

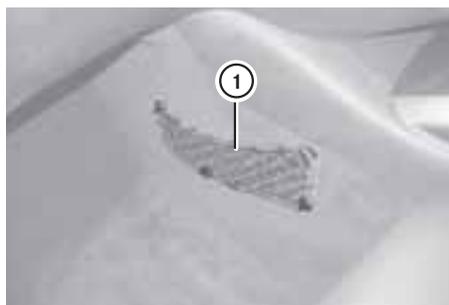
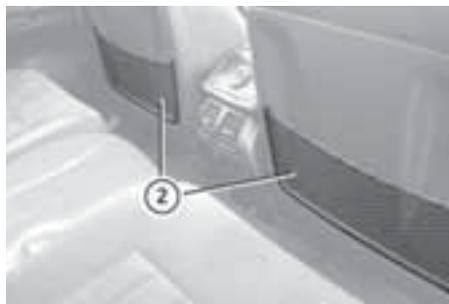
ℹ 上段の小物入れ③の前側には、コインホルダー④が装備されています。

収納ネット

助手席の足元とフロントシートの背面に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

⚠ **警 告**

収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

❗ 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

① 助手席足元の収納ネット

② フロントシート背面の収納ネット

セカンドシート / サードシートの折りたたみ

⚠ **警 告**

重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

- 大きな荷物を積まないときは、バックレストを起こしてください。ラゲッジルームの荷物などが投げ出されて、けがをするおそれがあります。
- サードシートに乗車するときは、セカンドシートを折りたたんだり、セカンドシートのバックレストを倒さないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、けがをするおそれがあります。
- セカンドシートやサードシートに乗車するときは、バックレストを起こして、シートを確実にロックしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、けがをするおそれがあります。
- 乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

! 中央セカンドシートのバックレストを前方に倒しているときに（▷89 ページ）、左側セカンドシートを折りたたむと、シートが接触し損傷するおそれがあります。

中央セカンドシートを折りたたむかバックレストを元の位置に戻してから、左側セカンドシートを折りたたんでください。

! 左側セカンドシートを折りたたんでいるときに、中央セカンドシートを折りたたむと、シートが接触し損傷するおそれがあります。

左側セカンドシートを元の位置に戻してから、中央セカンドシートを折りたたんでください。

! 中央セカンドシートのバックレストを前方に倒しているときに（▷89 ページ）、左側セカンドシートを折りたたんだ状態から元の位置に戻すと、シートが接触し損傷するおそれがあります。

中央セカンドシートのバックレストを元の位置に戻してから、左側セカンドシートを元の位置に戻してください。

左右セカンドシートを折りたたむ

! フロントシートが後方の位置にあったり、バックレストが後方に倒れすぎているときに左右セカンドシートを折りたたむと、シートが接触し損傷するおそれがあります。

フロントシートを前方に移動して、バックレストを前方に起こしてから、左右セカンドシートを折りたたんでください。

シートを折りたたむ

▶ 折りたたむシートのヘッドレストを取り外します（▷91 ページ）。

取り外したヘッドレストを、図のようにシートクッション上に置きます。

▶ バックレストを起こして、元の位置に戻します。

▶ シートを最も後方の位置にします。

! シートは必ず最も後方の位置にしてください。シートを折りたたんだときにシートやセンターコンソールを損傷するおそれがあります。

▶ レバー②をいっぱいまで引いたまま、バックレスト①を前方に倒します。

i レバー②をいっぱいまで引かなかったり、引いた後に戻してからバックレストを前方に倒すと、シートは折りたたまれません。

このときは、バックレストを起こして元の位置に戻し、シートを最も後方の位置にして、再度操作を行なってください。

▶ 倒したバックレスト①を下方に押して、バックレストをロックさせます。

▶ バックレスト①やシートクッション②を前後上下に押して、確実にロックされていることを確認します。

! シートを折りたたんだときは確実にロックされていることを確認してください。走行中にバックレストやシートが動き、サードシートの乗員がけがをするおそれがあります。また、シートを損傷するおそれがあります。

! シートが折りたたまれた状態で、フロントシートを後方に動かしたり、バックレストを後方に倒すときは、セカンドシートに接触しないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

元の位置に戻す

▶ レバー②を引きながら、バックレスト①を引き上げます。

▶ バックレストを約 45° の角度にしてヘッドレストを取り付け、ヘッドレストを最も低い位置にします。

▶ シート全体を後方に引き上げ、バックレストとシートをロックします。

▶ バックレストやシート全体を前後に押して、確実にロックされていることを確認します。

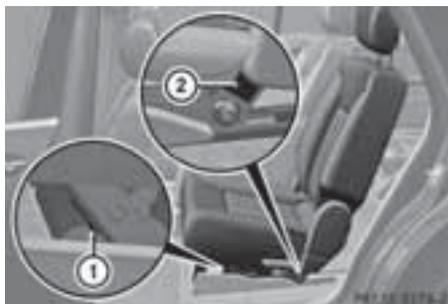
⚠ **警 告**

バックレストを元の位置に戻したときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。

ロックインジケーター

シートがロックされていない状態

セカンドシートが固定されていないときは、上図のようにロックインジケーター①②がはっきり見える状態になります。

▶ セカンドシートが固定されていないときは、シートが確実に固定されるまで、バックレストを後方に押します。

シートがロックされている状態

セカンドシートが固定されたときは、上図のようにロックインジケーター①②がわずかに見える状態になります。

ℹ ロックインジケーターでの確認だけでなく、シートを前後に押して、確実にロックされていることを確認してください。

中央セカンドシートを折りたたむ

! シートを折りたたむときは、センターコンソール後方のカップホルダー（▷236 ページ）やリアの灰皿（▷238 ページ）を収納してください。シートやカップホルダー、灰皿を損傷するおそれがあります。

! シートを折りたたんでいるときは、セカンドシート中央送風口（▷214 ページ）からの送風が中央セカンドシートに当たらないようにしてください。暖気が送風されるとシートが高温になり、乗員が火傷をしたり、シートを損傷するおそれがあります。

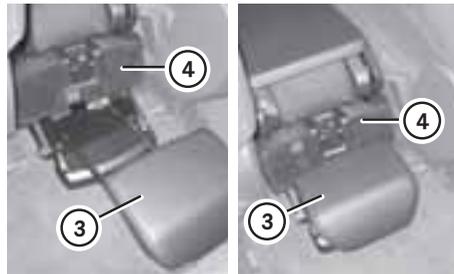
シートを折りたたむ

▶ ヘッドレストを取り外します。

▶ ストラップ①を矢印の方向に引きます。

▶ バックレスト②を、シートクッション③に重なるまで前方に倒し、確実にロックします。

▶ ストラップ④を矢印の方向に引いて、ロックを解除します。

▶ 中央セカンドシート⑤を前方および下方に押して、確実にロックします。

ℹ 取り外したヘッドレスト③は、上記のように中央セカンドシート④の後部に収納することをお勧めします。

元の位置に戻す

▶ ストラップ①を引いて、中央セカンドシート②のロックを解除します。

▶ シート全体を後方に押して、確実にロックします。

サードシートのみを折りたたむ

▶ ヘッドレストを最も低い位置に下げます。

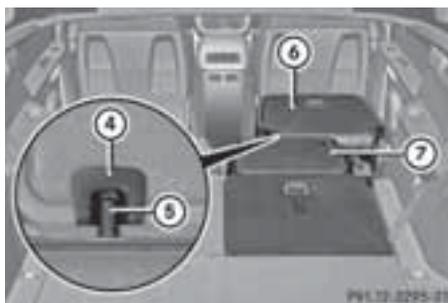
▶ シートベルトをフック②にかけます。

▶ レバー①を矢印の方向に引いて、バックレスト③をゆっくりと前方に倒します。

前方に倒れるバックレストに連動して、シートクッションが起き上がります。

▶ シートクッションが起き上がったら、バックレストが水平になるまでゆっくりと前方に倒します。

ⓘ バックレストはゆっくり前方に倒してください。バックレストを急に倒すと起き上がるシートクッションと接触して、シートが折りたたまれないことがあります。

セカンドシートとサードシートを折りたたむ

▶ セカンドシートを折りたたみます (▷225 ページ)。

このとき、左右セカンドシートが最も後方の位置にあることを確認してください。

▶ サードシートを折りたたみます。

▶ サードシートのシートクッション⑦を水平になるまで前方に倒します。

このとき、サードシートのシートクッション⑦のピン⑤が、左右セカンドシートバックレスト⑥のガイド④の位置にくることを確認してください。

ℹ️ セカンドシートとサードシートを折りたたんだときに、ピン⑤とガイド④が離れているときは、左右セカンドシートが最も後方の位置になっていません。最初の手順からやり直すか、左右セカンドシートの前後位置調整レバー（▷88 ページ）を引いて、左右セカンドシートを後方に移動してください。

サードシートを元の位置に戻す

▶ ストラップ③を引きながら、サードシートのバックレスト②を後方に引き起こします。

▶ レバー④を引いて、バックレストを元の位置まで戻し、確実にロックします。

▶ シートクッション①を引き起こして後方に倒し、押し込んでロックします。

▶ バックレストを前後に押し、またシートクッションを下方に押して、確実にロックされていることを確認します。

⚠ 警 告

走行中はサードシートを確実にロックしてください。事故や急ブレーキのときなどに、けがをするおそれがあります。

荷物の固定

荷物固定用リング

⚠ 警 告

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

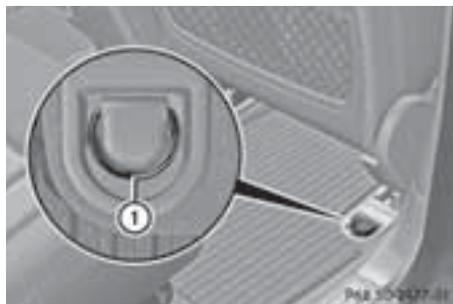
荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 荷物の固定には擦れに強く丈夫なロープを使用し、荷物固定用リングに通して確実に結んでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 荷物固定用リングに均等に力がかかるようにしてください。

- できるだけすべての荷物固定用リングを使用してください。
- 荷物固定用リングに過大な力がかからないようにしてください。
- 固定用具の取扱説明書もご覧ください。

荷物固定用のアクセサリーは、Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

荷物固定用リング①は、ラゲッジルーム内に 4 個、セカンドシート足元とサードシート足元に 2 個ずつあります。

① 荷物固定用リング（ラゲッジルーム内）

① 荷物固定用リング（右側セカンドシート足元）

① 荷物固定用リング（右側サードシート足元）

荷物固定用フック

ラゲッジルームの左右に荷物固定用フック①があります。

! 荷物固定用フックには、約 4kg 以上の荷物をかけないでください。フックを損傷するおそれがあります。

EASY-PACK ラゲッジルームカバー

⚠ **警告**

ラゲッジルームカバーは、荷物の飛び出しを防ぐものではありません。ラゲッジルームカバーを使用しているときも、ラゲッジルームの荷物は確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! ラゲッジルームに荷物を積むときは、ラゲッジルーム左右のウインドウ下端よりも高い位置に荷物を積み上げないでください。

! ラゲッジルームカバーの上に重い荷物を置かないでください。ラゲッジルームカバーを損傷するおそれがあります。

ⓘ サードシート後方にラゲッジルームカバー収納リールを取り付けているときは、ラゲッジルームカバーは使用できません。

サードシート後方に取り付けた状態

セカンドシート後方に取り付けた状態

ラゲッジルームカバーを使用する

▶ サードシートのシートベルトをフックにかけます（▷228 ページ）。

▶ ハンドル①を持って、ラゲッジルームカバーをリールから引き出します。

▶ ラゲッジルームカバーの左右の固定部をフック②にかけます。

ラゲッジルームカバーを収納する

▶ ハンドル①を持って、ラゲッジルームカバーを少し引きながら、左右の固定部をフック②から外します。

▶ ラゲッジルームカバーをゆっくり巻き取らせます。

ラゲッジルームカバー収納リール

ラゲッジルームカバー収納リールは、セカンドシート後方、またはサードシート後方に取り付けることができます。

ⓘ セカンドシート後方に収納リールを取り付けるときは、収納リールの両端にエクステンション（▷233 ページ）を取り付けてください。

取り付け部カバーの脱着

① 取り付け部のカバー（セカンドシート後方・右側）

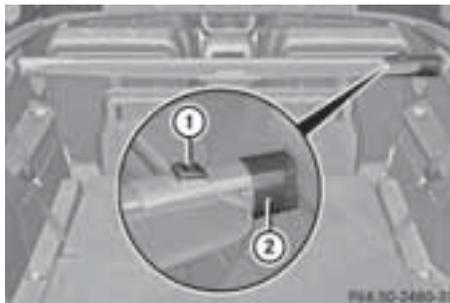
▶ 取り付け部のカバー①の下部を押しながら、上端を矢印の方向に引いて取り外します。

反対側のカバーも同様に取り外します。

▶ 取り外したカバーは、紛失しないように、使用しない取り付け部に取り付けます。

! サードシート後方の取り付け部にカバーを取り付けたときは、カバーと取り付け部周囲の内張り面に凹凸が生じます。カバーのツメを損傷するおそれがありますので、カバーを強く押し込まないでください。

i 取り付け部のカバーには左側用と右側用があります。カバーを取り付けるときは左右を間違えないようにしてください。

収納リールを取り外す

セカンドシート後方に取り付けた状態

収納リールを取り外す

▶ ラゲッジルームカバーをリールに収納します。

▶ 収納リール右端部②を、ロックするまで左側に押し込みます。

収納リール右端部②が左側に押し込まれ、収納リールの長さが短くなります。

▶ 右側取り付け部から収納リール右端部②を取り外します。

▶ 収納リールを取り外します。

収納リールを取り付ける

▶ 収納リール右端部②が左側に押し込まれていて、収納リールが短くなっていることを確認します。

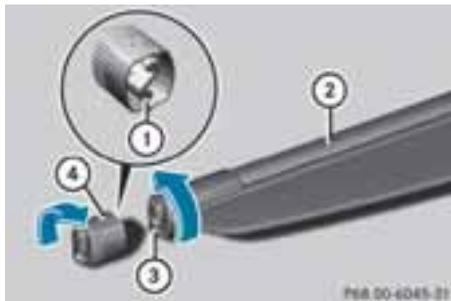
収納リール右端部②が左側に押し込まれていないときは、ロックするまで左側に押し込みます。

▶ ロック解除ボタン①が右側および上面にくるようにします。

▶ 収納リール左端部を左側取り付け部に合わせます。

▶ 収納リール右端部②を右側取り付け部に合わせ、ロック解除ボタン①を押します。

収納リール右端部②が右側にスライドして右側取り付け部に固定されます。

エクステンションの脱着

収納リールをセカンドシートの後方に取り付けるときは、収納リールにエクステンションを取り付けます。

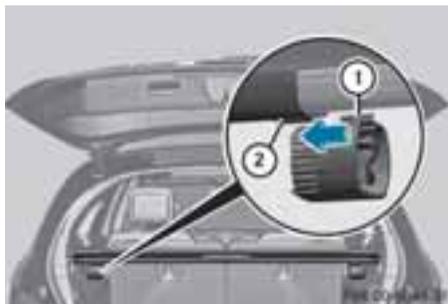
エクステンションを取り付ける

▶ エクステンション④のガイド①を、収納リール②のブロック③に合わせます。

▶ エクステンション④を時計回りにまわします。

収納リール②にエクステンション④が固定されます。

▶ 反対側も同様に、収納リールにエクステンションを取り付けます。

! エクステンションを取り付けた状態では、収納リールをサードシートの後方に取り付けることができません。必ずエクステンションを取り外してください。無理に取り付けようとすると、収納リールや取り付け部を損傷するおそれがあります。

エクステンションを取り外す

▶ 収納リールに取り付けられているエクステンションを反時計回りにまわして、取り外します。

▶ 収納リールの凹部②にエクステンションの凸部①を差し込んで取り付けます。

▶ 反対側も同様に、エクステンションを取り外し、収納リールに取り付けます。

ルーフラック

⚠ 警告

- ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。取り付け方を誤ると、走行中に外れて乗員や他の人々がけがをしたり、事故の原因になります。
- ルーフの最大積載量（約100kg）を超えないよう注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

! ルーフラックやスキーラックなどは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。推奨品以外の製品を取り付けると車を損傷するおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ルーフラックを取り付けるとき、また、ルーフラックに荷物を積んだときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- パノラミックスライディングルーフ * をチルトアップさせたときや開いたときに接触しないこと
- テールゲートを開いたときに接触しないこと

! ルーフに荷物を積むときは、パノラミックスライディングルーフを閉じてください。けがをするおそれがあります。

ルーフラックを取り付ける

▶ カバー①を矢印の方向に開きます。

▶ ルーフラックを取り付けます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内装備

カップホルダー

⚠ 警 告

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な道路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が投げ出されて、乗員が火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。また、火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

センターコンソールのカップホルダー

センターコンソールのカップホルダーを開く

▶ カバー①のマーク②を押します。

カバー①が開きます。

左側のカップホルダーは容器を固定することができます。

容器を固定する

▶ 左側のカップホルダーに容器を置きます。

▶ ボタン④を矢印 ⑤ の方向に押します。

ホルダー③が矢印②の方向に移動して、容器が固定されます。

容器を取り出す

▶ ホルダー③を下方に押しながら、元の位置に戻します。

センターコンソールのカップホルダーを閉じる

▶ カップホルダーに容器がないことを確認します。

▶ カバー①を押して閉じます。

センターコンソール後方のカップホルダー

! カップホルダーを使用しないときや中央セカンドシートを折りたたむときは、カップホルダーを収納し、カバーを閉じてください。

カバーを開く

▶ ボタン②を押します。

カバー①が開きます。

カップホルダーを使用する

▶ カバー①を矢印の方向にいっぱいまで引き下げます。

▶ カップホルダー③を矢印の方向に引き出します。

カップホルダーを収納する

▶ カップホルダー③を前方に押し込みます。

▶ カバー①の後端を持ち上げます。

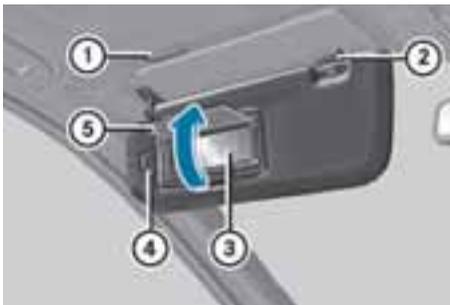
▶ カバー①を前方に押してロックします。

サードシートのカップホルダー

サードシートの左右にカップホルダーを装備しています。

サンバイザー

⚠ 警 告

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。

① 照明
② フック
③ バニティミラー
④ カードホルダー
⑤ バニティミラーカバー

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザーを下げます。

▶ バニティミラーカバー⑤を上方に開きます。

照明①が点灯します。

! 眩惑を防ぐため、走行中はバニティミラーを使用しないでください。

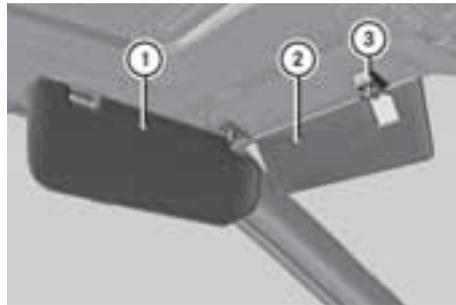
i バニティミラーの横にカードホルダー④を備えています。

i サンバイザーをフックから外すと、照明は点灯しません。

サンバイザーを使用する

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ サンバイザー①をフック③から外します。

▶ サンバイザー①を横にまわします。

前方からの眩しさも防ぐときは、補助サンバイザー② * を下げます。

使用後は、補助サンバイザー②を元の位置に戻してから、サンバイザー①を元の位置に戻します。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバーを閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

灰皿

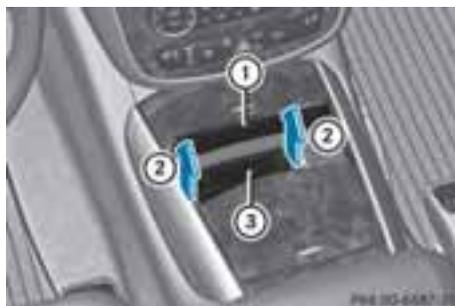
! 灰皿下部のスペースには耐熱性がありません。火がついたたばこを灰皿に置く前に、灰皿が確実に取り付けられていることを確認してください。灰皿下部のスペースを損傷するおそれがあります。

! 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

! 使用後は確実にカバーを閉じてください。

ⓘ 灰皿を取り外したスペースを小物入れとして使用することができます。

フロントの灰皿

灰皿を開く

▶ カバー①のマーク部を押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿③の凹部に指をかけて矢印②の方向に引き上げます。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③を押し込んでロックします。

リアの灰皿

リアの灰皿は、センターコンソール後方にあります。

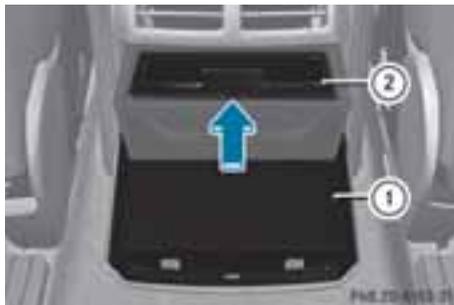
① カバー
② 灰皿

灰皿を使用する

▶ カバー①を開きます（▷236 ページ）。

灰皿を収納する

▶ カバー①を押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ カバー①の上端を持って、カバーを引き下げます。

▶ 灰皿②の矢印の部分を前方に押しながら、引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿②を押し込んでロックします。

▶ カバー①の上端を持ち上げ、カバーをロックします。

▶ カバー①を前方に押してロックします。

! 灰皿を使用しないときや中央セカンドシートを折りたたむときは、カバーを閉じてください。

ライター

⚠ **警 告**

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

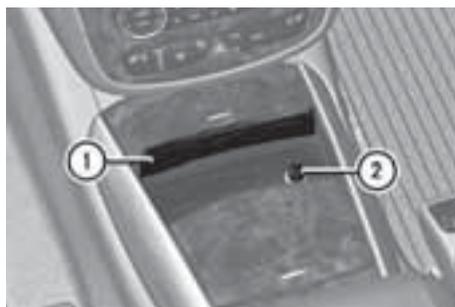
安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターを使用するときは、以下の点に注意してください。ライターを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! ライターソケットは電動エアポンプの電源としては使用できません。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電流 15A 以下の規格に合った電気製品を使用してください。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ カバー①を開きます。

▶ ライター②を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

12V 電源ソケット

センターコンソール後方とラゲッジルームに 12V 電源ソケットを装備しています。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

! 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になることがあります。

! 必ず DC12V、最大消費電流 20A 以下（最大消費電力 240W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。

規格外の電気製品を使用すると、ヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

! ラゲッジルームの 12V 電源ソケットは電動エアポンプの電源としては使用できません。

i イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはエンジンスイッチからキーを抜いてあるときも 12V 電源ソケットは使用できます。

ただし、バッテリー電圧が低下すると、12V 電源ソケットは使用できなくなります。

センターコンソール後方の電源ソケット

ラゲッジルームの電源ソケット

12V 電源ソケットを使用する

▶ ソケットカバー①を開き、電気製品の電源コネクターを確実に差し込みます。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

⚠ **警 告**

SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

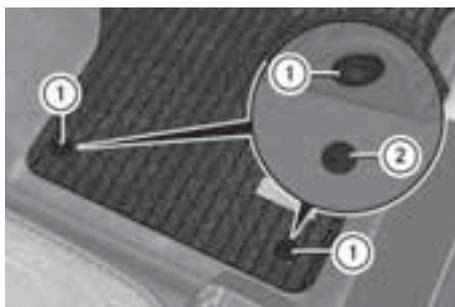
! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

運転席フロアマット *

⚠ **警 告**

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- フロアマットは、フロアの凸部②とフロアマットの凹部①で確実に固定してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

フロアマットを取り付ける

▶ 運転席シートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

フロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

慣らし運転

⚠ **警 告**

新品のブレーキパッドやブレーキディスクは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは注意してください。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置 D3、D2、D1 および 1 ～ 3 速のギアは山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ℹ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ℹ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ 警告

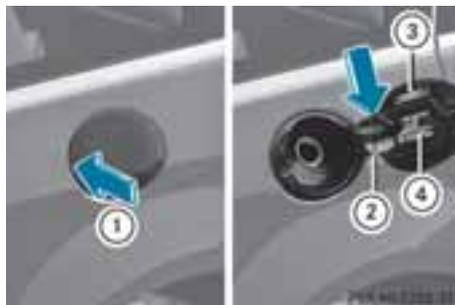
給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

⚠ 警告

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 警告

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

① 燃料給油フラップ
② ホルダー
③ 使用燃料表示
④ タイヤ空気圧ラベル

燃料給油フラップは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は車両の右側後方にあります。また、メーターパネル内には燃料給油口の位置を示す [⛽▸] が表示されています。

給油口を開いて給油する

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチに取り付けているキーレスゴースイッチ * を押してイグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

▶ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ * を取り付けているときは、運転席側ドアを開き、イグニッション位置を **0** にします。

再び運転席側ドアを閉じても、イグニッション位置は **0** のままになります。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。

燃料給油フラップ ① が少し開きます。

▶ 燃料給油フラップ ① を完全に開きます。

▶ キャップを反時計回りに少しゆるめて、タンク内の圧力を抜きます。

圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

日常の取り扱い

▶ 外したキャップを燃料給油フラップの裏側にあるホルダー②に置きます。

▶ 給油を開始します。

給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

燃料給油口を閉じる

▶ キャップを燃料給油口に合わせます。

▶ キャップをカチカチッという音がして空回りするまで、時計回りにまわします。

▶ 燃料給油フラップ①を閉じます。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷263 ページ）をご覧ください。

ℹ 車を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。施錠後に燃料給油フラップを閉じようとしても、ロックピンにより、燃料給油フラップが閉じなくなります。

ℹ リモコン操作やキーレスゴー操作＊で燃料給油フラップが解錠されないときは、手動で解錠できます（▷313 ページ）。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。故障の原因になります。
- 軽油を燃料として使用したり、燃料に混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料供給系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品を交換してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

＊オプションや仕様により、異なる装備です。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 気化した燃料を吸い込まないように注意してください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

燃料と燃料タンクのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
車から燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにイグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷312 ページ）。 ▶ テールゲートを開いてください（▷81 ページ）。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷313 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されるが、給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷313 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンルーム

ボンネット

⚠ 警告

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

⚠ 警告

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

⚠ 警告

エンジンスイッチからキーを抜いているときやイグニッション位置が **0** のときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

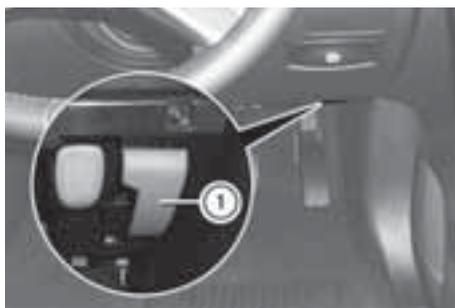
▶ ワイパースイッチが停止の位置になっていることを確認します。

⚠ 警告

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にして、ワイパースイッチが停止の位置になっていることを確認してください。ワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

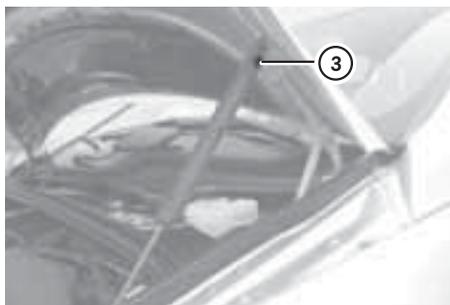
! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くかイグニッション位置が **0** になっていることを確認します（▷82、83ページ）。

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー①を手前に引きます。

▶ ラジエターグリルの上方にあるロック解除ノブ②を矢印の方向に引き上げながらボンネットを開きます。

ボンネットを約 40cm ほど持ち上げると、ガス封入式ダンパーによりボンネットは自動的に開き、保持されます。

ボンネットを垂直位置まで開く

③ ロックボタン

垂直位置まで開く

▶ 左側支柱の上部にあるロックボタン③を押しながら、ボンネットを押し上げて垂直の位置にします。

ロックボタン③が支柱下部に移動し、ロックされます。

垂直位置から閉じる

▶ ボンネットを少し押し上げながら、支柱下部に移動したロックボタン③を押し、ロックを解除してボンネットを閉じます。

ℹ 垂直位置まで開いたボンネットは、支柱下部に移動したロックボタン③を押さなくても通常の開く位置まで下げることはできますが、その位置から閉じることはできません。

再度、垂直に開き、ロックボタンを押しながら閉じてください。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、ラジエターグリル上部から約 20cm ～ 30cm 上方の位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

⚠ 警告

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

i ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

エンジンルーム

⚠ 警告

- イグニッションシステムや燃料噴射システム、キセノンヘッドライトのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

環境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

①	冷却水リザーブタンク	255
②	エンジンオイルフィラーキャップ	254
③	エンジンオイルレベルゲージ	253
④	ウォッシャー液リザーブタンク	258
⑤	ヒューズボックス	346
⑥	ブレーキ液リザーブタンク	257

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電に注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

⚠ **警 告**

エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。また、ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。

! 作業は安全な場所を選択して行なってください。

! 適切な工具を使用してください

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

! 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

エンジンオイル

車の使用状況により、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。

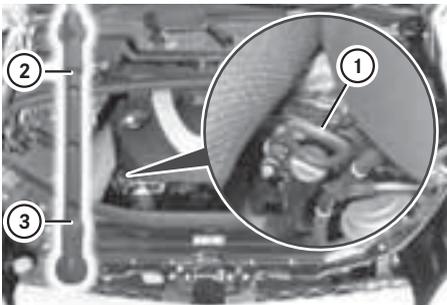
慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

! エンジンオイルの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

エンジンオイルの量を点検する

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している
- 一時的にエンジンを始動したときなど、エンジンが温まっていないときは、エンジンを停止してから約 30 分以上経過している

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（max）②と下限（min）③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷301 ページ）をご覧ください。

i エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は、約 1.5 ～ 2 リットルです。

エンジンオイルを補給する

! 必ず指定のエンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

以下のことは、エンジンまたは排気システムの損傷の原因になります。

- 指定されていないエンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターを使用すること
- 必要とされる交換時期にエンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターを交換しないこと
- 純正品または承認されている製品以外のエンジンオイル添加剤を使用すること

▶ エンジンオイルフィラーキャップ④を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ④を補給口に合わせ、時計回りにまわして、確実に取り付けます。

! エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときは、エンジンオイルを抜いてください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

⚠ **警告**

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

環境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ **警 告**

水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ **警 告**

不凍液をエンジンルーム内にこぼさないでください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

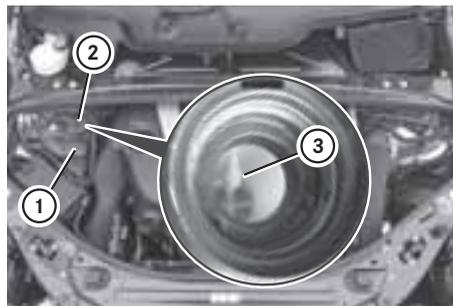
! マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷300 ページ）をご覧ください。

冷却水の量を点検する

冷却水の量の点検は、水平な場所に停車していて、エンジンが十分に冷えているときに行ないます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイのエンジン冷却水温度画面で冷却水の温度が冷えていることを確認します（▷153 ページ）。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくりと約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク内のバー③の上面に達していれば適量です。

▶ キャップを確実に閉じます。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ⓘ 水温が高いときは約 15mm ほど液面が高くなります。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ①をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます（▷355 ページ）。

▶ キャップを確実に閉じます。

▶ エンジンを始動させ、約 5 分後にエンジンを停止します。

▶ 冷却水が十分に冷えたことを確認してから冷却水の量を再度点検し、必要であれば、再度冷却水を補給します。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷300 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ **警告**

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ **警告**

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷255 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

⚠ **警告**

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷298 ページ）、ブレーキ警告灯（▷273 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

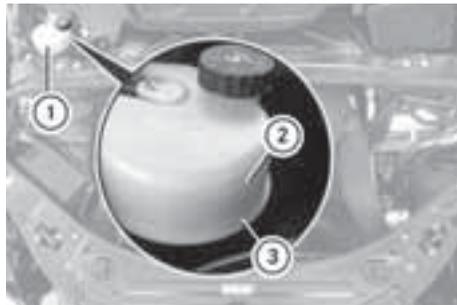
⚠ **警告**

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ **警告**

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷298 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

▶ ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンク①のレベルインジケーター上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば正常です。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

i **ベーパーロック：**長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ **警告**

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときは補給しないでください。

i ウインドウウォッシャー液とヘッドライトウォッシャー液のリザーブタンクは共用です。

i ウォッシャー液には夏用と冬用の 2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

▶ リザーブタンクに補給する前に、ウォッシャー液と水を適正な混合比に混ぜます。

▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ ① を開きます。

▶ あらかじめ適正な比率で水と混合しておいたウォッシャー液を補給します。

▶ キャップ ① を取り付けます。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

! 補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液に、蒸留水や脱イオン水を混ぜないでください。液量の計測器を損傷するおそれがあります。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(▷304 ページ)をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

安全に関する注意

⚠ 警 告

純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着したり、タイヤやホイールを正しく装着しないと、車両の安全性を損なうおそれがあります。

⚠ 警 告

タイヤがパンクしているときは、車両の走行特性やステアリング特性、ブレーキ特性などが著しく損なわれます。事故の危険性があります。

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- タイヤがパンクしたときは、ただちに応急用スペアタイヤに交換するか、メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ブレーキシステムやホイールを改造しないでください。また、スペーサーやダストシールドを使用しないでください。保証の適用外になります。

走行時の注意

- 走行しているときは、振動や騒音、ステアリングが片方向にとられるなどの不自然なステアリングの動きに注意してください。ホイールやタイヤが損傷しているおそれがあります。タイヤやホイールの損傷が疑われるときは、ただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。目に見えないタイヤやホイールの損傷も、不自然なステアリングの動きの原因になります。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石や障害物に接触しないようにしてください。

  縁石などを乗り越える必要があるときは、走行速度を落とし、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤの点検

⚠ 警告

損傷しているタイヤは空気圧低下の原因になり、結果として車両のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。タイヤに損傷がないかを定期的に点検し、損傷しているタイヤはただちに交換してください。

タイヤを点検する

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態（別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

- タイヤの溝の深さや接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、タイヤを左側または右側にいっぱいに切った状態でタイヤの内側も点検してください。
- ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。
- 応急用スペアタイヤも含め、タイヤの空気圧は定期的に点検してください。
- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

タイヤトレッド

⚠ 警告

以下の点に注意してください。

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すみやかにに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの溝の深さや接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、タイヤを片方向に向けて、タイヤの内側も点検してください。

タイヤの選択、装着と交換

- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。
- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- トレッドがひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。応急用スペアタイヤも同様に交換してください。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、車両操縦性やロードノイズ、燃料消費などに悪影響をおよぼすおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールと車体などが接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 前後同サイズのタイヤ / ホイールが指定されている車種は、2 本だけ新品のタイヤを装着するときは、前輪に装着してください。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP® などの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

⚠ **警告**

ウィンタータイヤの溝の深さが約4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。十分なグリップを発揮できず、雪道や凍結路の走行に適さなくなります。これにより、車両のコントロールを失い、事故の原因になります。

⚠ **警告**

ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両操縦性や走行安定性、制動性能が大きく低下するので注意してください。

スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。

ⓘ ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

スノーチェーンを装着するときは、以下のことに注意してください。

- 車種や仕様により、標準タイヤ、ホイールにスノーチェーンを装着できない場合があります。詳しくは（▷358 ページ）をご覧ください。
- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。
- スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。前輪に装着すると、ボディやフェンダーの内側またはサスペンションなどに接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。
- スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。
- 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

ⓘ スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

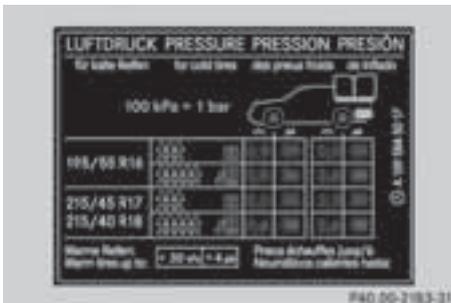
ⓘ スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧ラベル

⚠ 警告

空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷245ページ）。

タイヤサイズや乗車人数、荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「kPa（100kPa=1bar）」と「psi」で示しています。

ℹ "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

ℹ 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

ℹ 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

⚠ 警告

ホイールバルブには純正品または承認されたバルブキャップ以外のものを装着しないでください。特にバルブに装着するタイプの市販のタイヤ空気圧計測装置を装着すると、ホイールバルブに負担がかかり、ホイールバルブが脱落するおそれがあります。また、構造上バルブが常に開いた状態になり、空気漏れにつながるおそれがあります。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が何度も低下するときは以下のことを確認してください。

- タイヤに異物がささっていないこと
- ホイールやタイヤバルブから空気が漏れていないこと
- 純正品または承認されたバルブキャップが装着されていること

タイヤ空気圧が低いときは、車の走行安全性に悪影響をおよぼし、事故につながるおそれがあります。

空気圧はできるだけタイヤが冷えているときに測定してください。以下のときはタイヤは冷えています。

- 直射日光を浴びていない状態で約 3 時間駐車したままのとき
- 約 1.6km 以上走行していないとき

周囲の気温や走行速度、路面温度などの影響によりタイヤの温度が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 10kPa（0.1bar / 1.5psi）変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

不適切なタイヤ空気圧は、タイヤに以下のような影響を与えます。

- タイヤ寿命の低下
- 損傷を受ける可能性の増加
- 車両操縦性への悪影響（ハイドロプレーニング現象など）

ⓘ 少ない荷物に対応した空気圧は、良い乗り心地をもたらすための最低空気圧です。荷物が少ないときも、多い荷物に対応した空気圧を使用することもできます。この空気圧は許容されている値であり、走行性能に悪影響を与えることはありません。

環 境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

タイヤ空気圧警告システム

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- ルーフや車内に重い荷物を積んで走行しているとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

⚠ 警告

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照して、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷263 ページ）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

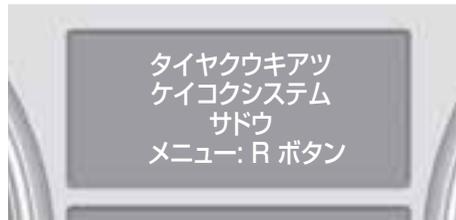
⚠ 警告

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

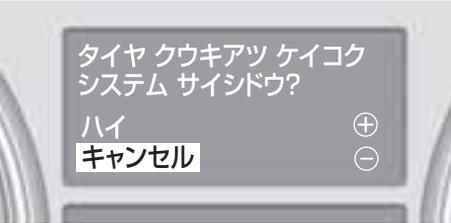
タイヤ空気圧警告システムを再起動する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、基本画面を表示させます（▷ 151 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、タイヤ空気圧警告システムを表示させます。

"タイヤクウキアツ ケイコクシステム サドウ メニュー： R ボタン" と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイに "タイヤクウキアツ ケイコクシステム イグニッション オン デ サドウ" と表示されたときは、イグニッション位置を **2** にしてください。

▶ リセットボタン（▷147 ページ）を押します。

マルチファンクションディスプレイに "タイヤ クウキアツ ケイコク システム サイシドウ ?" と表示されます。

▶ [+] を押して、" ハイ " を反転表示にします。

タイヤ空気圧警告システムを再起動しないときは [−] を押します。

ⓘ マルチファンクションディスプレイに "タイヤ クウキアツ ケイコクシステム サイシドウ ?" と表示されてから約 15 秒間何も操作をしないと、再起動は中断されます。

マルチファンクションディスプレイに " タイヤクウキアツ ケイコクシステム サイシドウ " と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

タイヤの交換

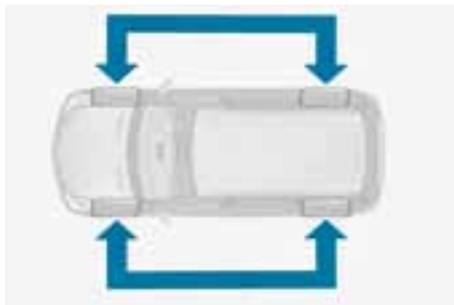
タイヤローテーション

⚠ 警 告

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車両操縦性や走行安定性が確保できません。

ホイールボルトの締め付けトルクは 15kg-m（150Nm）です。タイヤローテーションを行なった後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 〜 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ℹ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。その結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ℹ タイヤローテーションを行なうときは、ホイールとブレーキシステムの接合面を清掃してください。

ℹ タイヤを入れ替えた後にタイヤ空気圧を調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

タイヤの回転方向

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、ハイドロプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

応急用スペアタイヤは、どちらの回転方法でも装着できます。

応急用スペアタイヤを使用するときは、制限速度などの使用制限に従ってください。

タイヤの保管

装着していないタイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤの清掃

⚠ 警 告

高圧式スプレーガンを使用してタイヤを清掃しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。

- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウ、パノラミックスライディングルーフ * などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

⚠ **警告**

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、シフトポジションを P にして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP®、4MATIC などの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警告**

- ウィンタータイヤの溝の深さが約4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。

  スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。

! ウィンタータイヤを外した後は、タイヤ / ホイールをオイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。

前輪に装着すると、ボディやフェンダーの内側またはサスペンションなどに接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

! オプションまたは仕様により、標準タイヤ、ホイールにスノーチェーンを装着できない場合があります。詳しくは（▷358 ページ）をご覧ください。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。

! スノーチェーン装着時は約50km/h 以下の速度で走行してください。

! 路面に雪や凍結がなくなったときや、必要のなくなったときは、すみやかにスノーチェーンを外してください。

i スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

i スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードを E モードにしてください（▷141 ページ）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- クルーズコントロールは使用しないでください。
- 低いギアレンジを選択することによる急激なエンジンブレーキは効かせないでください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ 警告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行時の注意

エンジンを停止しての走行

⚠ 警告

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

⚠ 警告

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

⚠ **警告**

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

⚠ **警告**

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 高速道路を走行しているときなどブレーキを効かせずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

i 長く急な下り坂では、ティップシフトでギアレンジを D3、D2、D1 にして、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。さらに減速が必要なときは、ブレーキペダルを踏み続けるのではなく、繰り返し踏んでください。

i クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

i 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

凍結防止剤について

凍結防止剤がまかれた道路を走行するときは、ブレーキディスクやブレーキパッドに塩類が付着してブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。

このときは、後続車に注意しながらブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。さらに、先行車との車間距離を十分確保し、注意して走行してください。また、次回走行するときにも、ブレーキペダルを数回軽く踏み、残った塩類を落としてください。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後やイグニッション位置が **1** のときは、パーキングブレーキを効かせていると点灯したままになります。

エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **1** のときに、パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷298 ページ）をご覧ください。

タイヤグリップについて

安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保して、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドライトを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

i **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進して、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

  また、低速でシフトポジションを D と R に交互に入れることにより、ぬかるみから脱出できる場合もあります。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は、約 25cm です。
- 波が立たないような速度で走行してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、室内に水が浸入するおそれがあります。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいため、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いため、歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールを使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。また、AC モードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドライトやリアフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドライトを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するため、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはリアフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーターが表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーターが自動的に表示されます。

メンテナンスインジケーターを消す

▶ リセットボタン（▷147 ページ）を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

手動表示

メンテナンスインジケーターは、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングの [ボタン] または [ボタン] を押して、基本画面を表示させます
(▷151 ページ)。

▶ [△] または [▽] を押して、メンテナンスインジケーターを表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。"#" には "A" から "H" までのアルファベットが入ります。

点検整備実施前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｼﾞｯｺｳ ｼﾏｽ !"

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｺｴﾃｲﾏｽ "

また、警告音が鳴ります。

ⓘ " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " の後に表示される "A" から "H" のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

ⓘ " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ＋ " " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ＋ " など、"A" から "H" のアルファベットの後に " ＋ " の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。

ⓘ ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のどちらかで対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

ⓘ バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **警 告**

一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。

車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

環 境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいため、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼付しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

自動洗車機での洗車

⚠ **警 告**

自動洗車機で洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあり、事故につながるおそれがあります。ブレーキが乾くまで注意して運転してください。

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 高圧洗浄を行なう自動洗車機は使用しないでください。ドアやパノラミックスライディングルーフ * などから水漏れを起こすおそれがあります。
- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。また、洗車前にドアミラーを格納してください。車体やドアミラーを損傷するおそれがあります。
- 自走式の自動洗車機を使用するときは、シフトポジションが N になっていることを確認してください。車を損傷するおそれがあります。
- ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じていることを確認してください。
- 余熱ヒーター・ベンチレーションが停止していることを確認してください。
- ワイパーを停止してください(▷119、120 ページ)。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

手洗いによる洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。また、熱いお湯で洗車しないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

高圧式スプレーガンの使用

⚠ **警 告**

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷して、事故の原因になります。

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンのノズルを以下の部分に近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が浸入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。

  ◇タイヤ

  ◇ウインドウガラス接合面

  ◇ボディパネルの継ぎ目

  ◇電気装備

  ◇バッテリー

  ◇コネクター類

  ◇ライト

  ◇シール部

  ◇外気取り入れ口

  ◇サスペンション

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

クリアマット仕上げの軽合金ホイールを取り扱う際も、以下の点に注意してください。

! 塗装面を磨かないでください。また、塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なって

ウインドウの清掃

⚠ **警 告**

フロントウインドウを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。また、かたい物でこすらないでください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

日常の取り扱い

! フロントウインドウの排水口にたまった枯葉やほこりなどを定期的に清掃してください。排水口が目詰まりを起こし､腐食の原因になります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ 警告

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃は、頻繁には行なわないでください。また強くこすったりしないでください。表面のコーティングが損傷して異音などの原因になります。

▶ ワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームを持ってゆっくりと戻してください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

ライト類の清掃

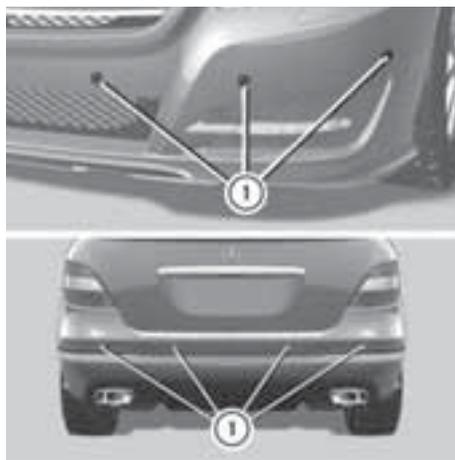
! ライト類の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用し、有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液で、ライト類の樹脂製レンズを清掃します。または、清潔な柔らかい布でライト類の樹脂製レンズを清掃します。

ドアミラー方向指示灯の清掃

! ドアミラー方向指示灯の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用し、有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液で、ドアミラー方向指示灯の樹脂製レンズを清掃します。または、清潔な柔らかい布でドアミラー方向指示灯の樹脂製レンズを清掃します。

パークトロニックセンサーの手入れ

パークトロニックセンサー①を清掃するときは、流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! パークトロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

▶ きれいな水でカメラ①の汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。

! カメラのレンズやカメラ周辺を清掃するときは、以下のことに注意してください。カメラを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。
- 強い力で乾拭きしないでください。
- 有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着したときは、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

マフラーの清掃

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **警 告**

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

COMAND ディスプレイの清掃

▶ COMAND システムの電源をオフにします。

ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

▶ 水で薄めた中性洗剤を含ませた不織布で拭き取ります。

! COMAND ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力で COMAND ディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

プラスチックトリムの清掃

⚠ 警告

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ステアリングおよびセレクターレバーの清掃

▶ 水で湿らせた布で全体を拭くか、指定のレザーケア用品を使用してください。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シート表皮の清掃

! 天然皮革や人工皮革、アルカンターラ ® を使用した部分には、不織布を使用しないでください。頻繁に使用すると、これらの部分を損傷するおそれがあります。

! レザーは、軽く湿らせた布で表面を拭き、次に乾いた布で拭き取ります。革が濡れないように注意してください。

ℹ シート表皮を定期的に手入れすることにより、見栄えや快適性を維持することができます。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

ルーフライニングおよびカーペットの清掃

▶ ルーフライニングは、柔らかいブラシを使用して清掃します。ひどい汚れには、指定のクリーナーを使用します。

▶ カーペットは、指定のクリーナーを使用して清掃します。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ 警告

燃料などが漏れている場合は、ただちにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

シフトポジションを N にして、同乗者や付近の人に救援を求め、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

シフトポジションを N にできないときは、乗員を安全な場所に避難させて、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をフロントドアポケットに備えています。

ℹ 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

ℹ 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

ラゲッジフロアボード

ラゲッジフロアボードの下には、停止表示板や救急セット、車載工具、応急用スペアタイヤなどが収納されています。

ラゲッジフロアボードを開く

▶ ハンドル②の矢印の部分を押してハンドルを起こし、ラゲッジフロアボード①を引き上げます。

▶ ラゲッジフロアボード裏面にあるフック③を矢印の方向に取り外します。

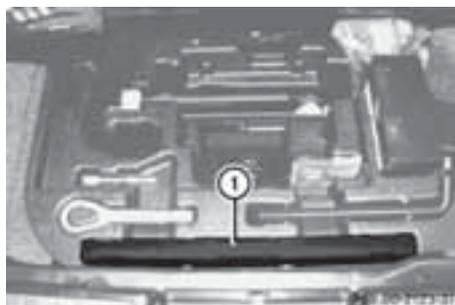
▶ フック③をテールゲート開口部上端④にかけます。

! サードシート後方にラゲッジルームカバー収納リールを取り付けているときは、ラゲッジルームカバーの後端を下げてからラゲッジフロアボードを開いてください。ラゲッジルームカバーを損傷するおそれがあります。

停止表示板

応急用スペアタイヤが車載されている車種

※ 停止表示板ケースの収納位置が異なる場合があります。

タイヤフィットが車載されている車種

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

停止表示板を組み立てる

▶ 停止表示板ケース①から停止表示板を取り出します。

▶ 4 本のスタンド④を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

▶ 反射板③を開いて、先端のフック②をかみ合わせます。

救急セット

救急セットはラゲッジフロアボードの下に収納されています。

救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

救急セットを取り出す

▶ テールゲートを開きます（▷78 ページ）。

▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▷289 ページ）。

▶ 救急セット①を取り出します。

※ 救急セットの収納位置が異なる場合があります。

車載工具

車載工具は、ラゲッジフロアボードの下に収納されています。

⚠ 警告

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。車載のジャッキは、タイヤを交換するために車を一時的に持ち上げる目的のみに設計されています。

⚠ 警告

ジャッキはかたくてすべりにくい、水平な場所でのみ使用してください。パーキングブレーキを確実に効かせ、さらに輪止めを使用して、車が動き出してジャッキから外れることを防いでください。

! 車載工具や応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

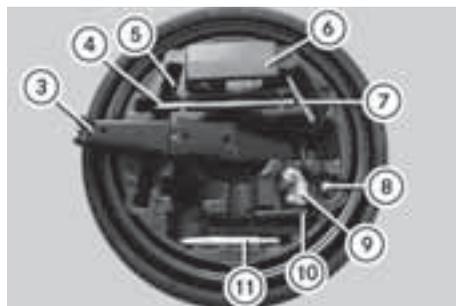
ℹ ジャッキを使用するときは、「パンクしたとき」（▷320 ページ）に記載されている安全に関する内容も必ずお読みください。

車載工具を取り出す

▶ テールゲートを開きます（▷78 ページ）。

▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▷289 ページ）。

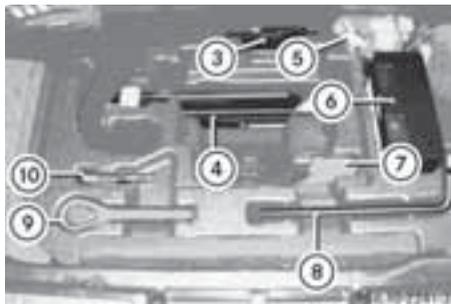
ℹ 車載工具が取り出しにくいときは、サードシートを折りたたみ、ラゲッジフロアボードを前方に倒します。

応急用スペアタイヤが車載されている車種

③	ジャッキ
④	ホイールレンチ
⑤	ジャッキハンドル
⑥	電動エアポンプ
⑦	ヒューズ配置表（英文）
⑧	ガイドボルト
⑨	応急用スペアタイヤ用ホイールボルト
⑩	輪止め
⑪	けん引フック

※ 仕様により、車載工具の配置が異なる場合があります。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

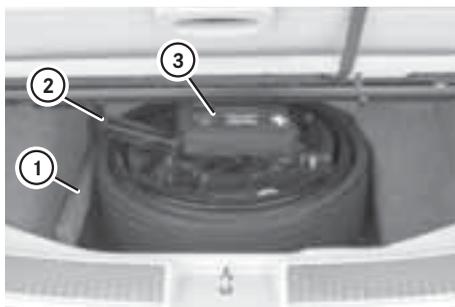
※ 仕様により、応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは応急用スペアタイヤのホイールに添付されている場合があります。

タイヤフィットが車載されている車種

③	輪止め
④	ジャッキ / ジャッキハンドル
⑤	タイヤフィット
⑥	電動エアポンプ
⑦	ヒューズ配置表（英文）
⑧	ホイールレンチ
⑨	けん引フック
⑩	ガイドボルト

※ 仕様により、車載工具の配置が異なる場合があります。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

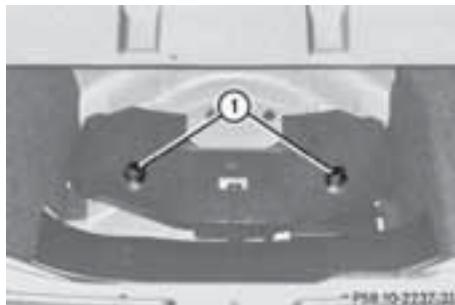
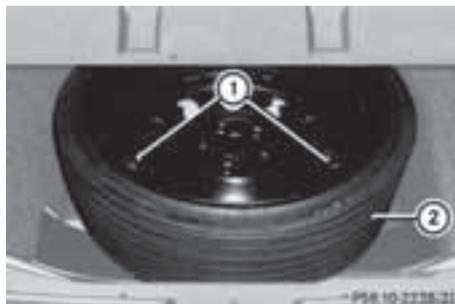
応急用スペアタイヤの取り出し / 収納

応急用スペアタイヤを取り出す

- ラゲッジフロアボードを開きます(▷289 ページ)。
- 停止表示板ケース①とジャッキ②、救急セット③を取り出します。

- スクリュー④を反時計回りにまわして外します。
- トレイ⑤をまわして、電動エアポンプが手前にくるようにします。
- 電動エアポンプを取り出します。
- トレイ⑤を取り出します。
- 応急用スペアタイヤ⑥を取り出します。

ℹ 応急用スペアタイヤが取り出しにくいときは、サードシートを折りたたみ、ラゲッジフロアボードを前方に倒します。

応急用スペアタイヤを収納する

- ラゲッジフロアボードの下に停止表示板ケースが置かれているときは取り出します。

- 左右の凸部①が応急用スペアタイヤのホイールの穴に差し込まれるように、応急用スペアタイヤを収納します。

- 左右の凸部①がホイールの穴に確実に差し込まれていることを確認します。
- 応急用スペアタイヤの横に停止表示板ケースを収納します（▷290 ページ)。
- 車載工具のトレイを応急用スペアタイヤのホイールに差し込みます。
- 電動エアポンプが前側になっていることを確認します。

▶ スクリューを時計回りにまわして固定します。

▶ ジャッキと救急セットの元の位置に置きます。

! トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず手袋を着用し、手を挟まないように注意してください。

輪止め

ジャッキを使用するときなどには、輪止めを使用し、車が動き出さないようにしてください。

輪止めを組み立てる

▶ プレートを引き起こします ①。

▶ 裏面のプレートを引き出します ②。

▶ 裏面のプレートの突起部分を、ベースプレートの開口部に差し込みます ③。

! 輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ 警告

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの [□] または [□] スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイに故障表示画面を表示させます。

故障や異常がある場合は、"コショウカ゛ 3" のように故障件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障表示画面は表示されません。

▶ [△] または [▽] を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの [□][□] や [△][▽] スイッチ、またはリセットボタンを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

安全装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 ショウデ゛キマセン！ マニュアル ヲ サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの と 、 も点灯している。 自己診断機能が終了していない可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの と 、 も点灯している。 電圧が低下している可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 コショウ マニュアル ヲ サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの と 、 および も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
シヨウデ゛キマセン！ マニユアル ヲ サンシヨウ	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、PRE-SAFE®、BAS、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの と も点灯している。 自己診断機能が終了していない可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、PRE-SAFE®、BAS、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの と も点灯している。 電圧が低下している可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	走行中にメッセージが表示され、メーターパネルの が点滅しているときは、ブレーキの過熱を防ぐため ETS の機能が解除されている。 ▶ メッセージが消え、メーターパネルの が消灯するまで、ブレーキを冷やしてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ETS は自動的に待機状態になります。
 コシヨウ マニユアル ヲ サンシヨウ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、PRE-SAFE®、BAS、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 さらに、メーターパネルの と も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
   コショウ マニュアル ヲ サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBD（エレクトロニック·ブレーキパワー·ディストリビューション）、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 さらに、メーターパネルの と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 パ゜ーキング゛ブ゛レーキ カイジ゛ョ シテクダ゛サイ！	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 警告音も鳴った。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
 ブ゛レーキ オイル レベ゛ル テンケン	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 さらに、メーターパネルの が点灯し、警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
 ブ゛レーキ パ゜ッド゛ マモウ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
プ゛レセーフ コショウ マニュアル ヲ サンショウ	⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE® の重要な機能に異常がある。 エアバッグなど他の乗員保護装置の機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS SRS システム コウシ゛ョウテ゛ テンケン	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護補助装置が故障している。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ライト

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヒダ゛リ ロ-ビ゛-ム 1)	左ヘッドライト（ロービーム）が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
オ-トライト コショウ	ライトセンサーに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ランフ゜ ヲ ケシテ クダ゛サイ！	ライトスイッチが の位置にしたまま、キーを抜いて運転席ドアを開くか、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開いた。警告音も鳴った。 ▶ ライトスイッチを **0** の位置にしてください。

1）他のライトが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ライトのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ℹ LED ライトについては、すべての LED が切れたときにメッセージが表示されます。

エンジン

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ､ ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ!	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度表示（▷153 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートのおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき：** ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度表示（▷153 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転することができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	以下の理由により、バッテリーが充電されていない。 警告音も鳴った。 • オルタネーターの故障 • V ベルトの摩耗 • 電気システムの故障 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾊﾞｯﾃﾘｰ / ｵﾙﾀﾈｰﾀ ﾃｲｼｬ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	バッテリーに異常がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が最低限の量まで低下している。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ 1 ﾘｯﾀｰ ｵｲﾙ ｦ ﾂｲｶ！	エンジンオイル量が不足している。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
 ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	燃料タンクに燃料がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾖﾋﾞ ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ ｺｼｮｳ	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ －－－km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（▷175 ページ）。

タイヤ

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ！	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、周囲の交通状況に注意してください。 ▶ タイヤを点検し、必要であれば該当するタイヤを交換してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷265 ページ）。
ﾀｲﾔｦ ﾃﾝｹﾝ ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれ、その後に再起動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤを適正な空気圧に調整してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
P ﾏﾀﾊ N ﾆ ｼﾌﾄｼﾃ ｽﾀｰﾄ!	シフトポジションが D または R のときにエンジンを始動しようとした。 ▶ シフトポジションを P または N にしてください。
ﾎｼﾞｮ ﾊﾞｯﾃﾘｰ ｺｼｮｳ	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーが充電されていない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
P ﾚﾝｼﾞ ｶﾗ ｼﾌﾄ ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞｸﾀﾞｻｲ	ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションを D、R、N にしようとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
ｾﾚｸﾀｶﾞ ｿｳｺｳｲﾁ	シフトポジションが R、N、D のいずれかのときに運転席ドアを開いた。 警告音も鳴った。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。
ｷﾞﾔﾁｪﾝｼﾞ ｾｽﾞﾆ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	故障のため、シフトポジションを変更することができない。 シフトポジションが D のとき： ▶ シフトポジションを変更しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 シフトポジションが R、N、P のいずれかのとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
P ﾚﾝｼﾞ ﾊ ﾃｲｼｼﾞ ﾉﾐ	車が完全に停車していない状態でシフトポジションを P にしようとした。 ▶ 周囲の道路と交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。
	テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ テールゲートを閉じてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 周囲の道路と交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
	ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを確実に閉じてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 パ゜ワステ コショウ コウジ゛ョウデ゛ テンケン	 ステアリングのパワーアシストが低下している。 ステアリング操作に非常に大きな力が必要になる。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 **安全にステアリング操作ができるとき：** ▶ 注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 **安全にステアリング操作ができないとき：** ▶ 走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
 ウォッシャエキ ホジ゛ュウ	リザーブタンクのウォッシャー液量が約 1/3 まで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください（▷258 ページ）。

キー

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 ｷｰ ｶﾞ ﾁｶﾞｲﾏｽ	 エンジンスイッチに別の車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
 ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
  ｷｰﾉ ﾊﾞｯﾃﾘｦ ｺｳｶﾝ	キーの電池が消耗している。 ▶ 電池を交換してください。
 ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ （赤色のメッセージ）	エンジンがかかっているときにこのメッセージが表示されたときは、システムが車内にキーがないと判断している。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ キーを探してください。
	エンジンがかかっていて、キーが車内にあるときにこのメッセージが表示されたときは、電磁波などの影響により、システムがキーを認識できない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ （白色のメッセージ）	システムがキーを認識できない。 ▶ キーの位置を変えてください。 それでもキーがシステムに認識されないとき： ▶ 再度、キーの位置を変えてください。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 ｷｰ ｶﾞ ｼｬﾅｲ ﾆ ｱﾘﾏｽ！	施錠時にシステムが車内にキーがあると判断している。 ▶ キーを車から遠ざけてください。
 ｽﾀｰﾄﾎﾞﾀﾝ ｦ ﾊｽﾞｼ ｷｰｦ ｻｼｺﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ	キーが認識されない状態が続いている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

シートベルト

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS のコントロールユニットに異常があるときは、ナビゲーションシステムやオートマチックトランスミッションなど、他のシステムにも異常がある可能性がある。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS の機能が一時的に作動しない。BAS、ESP®、EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも解除されている。 システムの自己診断が終了していない。 または、 バッテリーの電圧が低下している可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ メッセージが消えるまで、約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、短い距離を注意して走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** EBD に異常がある。そのため、ABS、BAS、ESP®、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯と黄色の ESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS と ESP® に異常がある。そのため、ABS、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも故障のため作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** 車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールなどが作動している。 クルーズコントロールの機能は解除されている。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	少なくとも 1 つ以上の車輪が空転しているが、ブレーキの過熱を防ぐため ETS の機能が解除されている。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ブレーキが冷えれば、ETS は自動的に待機状態になります。 メッセージが消え、 が消灯します。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® の機能が解除されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて走行してください。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプの機能が解除されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 ESP® の機能が一時的に作動しない。車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 システムの自己診断が終了していない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ 約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、短い距離を注意して走行してください。 表示灯が消灯すれば、上記の機能は作動できる状態になります。 表示灯が点灯したままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) 走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯は消灯し、警告音も鳴り止みます。
SRS エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠できます。

盗難防止警報システム装備車では、車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開いたり、テールゲート裏側のレバーでテールゲートを解錠して開くと（▷81 ページ）、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押す
- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、キーレスゴースイッチを押す（キーレスゴー装備車）
- キーが左右側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れるか、テールゲートのハンドルを引く（キーレスゴー装備車）
- キーがテールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、テールゲートのハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す（キーレスゴー装備車）

キーからエマージェンシーキーを取り外す

▶ ストッパー①を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー②をキーから引き抜きます。

運転席ドアの解錠

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置②にまわします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ドアハンドルをいっぱいまで引きます。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

▶ 再度ドアハンドルを引きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

! エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。

車両の施錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

▶ 助手席ドアと助手席側リアドア、テールゲートを閉じます。

▶ 運転席ドアと運転席側リアドアを開きます。

▶ 運転席ドアのドアロックスイッチ（施錠）（▷75 ページ）を押します。

▶ 助手席ドアと左右リアドアのロックノブが下がったことを確認します。

▶ 下がっていないときは、各ドアのロックノブを押し込みます。

▶ 車を降り、運転席ドアを閉じます。

▶ 開いている運転席側リアドアから腕を伸ばして、運転席ドアのロックノブを押し込みます。

i キーが車内になく、携帯していることを確認してください。

▶ 運転席側リアドアを閉じます。

▶ すべてのドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。

! ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、テールゲートが施錠されていないことがあります。このときは、車を施錠することはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーの閉じ込みに注意してください。

燃料給油フラップの解錠

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で解錠しても燃料給油フラップのロックが解除されないときは、手動でロックを解除します。

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルーム右側のカバー②にあるクリップ①をコインなどで矢印の方向にまわします。

▶ カバー②を取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ノブ③を矢印の方向に引きます。

ロックが解除されます。

▶ 燃料給油フラップを開きます。

⚠ **警 告**

ラゲッジルーム右側のカバーの内部には、金属が露出している部分や鋭利な部分があります。けがをしないように注意してください。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

ℹ このリセット作業は強い力が必要になるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

▶ ヘッドレストの上部を①の方向に押します。

▶ ヘッドレストを②の方向にいっぱいまで押し下げます。

▶ ヘッドレストを③の方向に押して、確実にロックさせます。

もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行なってください。

! 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けてください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警 告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環 境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

キーの電池を点検する

▶ キーのいずれかのボタンを押します。

キーの表示灯 ① が 1 回点滅すれば電池は正常です。

ⓘ 車両の近くでキーの電池の点検を行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を抜き取ります。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ⓘ 指でカバー ③ を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

- ▶ カバー ③ を取り外します。
- ▶ 電池側が下になるようにキーを手の上に載せて、電池 ④ が外れるまでキーを軽くたたきます。
- ▶ 電池のプラス（+）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。
- ▶ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認します。
- ▶ カバー ③ の凸部 ⑤ をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。
- ▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。
- ▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

電球に関する注意

バイキセノンヘッドライト

バイキセノンヘッドライトはお客様ご自身で交換することはできません。電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

⚠ 警 告

バイキセノンヘッドライトには高電圧が発生しています。バイキセノンヘッドライトのバルブソケットや配線に手を触れると感電して、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。バイキセノンヘッドライトのカバーは決して取り外さないでください。

バイキセノンヘッドライトの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ライト類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのライト類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてライトが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したライトが点灯しない場合や、すぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

その他のライト

⚠ **警 告**

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。電球を損傷したり、子供がけがをするおそれがあります。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- ハロゲンライトには圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- ハロゲンライトを交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

! 電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

! 電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにライトに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷299 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

バイキセノンヘッドライト以外にもお客様自身で交換できない電球があります。お客様ご自身で交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

交換可能な電球について

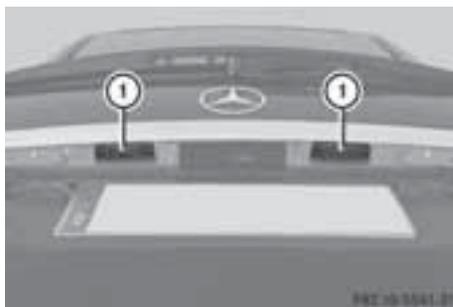
お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換する場合は、必ず指定された電球を使用してください。

ヘッドライト

ライト		ワット数（規格）
①	フロント方向指示灯	5W（黄色）
②	車幅灯 / パーキングライト	5W

テールランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	バックランプ	16W

ライセンスライト

ライト		ワット数（規格）
①	ライセンスライト	5W

ワイパーブレードの交換

⚠ 警 告

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーブレードのゴム部分に触れないようにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードが取り付けられていない状態で、ワイパーアームを元の位置に戻さないでください。

! ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ワイパーアームがフロントウインドウに当たり、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にします。

▶ ワイパーアーム④を起こします。

▶ クリップ②を両側から押し込んでロックを外し、ワイパーブレード①を③の方向にまわします。

▶ ワイパーブレード①を⑤の方向に押してワイパーアーム④から取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレード①の取り付け部⑥をワイパーアーム③の先端⑤に合せます。

▶ クリップ②がロックされるまで、ワイパーブレード①を矢印③の方向に押し込みます。

▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ 警告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

! 車速感応ドアロック（▷76 ページ）を設定した状態で車を押したり、車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

タイヤの修理およびタイヤ交換の準備

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ シフトポジションを P にします。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。キーレスゴースイッチ * でエンジンを停止したときは、運転席ドアを開きます。

▶ 車から降ります。

▶ ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ⓘ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

応急用スペアタイヤへの交換

タイヤ交換の準備

応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。

⚠ **警 告**

応急用スペアタイヤと標準タイヤではサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合は走行特性が大きく変化します。事故の危険性があります。

- 状況に合わせて、注意して運転してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- ESP® の機能を解除しないでください。

▶ 輪止め、ホイールレンチ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ガイドボルト、応急用スペアタイヤ、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト、電動エアポンプを準備します（▷291 ページ）。

! トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

水平な地面での輪止めの使用方法

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

傾斜した地面での輪止めの使用方法

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

ℹ 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

ジャッキアップする

⚠ **警告**

適切なジャッキポイントにジャッキを正しく合わせないと、ジャッキアップした車両が落下するおそれがあります。けがの危険性があります。

ジャッキがジャッキポイントの真下にあることを確認してください。

ジャッキアップするときは、以下のことに注意してください。

- 車載のジャッキのみを使用してください。ジャッキアップした車両が落下するおそれがあります。
- 車載のジャッキは、車輪の交換で車両を短時間ジャッキアップするためだけに設計されています。車両の下で作業を行なうときのためには適していません。
- 傾斜地では車輪の交換を行なわないでください。
- ジャッキアップする前に、パーキングブレーキを効かせて車両が動かないようにし、輪止めを使用してください。ジャッキアップしているときは、パーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、かたくて滑りにくい、平坦な地面で使用してください。柔らかい地面では、大きく、荷重に耐えるものを敷いてください。滑りやすい地面では、ラバーマットなどの滑りぬくい敷物を使用してください。

- ブロックや木材などをジャッキの下に置かないでください。高さが制限され、ジャッキの耐荷重に達しないことがあります。
- ジャッキアップしたときは、タイヤが地面から約 3cm 以上離れないようにしてください。
- ジャッキアップした車両の下には、身体を入れないでください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動しないでください。
- ジャッキアップしているときは、ドアやテールゲートを開かないでください。
- 車内に人がいるときはジャッキアップしないでください。

⚠ **警告**

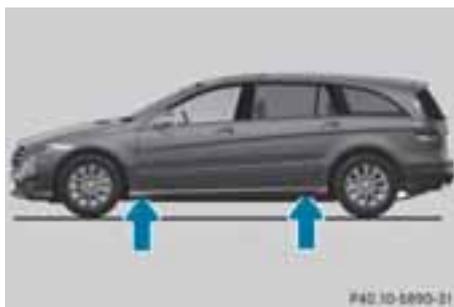
車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。

- かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。
- この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。
- 不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキを取り付ける前に、ジャッキサポートに付着した泥などを取り除いてください。

▶ ホイールレンチ①で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

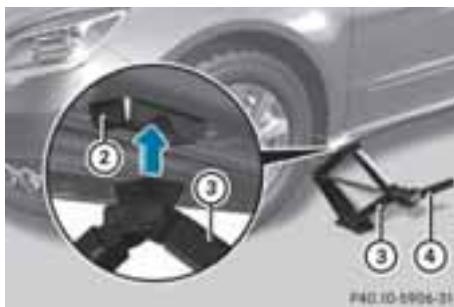
! ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

ジャッキサポートは、前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所（矢印の位置）に設けられています。

⚠ **警 告**

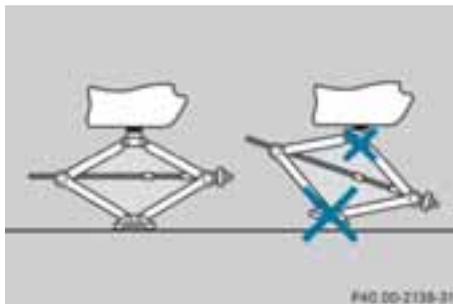
ジャッキサポート以外の場所にはジャッキを使用しないでください。ジャッキが外れてけがをしたり、車両を損傷するおそれがあります。

ジャッキは交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートで使用してください。また、ジャッキを使用する前に、ジャッキサポートに異物や汚れがないことを確認してください。

! ジャッキサポート部に亀裂や損傷があるときは、作業を行なわないでください。

▶ ジャッキハンドル ④ を、"AUF UP" の文字が手前にくるようにして、ジャッキ ③ のダイヤル部に取り付けます。

▶ ジャッキ ③ の先端および底面が、交換するタイヤに近いジャッキサポート ② の真下になるように、ジャッキ ③ を地面に置きます。

▶ ジャッキハンドル ④ を繰り返し操作して、ジャッキ ③ の先端をジャッキサポート ② に合わせます。

このとき、ジャッキの底面を確実に地面に接地させせます。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

▶ タイヤが地面から最大 3cm 離れるまで、ジャッキハンドル ④ を繰り返し操作します。

⚠ **警 告**

ジャッキの先端がジャッキサポートに正しく取り付けられていることを確認してください。ジャッキが外れると、けがをしたり車を損傷するおそれがあります。

! ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。

! 側面から見て、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。

タイヤの取り外し

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ そのネジ穴にガイドボルト①をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

! ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。

! タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

! ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤを取り付ける

⚠ 警 告

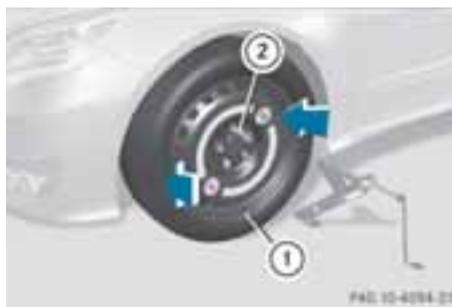
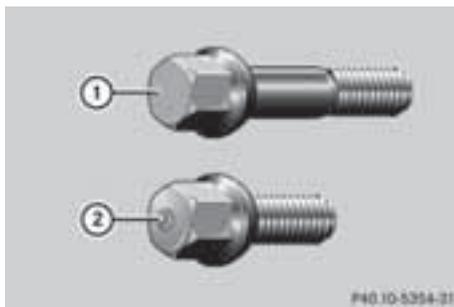
ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

⚠ 警 告

ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、走行しないで、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警 告

ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

▶ 応急用スペアタイヤを取り付けるためのホイールボルトを用意します。

応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②（短いホイールボルト）を使用してください。

! 標準タイヤ用ホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けないでください。ホイールを十分に固定することができず、走行中にタイヤが外れたり、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

ℹ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、トレイ（▷293 ページ）または応急用スペアタイヤの下に収納されているか、応急用スペアタイヤに添付されています。

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト①に合わせて応急用スペアタイヤ②を取り付けます。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5 本目のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

応急用スペアタイヤに空気を入れる

仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

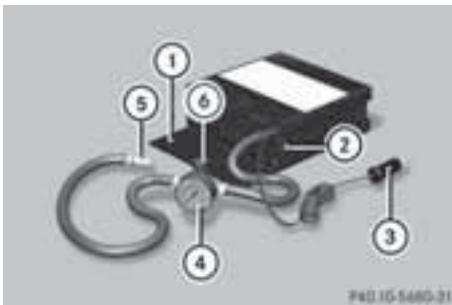
⚠ 警 告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- 必ず応急用スペアタイヤに空気を入れてからジャッキダウンしてください。ホイールリムを損傷するおそれがあります。

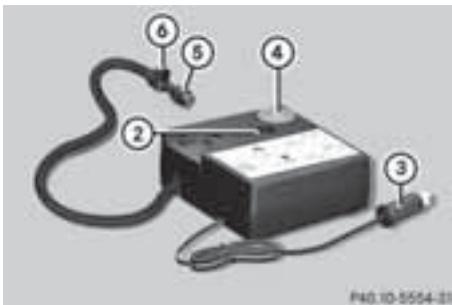
⚠ 警告

電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに貼付されている取扱方法も参考にしてください。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

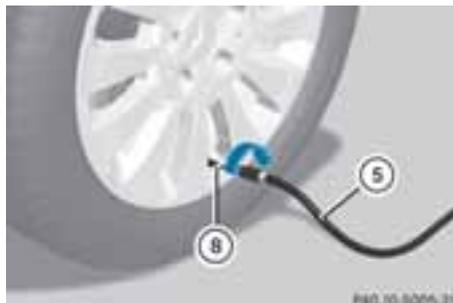
空気圧ゲージ別体型

▶ フラップ①を開いて電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

▶ 空気圧調整バルブ⑥が閉じていることを確認します。

空気圧ゲージ一体型

※電動エアポンプの種類により、電源スイッチ②の位置が異なることがあります。

▶ 電動エアポンプの裏面から電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

▶ 空気圧バルブ⑥が閉じていることを確認します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップ⑦を外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を応急用スペアタイヤのバルブ⑧に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を **0**（オフの位置）にします。

▶ 電源プラグ③をセンターコンソール後方の 12V 電源ソケット（▷240 ページ）に差し込みます。

! ライター用ソケットやラゲッジルームの 12V 電源ソケットには電源プラグ③を差し込まないでください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を **I**（オンの位置）にします。

電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

▶ 空気圧ゲージ④が 3.0 バールになったら、電動エアポンプの電源スイッチ②を **0**（オフの位置）にします。

▶ 3.0 バールを超えたときは、空気圧調整バルブ⑥をゆるめて、空気を抜いて調整します。

▶ 12V 電源ソケット電源プラグ③を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホース⑤を取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

! 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください。

! 電動エアポンプの最大連続作動時間を守ってください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。最大連続作動時間は、電動エアポンプに貼付されているステッカーに記載されています。

! 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

! 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。

! 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋を着用して作業を行なってください。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。

▶ ジャッキハンドルを繰り返し操作し、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

! ジャッキハンドルは、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けないと、ジャッキダウンできません。

ホイールボルトの締め付け

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 15 kg-m（150Nm）です。

⚠ 警 告

ホイールを交換した後は、すみやかにホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤはラゲッジルーム内に収納し、確実に固定してください。

i 応急用スペアタイヤを装着して走行したときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。

タイヤフィットでの修理 *

タイヤフィットが車載されている車種は、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理します。

パンクしたタイヤをタイヤフィットで修理すると、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が－ 20℃以上のときに使用できます。

⚠ 警告

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。
  - ◇ タイヤの傷が約 4mm 以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合
  - ◇ タイヤの接地面以外に傷がある場合
  - ◇ ホイールに損傷がある場合
  - ◇ タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が完全に抜けた状態のタイヤで走行した場合

  このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

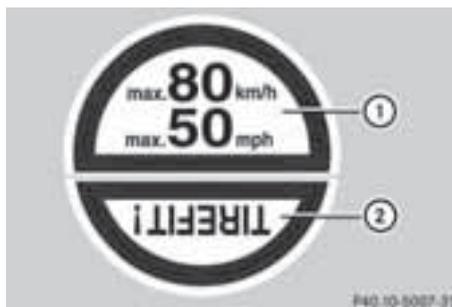
! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

タイヤフィットの準備

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。

▶ ラゲッジフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

▶ タイヤフィットに付属の最高速度表示のステッカー①をはがし、運転者の見やすい場所に貼ります。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にタイヤフィット使用表示のステッカー②を貼ります。

⚠ **警 告**

タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。

- 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。

- 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。
- タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

⚠ 警告

使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付してあります。使用する前に内容を確認してください。

仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ別体型）

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプのフラップ②を開きます。

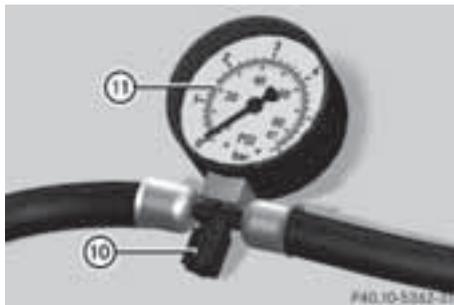
▶ 電源プラグ⑤とエアホース⑥を取り出します。

▶ エアホース⑥をタイヤフィット①のバルブ⑦に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑦を下にして持ち、電動エアポンプの凹部③に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑨からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

▶ 空気圧調整バルブ⑩が閉じていることを確認します。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 12V 電源ソケット（▷240 ページ）に、電源プラグ⑤を差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑥を、タイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ **警 告**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ 12V 電源ソケットから電源プラグ⑤を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑨からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑥を修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージ⑪でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **警 告**

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達するまで、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えた場合は、空気圧ゲージ⑪の空気圧調整バルブ⑩を緩めて調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ **警 告**

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約80km/h です。

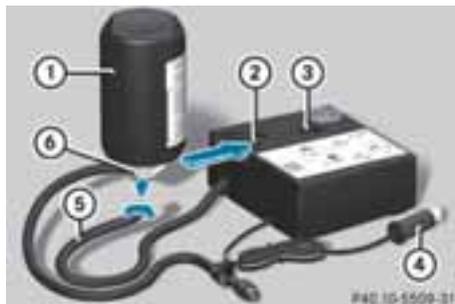
最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環 境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

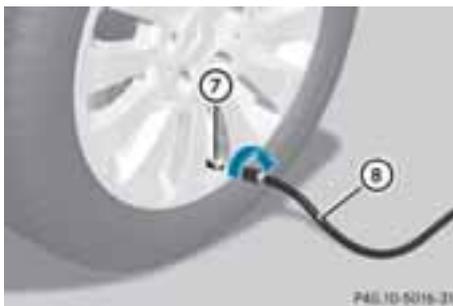
▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ一体型）

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ④とエアホース⑤を取り出します。

▶ エアホース⑤をタイヤフィット①のバルブ⑥に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑥を下にして持ち、電動エアポンプの凹部②に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑦からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 12V 電源ソケット（▷240 ページ）に、電源プラグ④を差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を、タイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ **警 告**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ 12V 電源ソケットから電源プラグ④を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑦からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

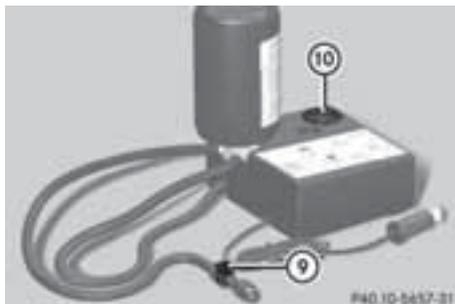
! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑤を修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージ⑩でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ 警告

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達するまで、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えた場合は、タイヤフィットのホース⑧の先端にある空気圧調整ボタン⑨を押して調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 警告

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約 80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環 境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 火花が出ないように注意してください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ **警告**

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

i 必要でなければ、駐車時はエンジンスイッチからキーを取り外してください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときはわずかに電力が消費され、バッテリーを消耗します。

i バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

環境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

バッテリーの位置

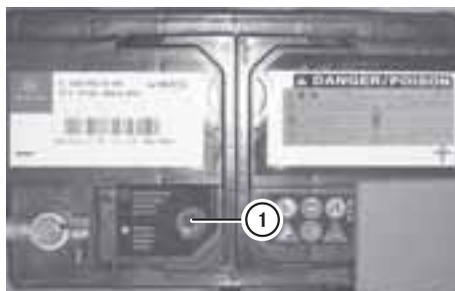
バッテリーは右側フロントシート下部にあります。

バッテリーの交換や充電はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動するときは、エンジンルーム内の端子にブースターケーブルを接続してください（▷339 ページ）。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

インジケーター付きバッテリー

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。ブースターケーブルは、十分な容量と太さのあるケーブルを使用してください。

他車のバッテリーとブースターケーブルを接続するときは、エンジンルームの向かって左側にある⊕端子と⊖端子にブースターケーブルを接続します。

⚠ 警 告

- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

燃焼していない燃料が排気システムに集まり、発火するおそれがあります。エンジン始動操作を長時間繰り返さないでください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

急速充電器を使用してエンジンを始動しないでください。他車のバッテリー、または予備のバッテリーを使用してエンジンを始動するときは、以下の点に従ってください。

- すべての車両でバッテリーにケーブルを接続できるわけではありません。バッテリーのケーブルを接続できないときは、予備のバッテリーまたはエンジン始動器具を使用してエンジンを始動してください。
- エンジン始動はエンジンおよび触媒が冷えているときに行ってください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジンを始動しないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- 12V のバッテリーからのみエンジンを始動してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。
- バッテリーが完全に放電しているときは、エンジン始動を試みる前に救援用のバッテリーと数分間ケーブルを接続したままにしてください。これにより、完全放電したバッテリーが多少充電されます。
- 自車と救援車が接触していないことを確認してください。

また、以下の点に注意してください。

- ブースターケーブルが損傷していないことを確認してください。
- バッテリーにブースターケーブルが接続されている間は、ターミナルクランプの絶縁されていない器具が他の金属部品に触れないようにしてください。
- ブースターケーブルが V ベルトやファンなどに触れないようにしてください。エンジンが始動すると、これらが動き出します。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ シフトポジションを P にしてください。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車のイグニッション位置を **0** にして、電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

⑦は他車のバッテリーまたはエンジン始動用器具を示しています。

▶ 自車の⊕端子カバー①を矢印の方向に開きます。

▶ 自車の⊕端子②に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリー⑦の⊕端子③に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリー⑦の⊖端子④に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車の⊖端子にキャップ⑤が取り付けられているときは、キャップを取り外します。

▶ 自車の⊖端子⑥に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ ブースターケーブルの接続を外す前に、数分間エンジンをかけたままにします。

▶ 先に黒色ブースターケーブルを両車のバッテリーの⊖端子から外し、それから赤色ブースターケーブルを両車のバッテリーの⊕端子から外します。いずれの場合も、自車の端子から外します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ⓘ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動は、正常な操作ではありません。

ⓘ ブースターケーブルや他車のバッテリーを電源としたエンジン始動についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

けん引

けん引時の注意

⚠ **警告**

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。

! 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

! キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチではなくキーを使用してください。運転席ドアを開いたときにシフトポジションが P になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

けん引するときは、シフトポジションが N になっていることを確認してください。

バッテリーが接続され、充電されていることを確認してください。接続されていないか、充電されていないときは、以下のようになります。

- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわせなくなります。
- シフトポジションを **N** にできなくなります。

ℹ けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷76 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

けん引されるときは、けん引防止機能 * を解除してください(▷ 59 ページ)。

けん引フックの取り付け / 取り外し

けん引フックの取り付け

▶ 車載工具（▷291 ページ）からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

⚠ **警 告**

リアのカバーを取り外すときは、マフラーに注意してください。マフラーは高温になるため、マフラーに触れると火傷をするおそれがあります。

けん引フックの取り付け位置は前後バンパーのカバー内部にあります。

▶ マーク部を矢印の方向に押して、カバー ① を外します。

※ 仕様により、カバー ① の形状やマーク部の位置は異なります。

▶ 内部のネジ穴に、けん引フックを時計回りにまわしてねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分などを使用して確実に締め付けます。

けん引フックの取り外し

▶ ホイールレンチの柄の部分などを使用して、けん引フックを反時計回りにまわします。

▶ けん引フックを取り外します。

▶ けん引フックのカバーを取り付けます。

▶ けん引フックを車載工具に収納します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

けん引する

けん引するときは安全に関する注意に従ってください（▷342 ページ）。

⚠ **警 告**

エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。

運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、シフトポジションは自動的に **P** になります。けん引するときは、以下の方法に従ってシフトポジションを **N** のままにしてください

▶ 停車して、エンジンスイッチのキーのイグニッション位置を **0** にします。

▶ エンジンスイッチのキーのイグニッション位置を **2** にします。

キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用します（▷83 ページ）。

▶ ブレーキペダルを踏んで保持します。

▶ シフトポジションを **N** にします。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます（▷113 ページ）

▶ エンジンスイッチのキーのイグニッション位置を **2** のままにします。

ⓘ 非常点滅灯を点滅させたままけんしているときに進行方向を変更するときは、通常通りコンビネーションスイッチを操作してください。操作した方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻すと、再度非常点滅灯が点滅します。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ シフトポジションを **N** にします。

▶ 車を積載したら、パーキングブレーキを効かせて、車が動き出さないようにします。

▶ シフトポジションを **P** にします。

▶ エンジンスイッチのキーのイグニッション位置を **0** にします。

▶ 車を固定します。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションやメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

4MATIC 車のけん引に関する注意

! 4MATIC 車は、フロントまたはリアのみを持ち上げた状態でけん引しないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

トランスミッションまたはフロント / リアアクスルを損傷しているときは、車両運搬車で運搬してください。

電気システムが損傷しているとき

バッテリーに不具合があるときは、シフトポジションが P に固定されます。他車のバッテリーを電源としたエンジン始動と同様に、車両の電気システムに電力を供給しなくてはなりません（▷339 ページ）。

電力が供給できない場合は、車両運搬車で運搬してください。

ぬかるみなどからけん引するとき

! ぬかるみなどで動けなくなったときは、急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。引き出す力が強いと、車両を損傷するおそれがあります。

ぬかるみなどで動けなくなったときは、注意してけん引してください。

トレーラーをけん引している場合は、絶対にトレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。

できるだけ走行してきたわだちに沿って後方へ車両を引き出してください。

押しがけ

押しがけでエンジンを始動することはできません。トランスミッションを損傷します。他車のバッテリーを電源としたエンジン始動については（▷339 ページ）をご覧ください。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

⚠ **警 告**

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 以下のようなときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

! ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

! ヒューズボックスのカバーは、ヒューズボックスに密着するように取り付けてください。ほこりや湿気が入るおそれがあります。

! ヒューズボックスを開くときに、先のとがったものを使用しないでください。カバーやダッシュボードを損傷するおそれがあります。

❗ エンジンルーム内のヒューズボックスを点検するときは、必ずワイパーを停止して、エンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動するとけがをするおそれがあります。

ヒューズの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- エンジンルーム向かって左側
- ラゲッジルーム
- ダッシュボード右側

エンジンルーム内のヒューズボックス

▶ ノブ①を矢印の方向に引き上げます。

▶ カバー②を取り外します。

❗ カバーを取り付けるときは、ヒューズボックスのシールが正しく密着するようにしてください。また、ノブ①を確実に押し込んで、カバーを装着してください。

ラゲッジルームのヒューズボックス

ラゲッジルームのヒューズボックスは、ラゲッジフロアボード下の右側にあります。

▶ ラゲッジフロアボードを開きます(▷289 ページ)。

▶ 右側の内張り①を矢印の方向にめくります。

▶ 内部にある内張りをめくります。

ダッシュボード右側のヒューズボックス

▶ 切り欠き部①にマイナスドライバーなどを差し込んで、カバー②を開きます。

▶ カバーを取り付けるときは、最初にカバーの上部を差し込みます。

ℹ ドライバーなどの先端を布切れなどで覆うと、カバーなどの損傷を防ぐことができます。

ヒューズを交換する

▶ 停車します。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、ヒューズが切れている（溶断）ときは、同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズ一覧

ダッシュボード右側のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
10	10A	リアエアコンディショナーブロアモーター
11	5A	インストルメントパネル
12	15A	エアコンディショナーモジュール
13	5A	ステアリング調整 スイッチパネル
14	7.5A	イグニッションロック
15	5A	コンパスモジュール メディアインターフェース
16	—	未使用
17	—	未使用
18	—	未使用

ラゲッジルームのヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
20	5A	アンテナ
21	5A	リアエアコンディショナーコントロールパネル
22	5A	パークトロニック 余熱ヒーター / ベンチレーション
23	10A	携帯電話ユニット
24	40A	シートベルトテンショナー
25	15A	COMAND システム
26	25A	助手席側ドアコントロールユニット
27	30A	助手席シート調整
28	30A	運転席シート調整
29	40A	シートベルトテンショナー
30	40A	燃料ポンプコントロールユニット
31	10A	オプション
32	15A	オプション
33	25A	キーレスゴー
34	25A	運転席側ドアコントロールユニット
35	30A	オーディオアンプ
36	10A	VICS システム
37	5A	パーキングアシストリアビューカメラ
38	10A	COMAND システム
39	7.5A	タイヤ空気圧警告システム
40	30A	EASY-PACK 自動開閉テールゲート
41	25A	ルーフユニット
42	25A	パノラミックスライディングルーフ
43	20A	燃料ポンプコントロールユニット
44	—	未使用
45	20A	12V 電源ソケット（センターコンソール後方、ラゲッジルーム）
46	15A	ライター

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
47	10A	オプション
48	5A	オプション
49	30A	リアデフォッガー
50	15A	リアワイパー
51	5A	エンジンコントロールユニット
52	5A	オプション
53	5A	燃料ポンプコントロールユニット
54	5A	ヘッドライト照射角度調整
55	7.5A	インストルメントパネルライトスイッチ
56	5A	オプション
57	20A	燃料ポンプ
58	7.5A	自己診断ソケット
59	7.5A	NECK PRO アクティブヘッドレスト
60	5A	グローブボックス照明 フロントワイパー VICS システム
61	7.5A	エアバッグシステム
62	—	未使用
63	—	未使用
64	—	未使用
65	—	未使用
66	30A	マルチコントロールシートバック
67	25A	送風口（後席）
68	—	未使用
69	—	未使用
70	—	未使用
71	—	未使用
72	—	未使用

エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
100	30A	フロントワイパー
101	15A	エンジン制御
102	—	未使用
103	20A	エンジン制御
104	15A	エンジン制御
105	15A	エンジン制御 エンジンスターター
106	—	未使用
107	40A	二次エアポンプ
108	40A	オプション
109	25A	ESP®
110	10A	ホーン （盗難防止警報システム）
111	30A	オートマチックトランスミッション
112	7.5A	ヘッドライト照射角度調整
113	15A	ホーン
114	5A	エンジンコントロールユニット
115	5A	ESP®
116	7.5A	オートマチックトランスミッション
117	7.5A	オプション
118	5A	エンジンコントロールユニット
119	—	未使用
120	10A	エンジンコントロールユニット
121	20A	余熱ヒーター / ベンチレーション
122	25A	エンジンスターター
123	—	未使用
124	—	未使用
125	—	未使用

（2010-05-05 A164 006 67 99）

ⓘ ヒューズ配置表（英文）は、車載工具またはラゲッジフロアボード下にも収納されています。ヒューズ配置表にはヒューズ容量も記載されています。

ⓘ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 警 告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

環 境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ⓘ 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

車両の電子制御部品について

⚠ 警 告

電子制御部品やその構成部品にかかわる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

特に、安全装備や安全に関わるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両との適合性に影響を与えるおそれがあります。

! 電子制御部品およびそれに関わるコントロールユニットやセンサー、配線類などのメンテナンス作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! ウインドウに透明な吸盤を貼付しないでください。透明な吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

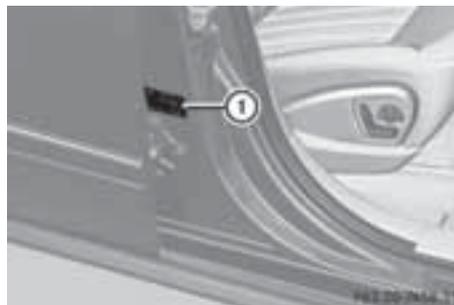
- ドア
- ピラー付近
- サイドシル付近
- シート
- ダッシュボード
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- エアバッグ収納部
- シートベルト

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

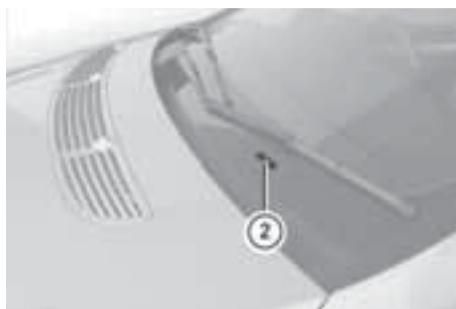
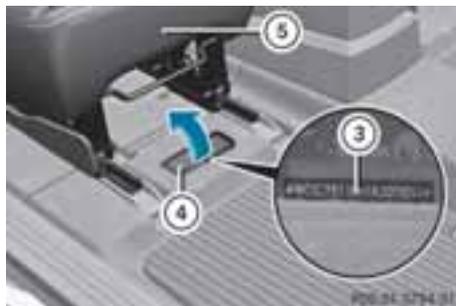
ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号などが必要になることがあります。

車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

運転席側または助手席側のセンターピラー下部に、車台番号およびカラーコードを記載したニューカープレート①が貼付されています。

車台番号

車台番号②は、ダッシュパネルの図の位置に表示されています。また、右側セカンドシート下部のボディフレームにも車台番号③が打刻されています。

右側セカンドシート下部の車台番号を確認する

▶ 右側セカンドシート⑤をもっとも後ろの位置まで下げます。

カバー④を矢印の方向に開きます。

車台番号③が確認できます。

オプションコードプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを示すプレート⑥が貼付されています。

エンジン番号

エンジンブロック後部にエンジン番号⑦が打刻されています。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずDaimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 燃料やエンジンオイルの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の適用外になります。

i 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ 警告

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

⚠ 警告

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 警告

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 80 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 13 ℓ

! 軽油を給油しないでください。少量でも軽油が混じるとエンジンを損傷するおそれがあります。誤った燃料を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 燃料には無鉛プレミアムガソリンを使用してください。指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

環 境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2排出量を最小限に抑えることができます。

エンジンオイル

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

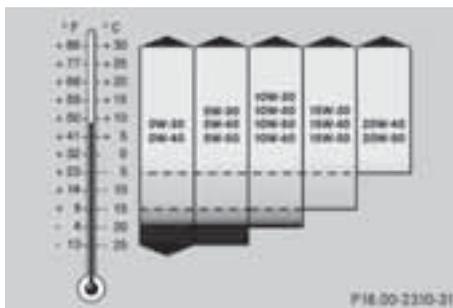
エンジンオイル容量

エンジンオイル容量	約 8.0 ℓ

i 容量は、オイルフィルター分を含む、交換時の数値です。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください。

⚠ 警告

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	－ 37℃
約 55%	－ 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

⚠ **警告**

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ **警告**

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドライトウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	95Ah

積載荷物の制限重量

ルーフ	100kg

ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

テールゲートを開いたときの高さ

① テールゲートを開いたときの高さ（外側）
② テールゲートを開いたときの高さ（内側）

テールゲートをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	2047 ～ 2074mm
②	1901 ～ 1927mm

タイヤ、積載荷物、オプション装備品やサスペンションの状態などにより、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷263 ページ）。

i 左右には必ず同サイズのタイヤ / ホイールを装着してください。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	ホイール材質
R 350 4MATIC	255 / 55R18	8.0J × 18	67mm	軽合金
R 350 4MATIC スポーツスタイリングパッケージ	265 / 45R20	8.5J × 20	60mm	軽合金

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
255 / 55R18	8.0J × 18	67mm
255 / 50R19	8.0J × 19	67mm
255 / 50R19	8.5J × 19	64mm
265 / 45R20	9.0J × 20	60mm
前輪 265 / 40R21 後輪 265 / 40R21	前輪 9.0J × 21 後輪 9.0J × 21	前輪 60mm 後輪 48mm

! 20 インチおよび 21 インチタイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

応急用スペアタイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	ホイール材質	タイヤ空気圧
195 / 75-18	6.5B × 18	40mm	スチール	3.0bar / 44psi

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

ウィンタータイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
255 / 55R18 M+S	8.0J × 18	67mm
255 / 50R19 M+S	8.0J × 19	67mm
	8.5J × 19	64mm

! ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

i スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着できます。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

対象モデル

R 350 4MATIC

"ESP®" は Daimler AG の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2011 年 9 月現在のものです。

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目 9 番 9 号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32420-091100120 K
6515 1848 20 ÄJ2011-2a, 10/11